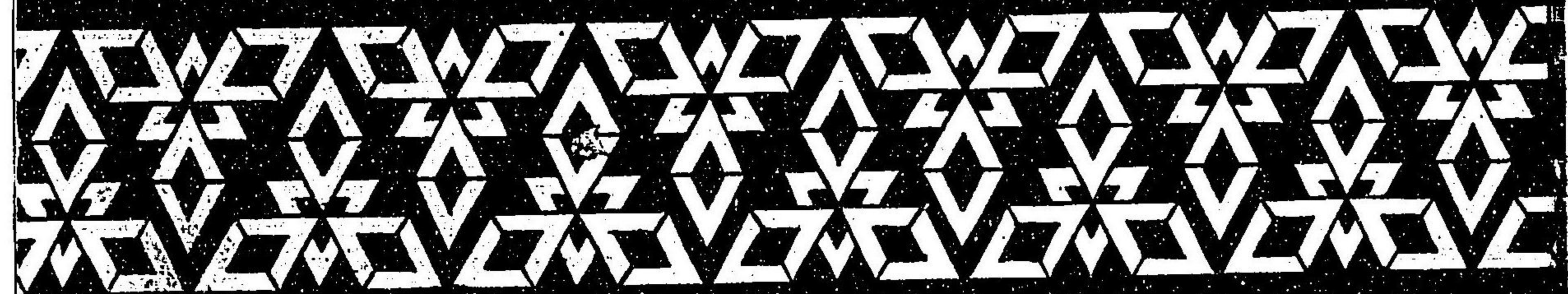


福園市案內記

74
671



24-671

福岡市案内目次

光復神社と西公園の樓
 高崎家柳門と柳田神社
 龜山山王廟銅像と日蓮上人銅像
 西中島橋の今昔
 共進會本館と福岡市役所
 千代の松原と醫科大學の正門
 博多商業會議所と物産陳列所
 東公園の雪景
 博多停車場と博多港の遠望
 那戸之濱と西公園の遠望

廣告

今宿礦泉場
 松居博多織工場
 伊藤喜九州支店
 十七銀行
 密藏製作所
 高取燒窯元
 ①吳服店
 袋屋吳服店
 磯野本店鐵道所
 磯野支店金物店
 徳永鐵工場
 共濟生命保險株式會社
 柳橋學校用器具製作所
 内國通運株式會社
 寺門天心堂

村塚洋品店
 木下洋服部
 木梨久、吳服店
 稱名寺大佛
 紙與吳服店
 大同生命保險株式會社
 幸田船具店
 日本生命保險株式會社
 平助筆木店河原田
 抱洋閣、湖湯

明治
 43. 3. 30
 内交

記事

● 總説

位置 廣袤

地勢

氣候

人口及地籍

市街

市行政機關

沿革

福岡

博多

● 教育と宗教

小學校

中等教育諸學校

私立學校

商業學校

醫科大學
 工科大學
 幼稚園
 孤兒院
 盲啞學校
 感化院
 教育支會
 圖書館
 市民信仰心
 神社と神道
 佛敎
 基督教

●衛生と警備……………一七
 大學醫院
 市立荒津病院
 市民健康師
 消防組
 水難救護組
 巡查派出所
 尙武……………二〇
 旅團司令部
 福岡聯隊
 尙武會
 在郷軍人團
 武徳殿
 町道場
 學校の武術
 野球

庭球
 端走
 ●新聞及雜誌……………二四

廣告

博多機糸源商會
 河内糸店
 河内あせ店、洋品店
 深見本店鑄造場
 深見支店金物部
 うなぎや末廣
 有田焼林支店
 安部松次郎酒類店
 御料理滿月
 萬町醬油白木
 建築土木請負竹田
 井上染料店
 銘酒此乃美釀造元
 檜崎博多校、博多織店
 白水看板店
 野村陶器店
 有浦特許品店
 高田製靴所
 吉塚うなぎや
 土木建築請負岩崎
 二九瓶釀造元
 荒巻硝子器店
 立石乾物店
 上西醬油興村

百田吳服、はきもの店
 中西博多織工場
 鐘酒綺杉釀造元
 和田和洋菓子店
 首藤浦鹽更砂店
 博名人形後藤

工業……………二五

重なる工場
 重なる工産品
 博多織
 博多絞
 博多人
 素焼物
 文多車
 博多靴
 博多鉄
 博多焼
 高取焼
 物産陳列場

商業……………三五

集散貨物
 開港場
 外國貿易
 國內商業
 會社
 銀行
 金取所
 取引所

農業及び漁業……………四七

市會
 倉庫
 商業會議所
 商品陳列館
 漁業
 製鹽
 沖獨活
 養蠶
 肥料

廣告

◎吳服店
 みやこたび製造元
 みやこたび發賣元
 御料理とり惣
 立石材木問屋
 西洋料理共進亭
 倉東店 博多織店、博多絞店
 上田材木店
 月上胃腸病院
 寶來和洋菓子店
 兒島洋品店
 水野旅館
 河原博多織店
 宮脇度量衡器工場
 大島眼科醫
 内田海産乾物店
 飯野乾物店、吳服店
 社家問米穀店

青木村木問屋
美術造花原料松尾
博多細工人形
中村生糸店、酒店
小川硝子店
五福醬油奥村
光安茶店
相部商店金物部、電機部
山田文具店久松屋
關口醫院
吉本人造温泉
島井石判印刷所
博多人形井上

記事

●交通運輸……………四八
通 路
博多停車場
電 鐵 道
軌 道
博 多 港
貨客及出入船舶
福 岡 港
國港築設の騒
博多間航路
燈 塔
旅 館
人 力 車

●通信……………六〇
郵便局所
電 信
電 話

●官公署及び組合團體六二

官 公 署
同 業 組 合
産 業 組 合
水 産 組 合
其 他
●遊 覽……………六五
順 天 寺
四 時 の 樂
承 天 寺
聖 福 寺
東 公 園
釜 掛 松
笠崎八幡宮及び潮湯水族館
崇 福 寺
福 衣 塚
東 長 寺
萬 行 寺
柳 田 神 社
網 敷 天 滿 宮
水 鏡 天 滿 宮
宗 湛 茶 室
醫 國 神 社
福 岡 城
西 公 園

●稿 來
光 雲 神 社
益 軒 翁 墓
鳥 飼 八 幡 宮
住 吉 神 社
愛 宕 神 社
御 膳 立
菊 池 寂 阿 の 墓
平 尾 山 莊
太 宰 府 神 社
名 香 島
香 椎 宮
西 月 崎
廣 告

鳥井鐵工場
下金物店
山際久留米耕店
高橋時計店
アサヒヤビル店
杉山器械標本店
下澤小問物店
うとん、そば、井筒
筑前理髮組合
竹田酒場支店
御料理大壽樓
渡邊雜貨小問物店
奥村産物店、釣道具店
水上仕立物店
旅館肥前屋
長野岡答店

西公園よし原家
奇書、骨董、復古堂
物品問屋松葉屋
伊藤呉服卸店
松隈辰次郎本店
楠屋醬油松村
乳母車、小供自轉車久保田
御料理器の家
魚住呉服店
石刻師増田
辻ひら、引札、團扇、清華堂
是松商店
兄弟合名会社太田屋
萬利旅館

●娛樂……………七七

博多仁和加
筑前理髮
生 花
茶道と盆栽
劇場と寄場
潮 湯
料 理 店
遊 藝 場
廣 告
福島洋行
太田屋醬油
野村キル店

奥村利助商店
 矢野測量製圖器機店
 丸二吳服店
 博多紋井上
 内外發明品中村
 篠崎ホンノ金庫製工場
 中西牡丹園
 福本吳服店
 萩尾酒造所
 石堂醬油、奥村
 ゴッパケ、宮野
 岡田兩替店
 金星商會
 森下産婦人科醫院
 下澤陶器店
 三方博多織店
 徳水車力工場
 旅館あやめ館
 原病院
 古田寫眞館
 御料理活洲
 萬間屋丸善
 福岡岩田屋吳服店
 前山洋品店
 石松履物店
 博多岩田屋吳服店
 中原板硝子店硝子器店
 御料理共進會前徳永
 牟田口履物店建具店
 紙藤金物店
 やの伊料理店
 御料理掬水

刀伊入寇
 文永の役
 弘安の役
 南北朝
 戦國時代
 百姓一揆
 十年の役
 人
 物
 如 水
 長 政
 二十五騎
 栗山大膳
 島井宗室
 神屋宗満
 大賀宗伯
 伊藤小左衛門
 宮崎安貞
 具原益軒
 宮川忍齋
 稻富又百
 龜井南冥
 青柳種信
 龜井昭陽
 仙 巖
 月形深藏
 平野次郎
 中村圓太
 加藤司書
 建部武彦

月形洗藏
 野村望東
 廣告

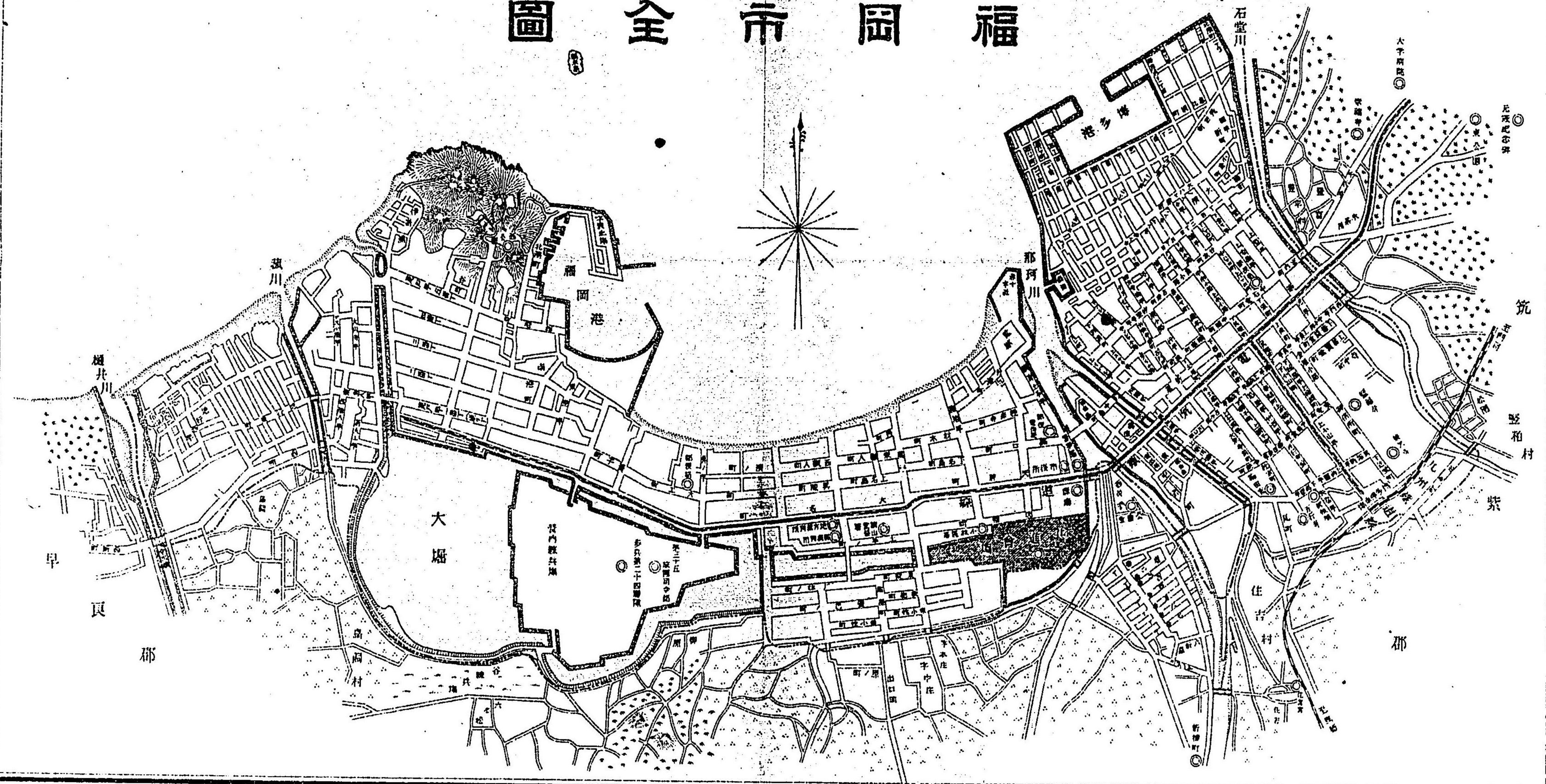
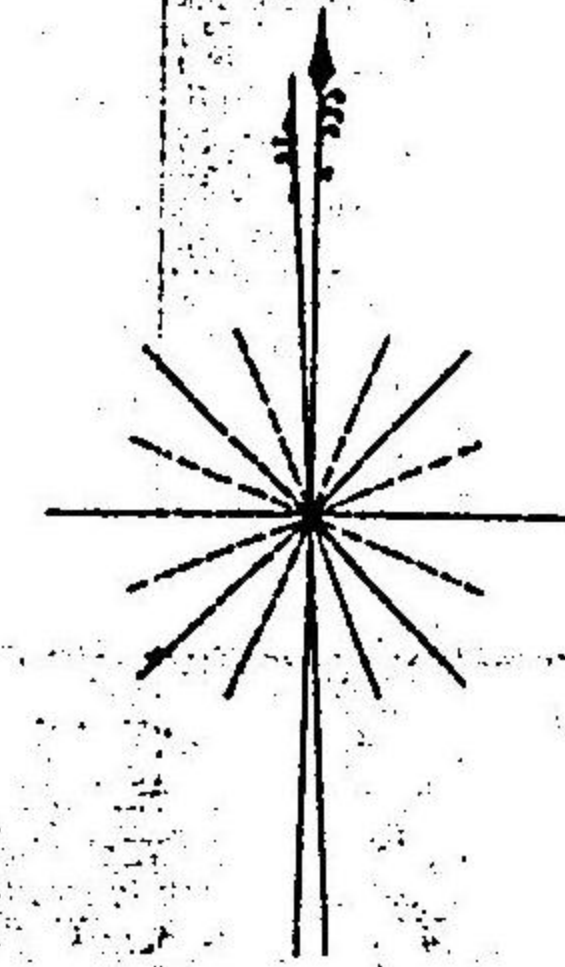
教育品展覽會
 廣告

瀧崎電氣、瓦斯、石油發動機鐵工所
 石列印刷博多堂
 矢野天年
 石村樂器店
 入江モスリン友染店
 銘酒萬代園造場

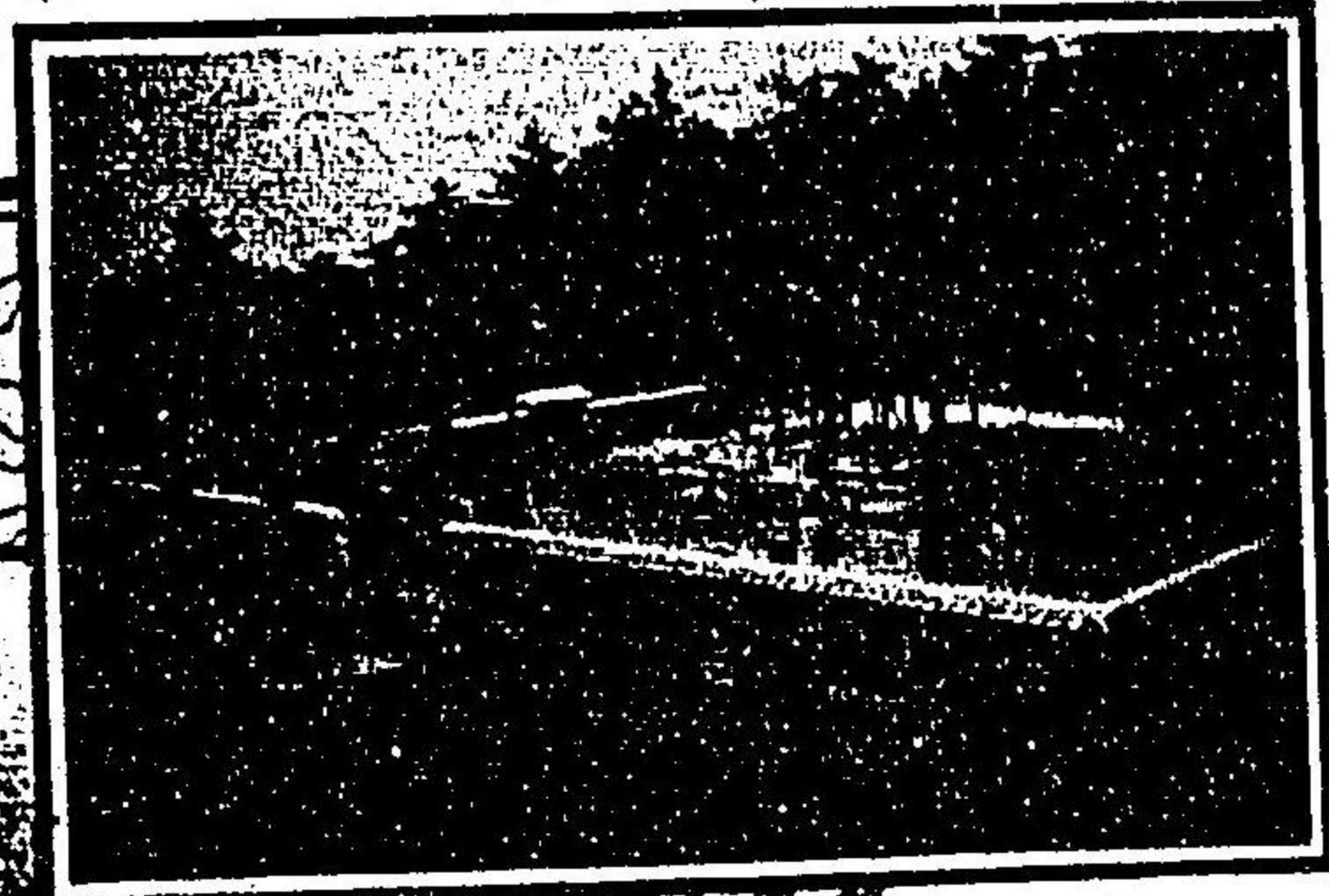
●共進會……………一〇一
 ◎附 録
 記 事
 出品種目
 審査及び褒賞
 各縣事務所
 各縣賣店
 馬匹共進會
 縣協賛會
 接待所
 演舞館
 電燈裝飾
 餘集興
 踏案内會
 市贊助會

回漕組合
 加野銘酒全盛
 三苦賣藥店
 湖産科婦人醫院
 阪本小兒科醫院
 島津製作所九州販賣店
 國光生命保險相互會社
 徳島藥店
 石列印刷岸原明治堂
 古川寫眞館
 五大、火災保險會社
 福岡貯蓄銀行
 馬頭清國雜貨店
 清水滿之助博多出張所
 土居銀行
 百三十銀行
 仁壽生命保險合資會社
 波多江瀨品店
 岩橋仕立物店
 河野耳鼻咽喉科醫院
 セイロ散那樂星堂
 千代田生命保險相互會社
 明治生命保險會社
 門司荒物店
 青木吳服店
 三吼醬油鬼木

福岡市全圖

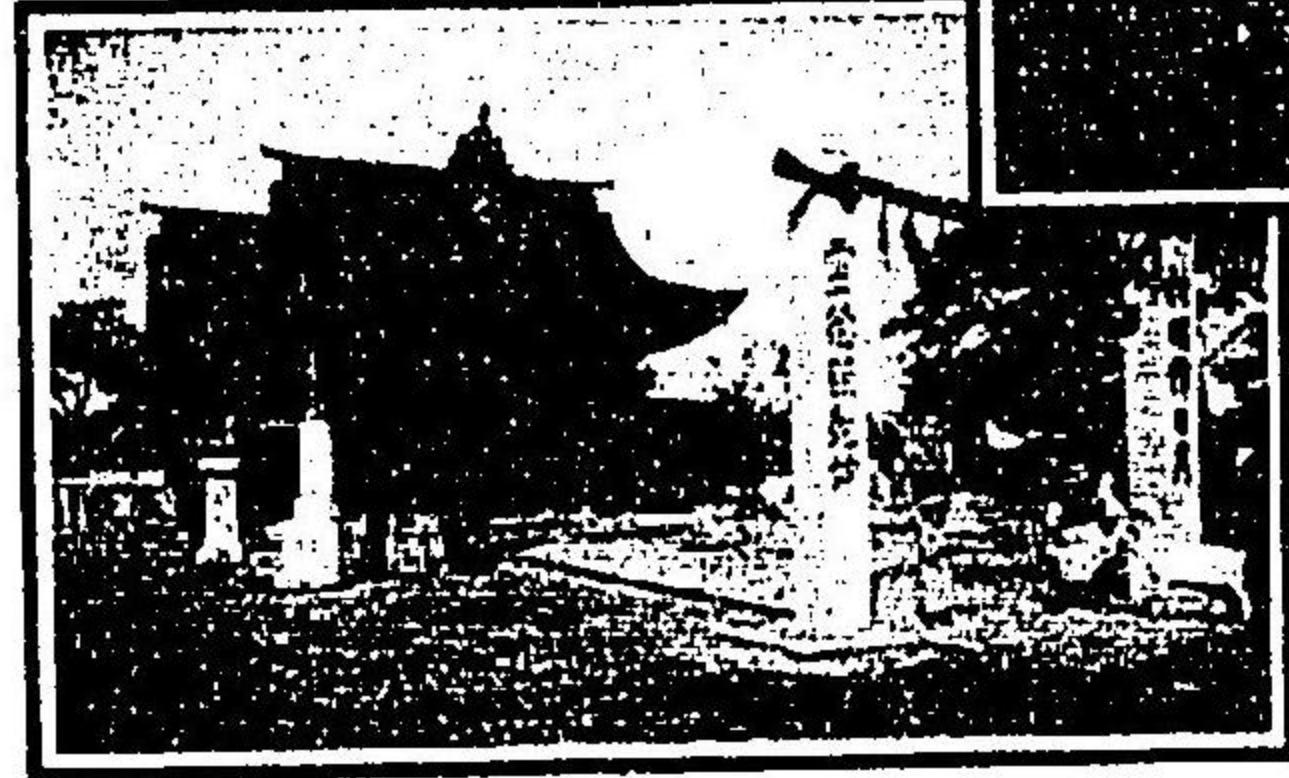


光 雲 神 社



西 公 園 之 櫻

筑崎宮之樓門



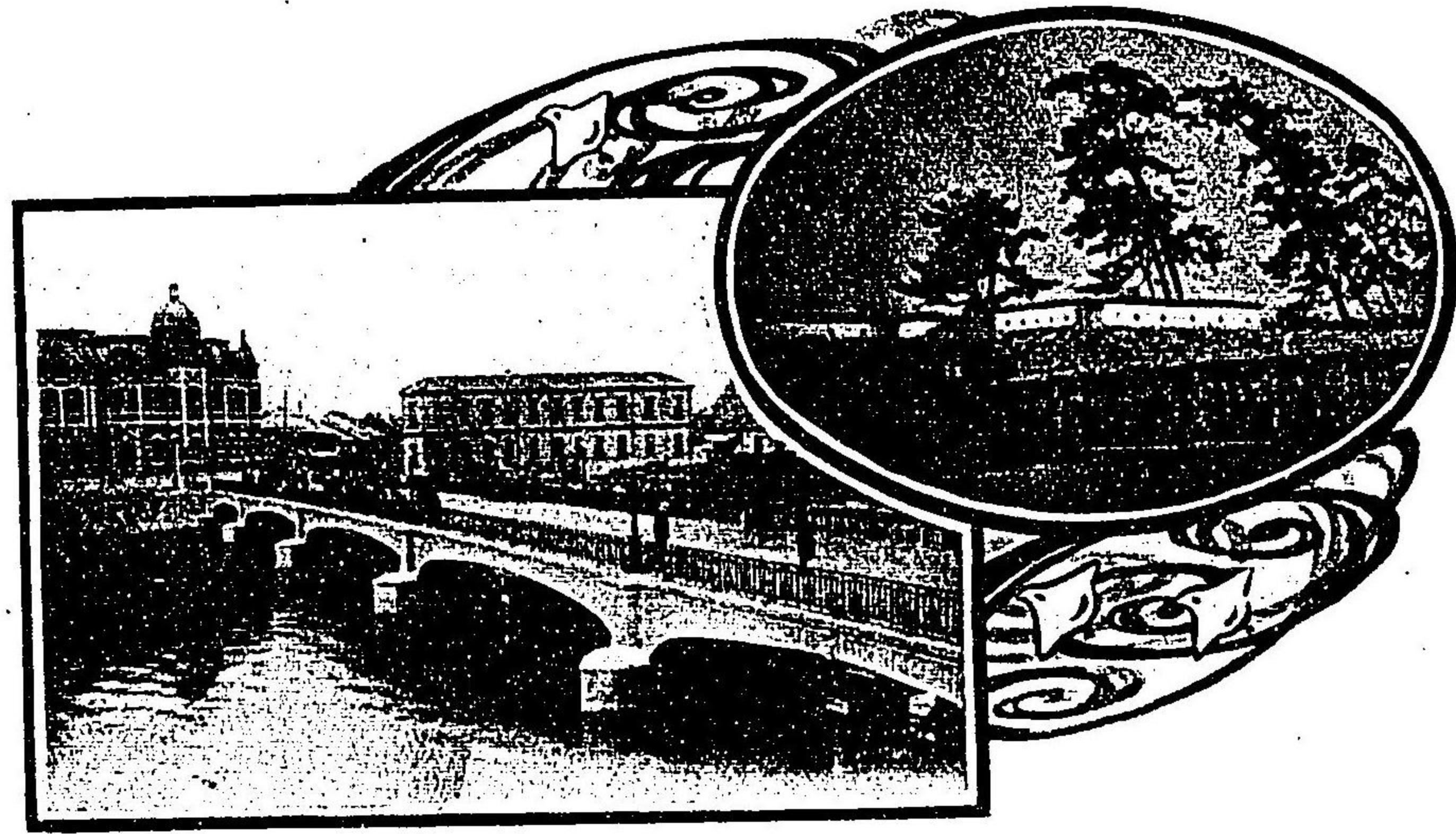
社神田御

像銅御之皇上山龜

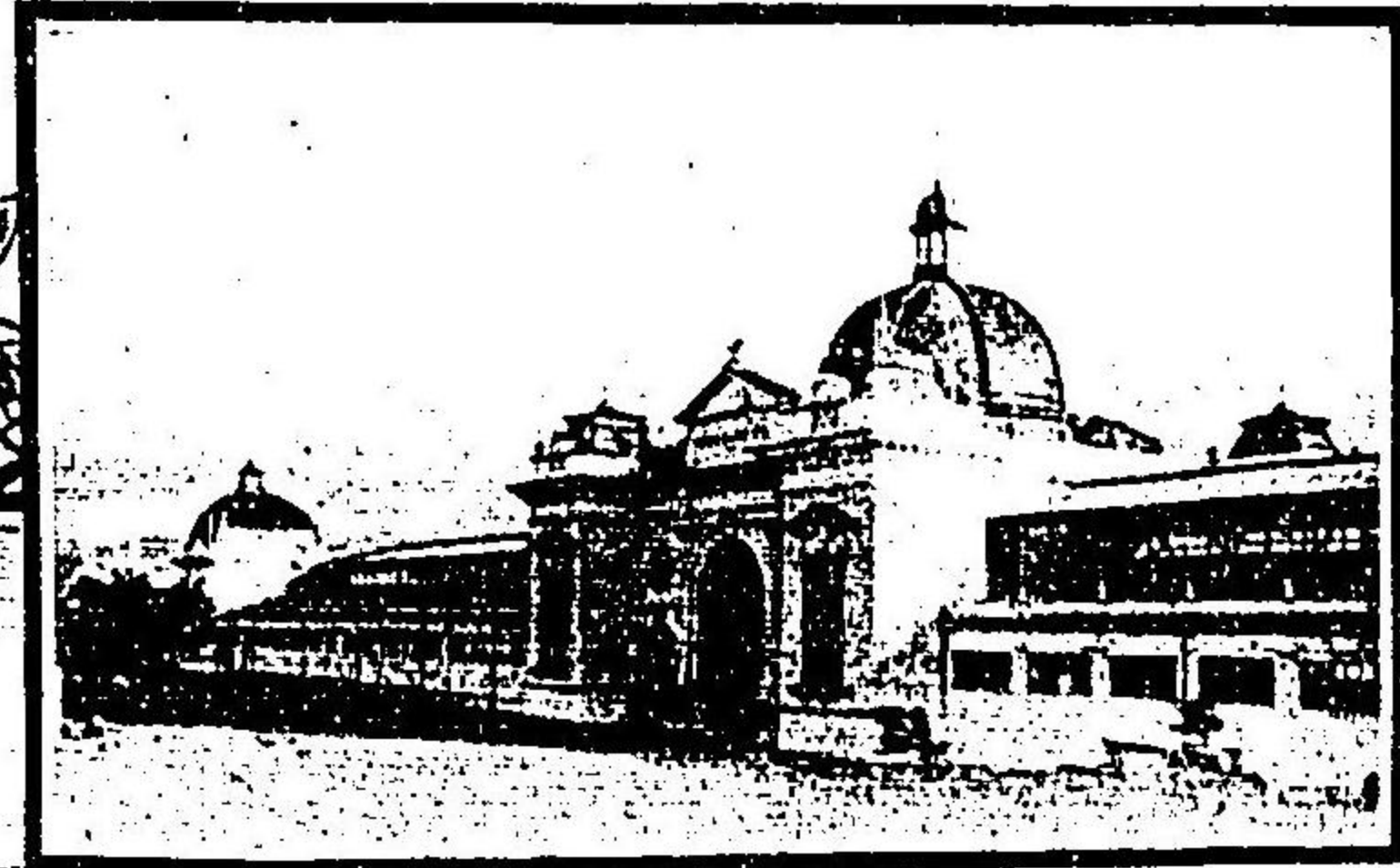


像銅之人上蓮日

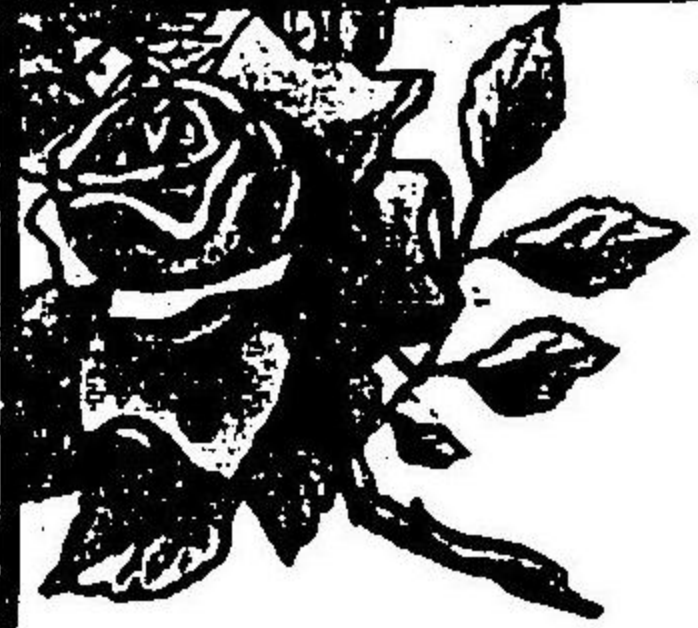
西 中 島 橋 之 今 昔



館本會進共



所役市岡福

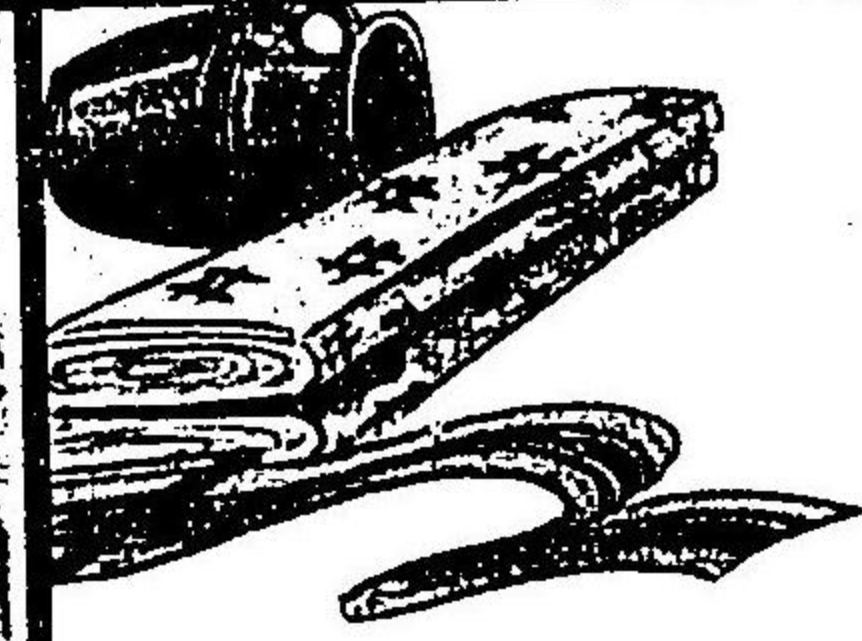
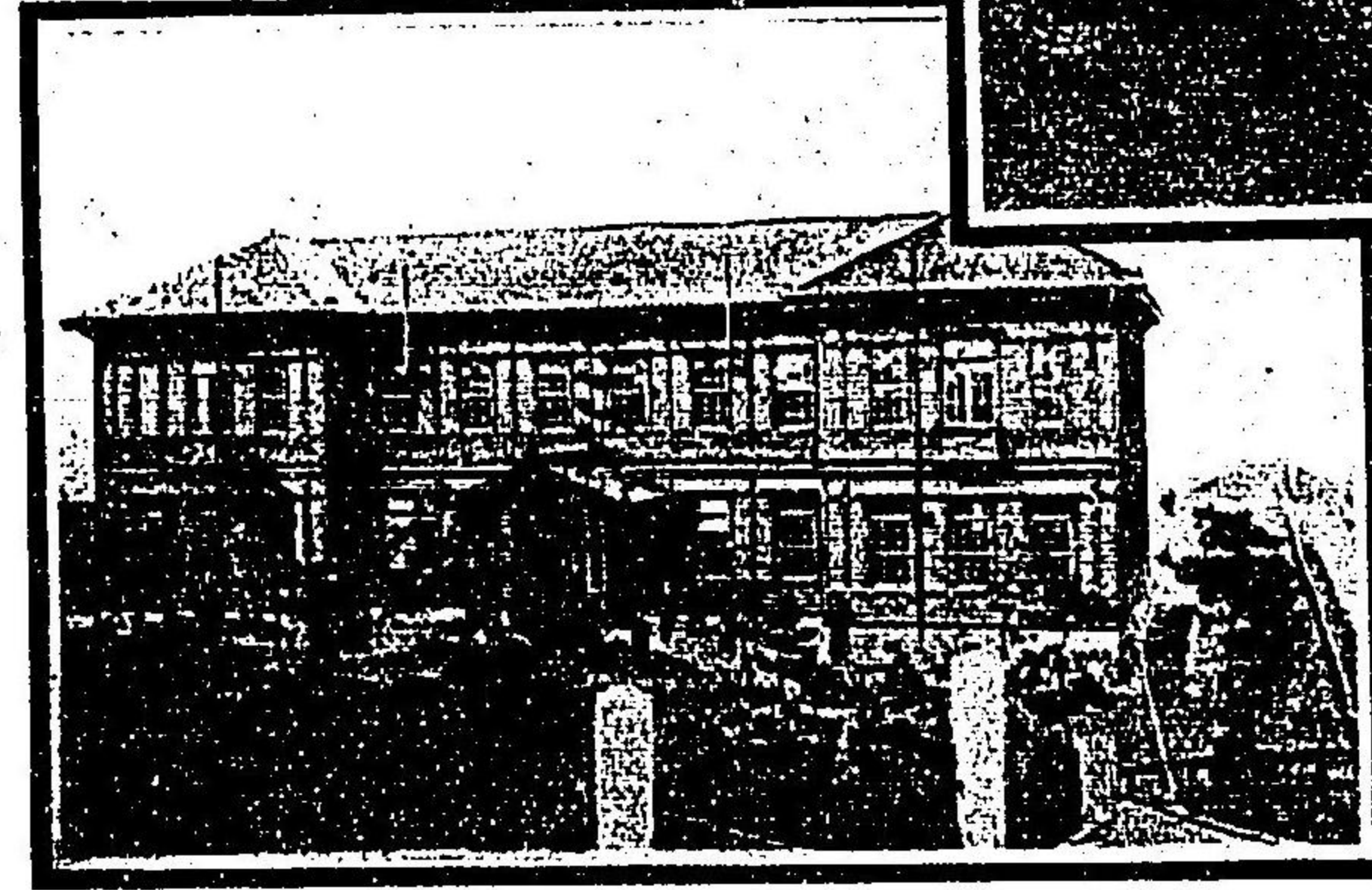


千代松の原



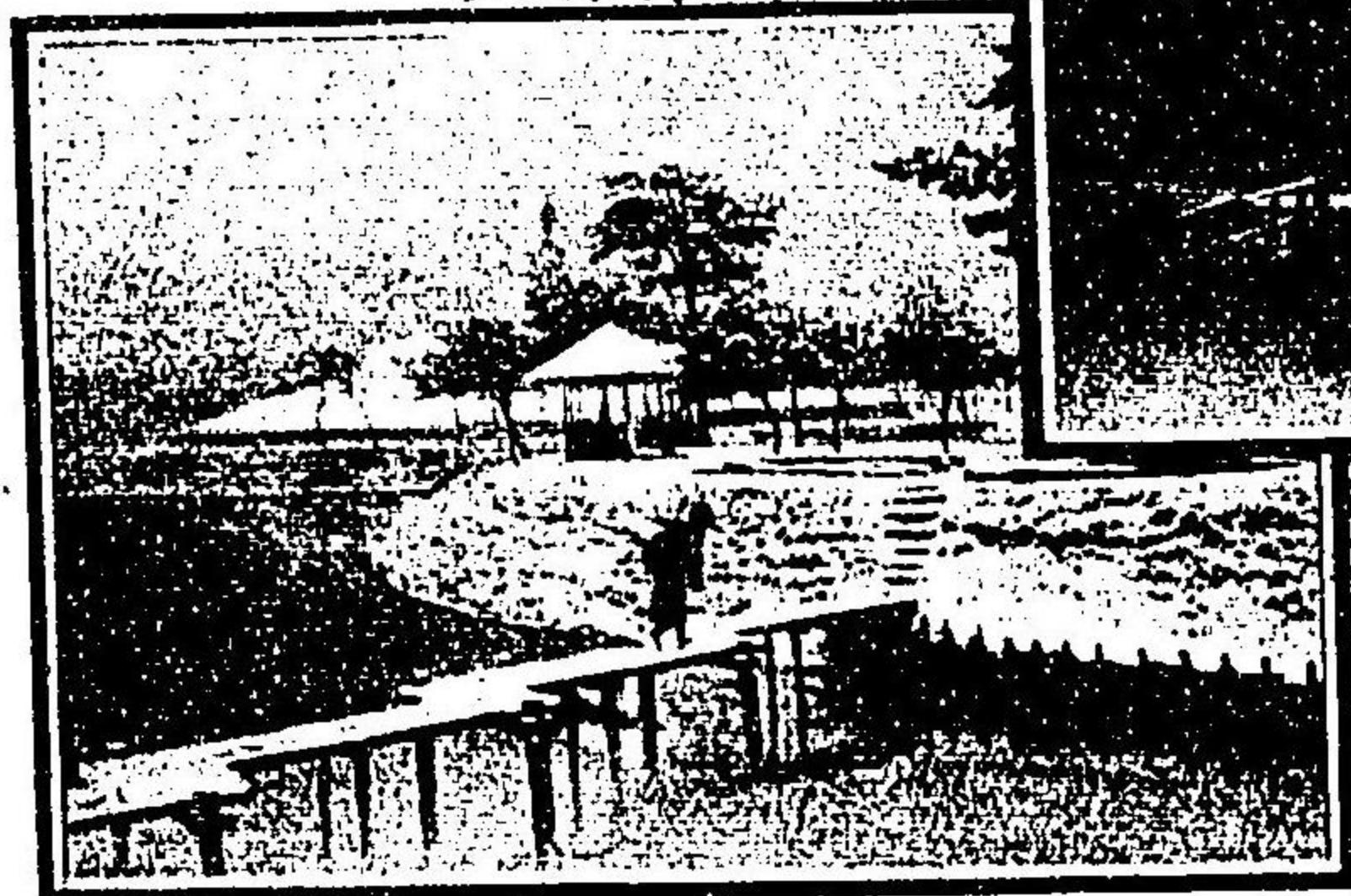
醫科大學之正門

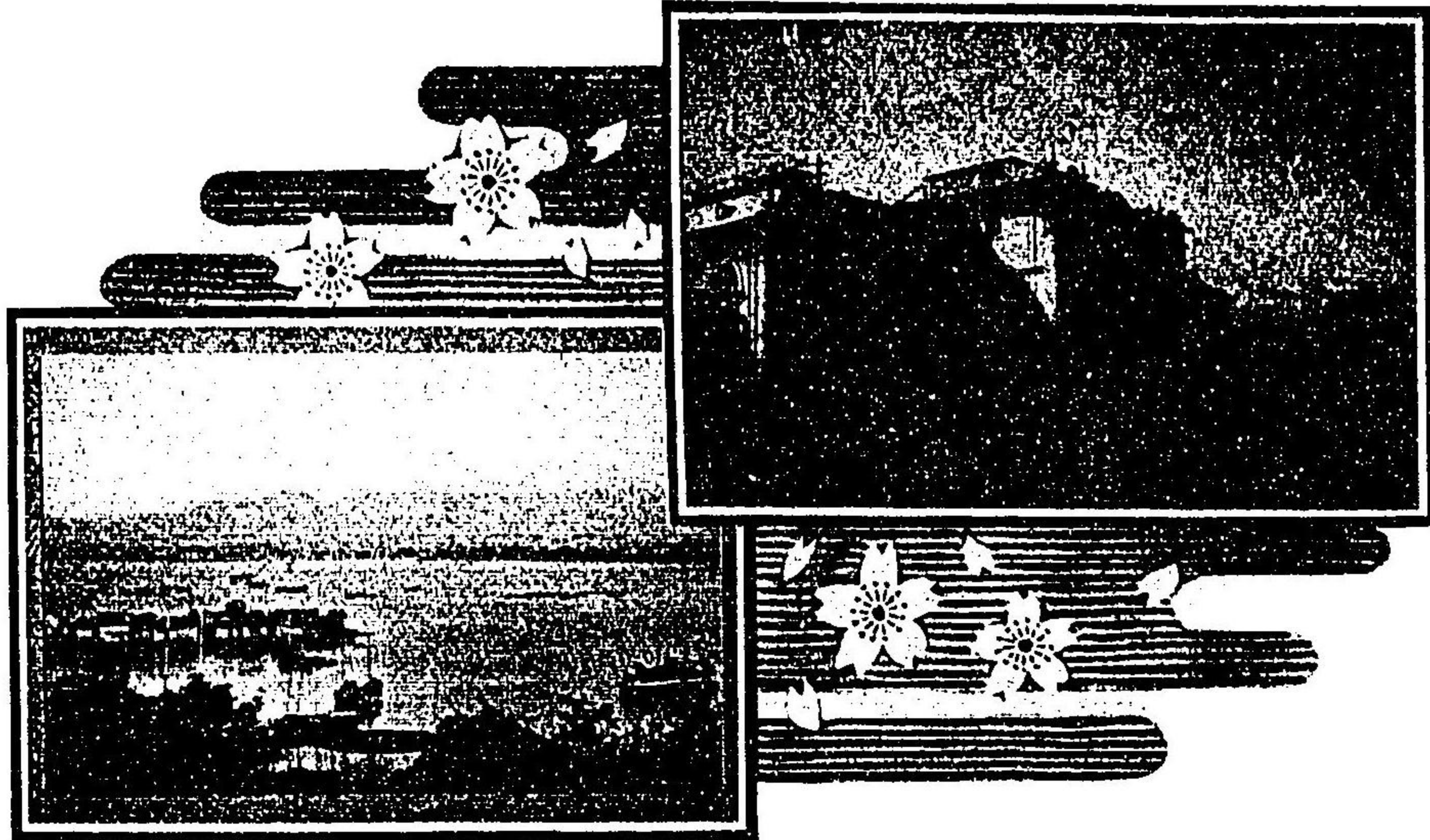
博多商業會議所



所 列 陳 產 物

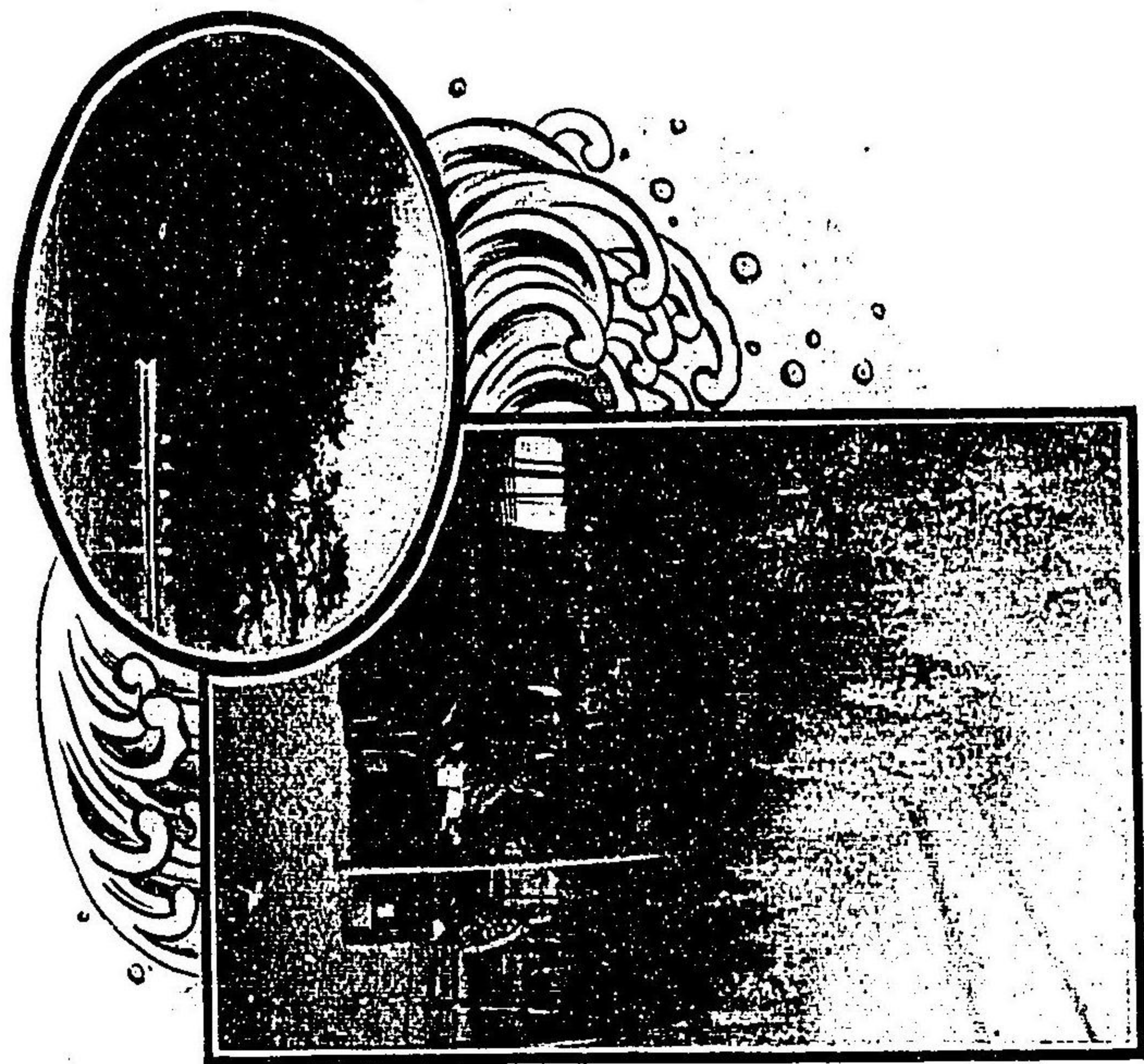
東 公 園 之 雪 景





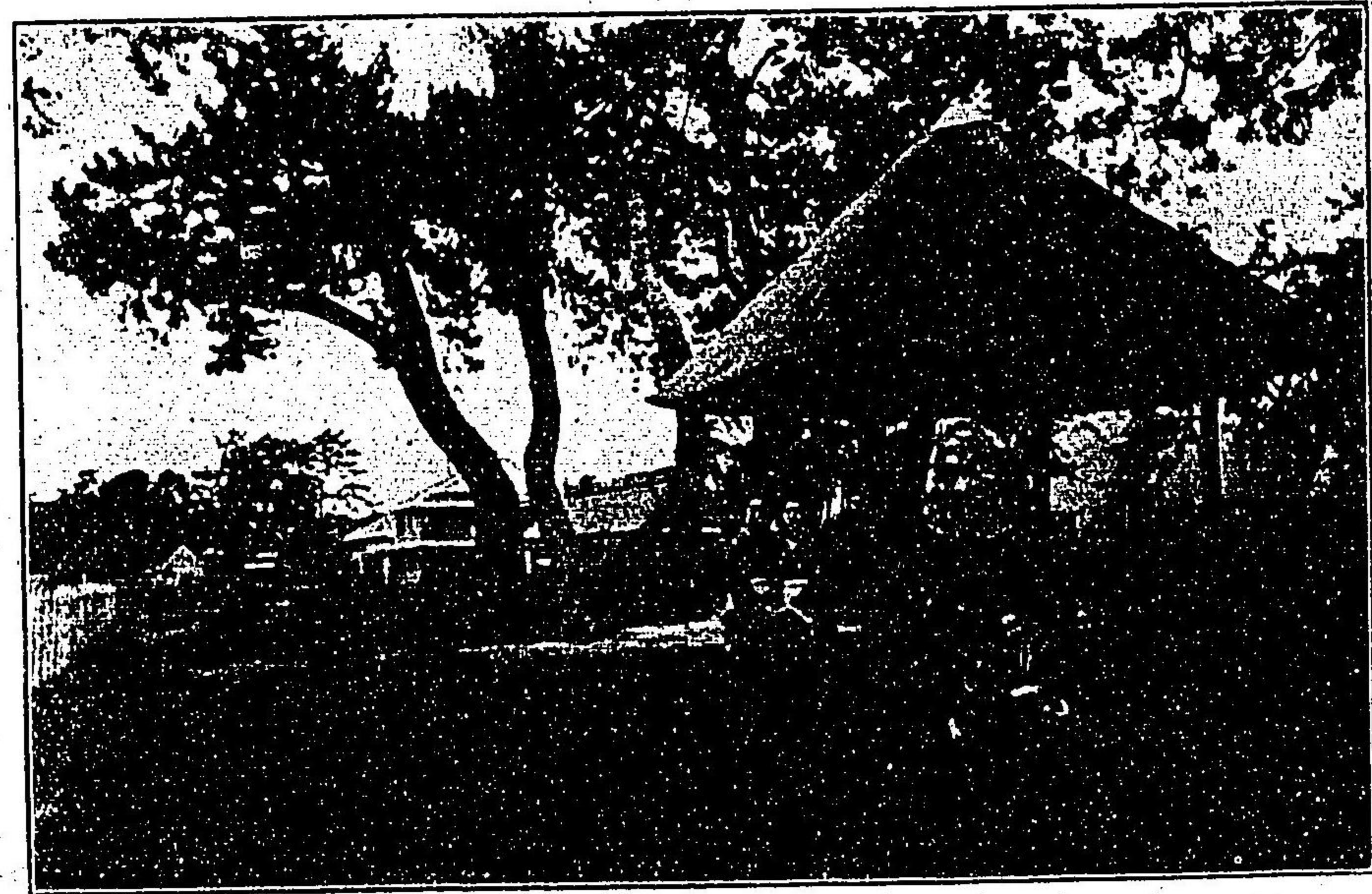
博多停車場

博多港之遠望



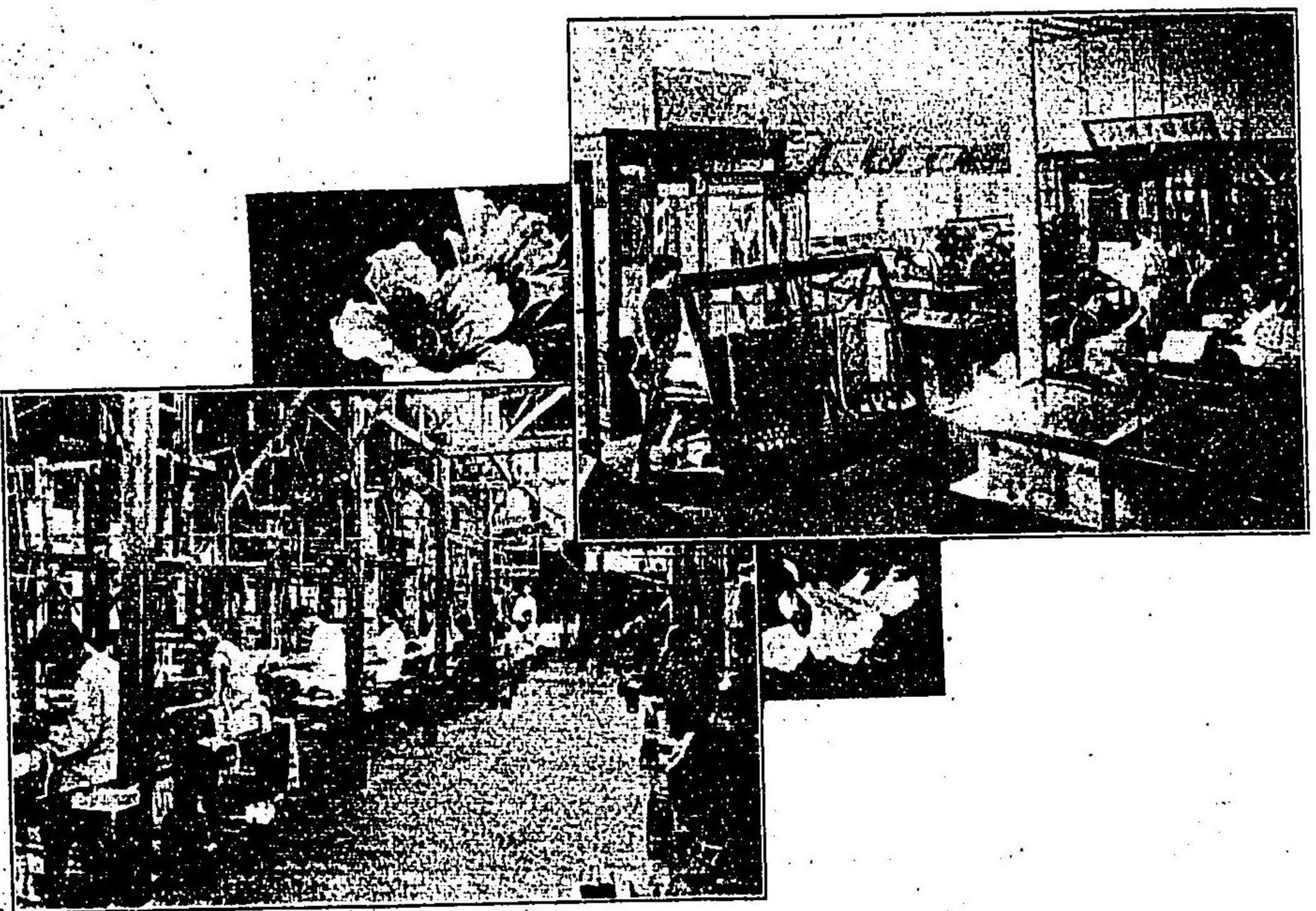
望遠之園公四

荒月之藤



今宿礦泉場

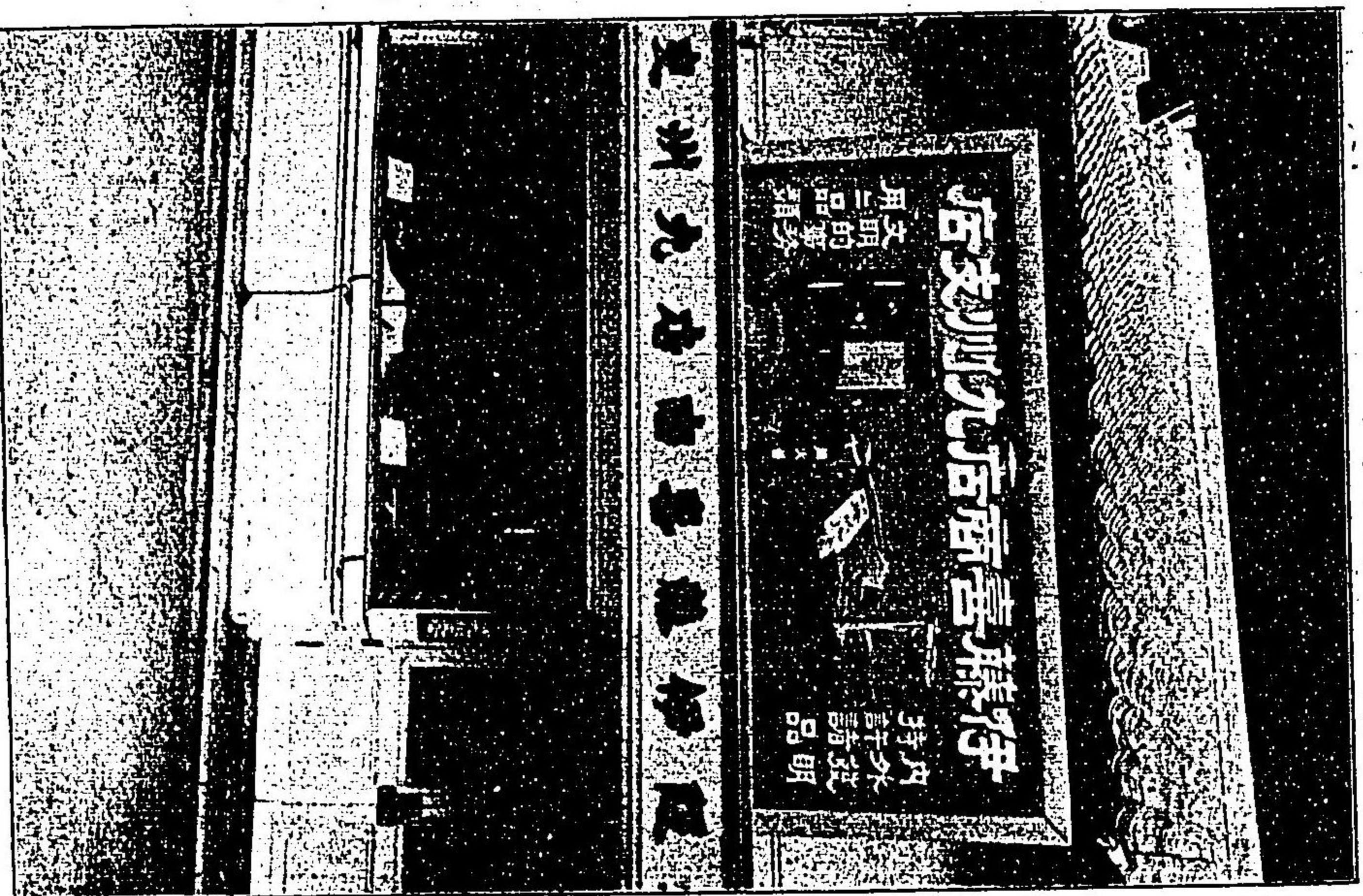
部一之場列陳物織多博場工織居松社會名合



部一之場列陳物織多博場工織居松社會名合

伊藤喜商店九州支店

◎東京竹内製金庫特約販賣

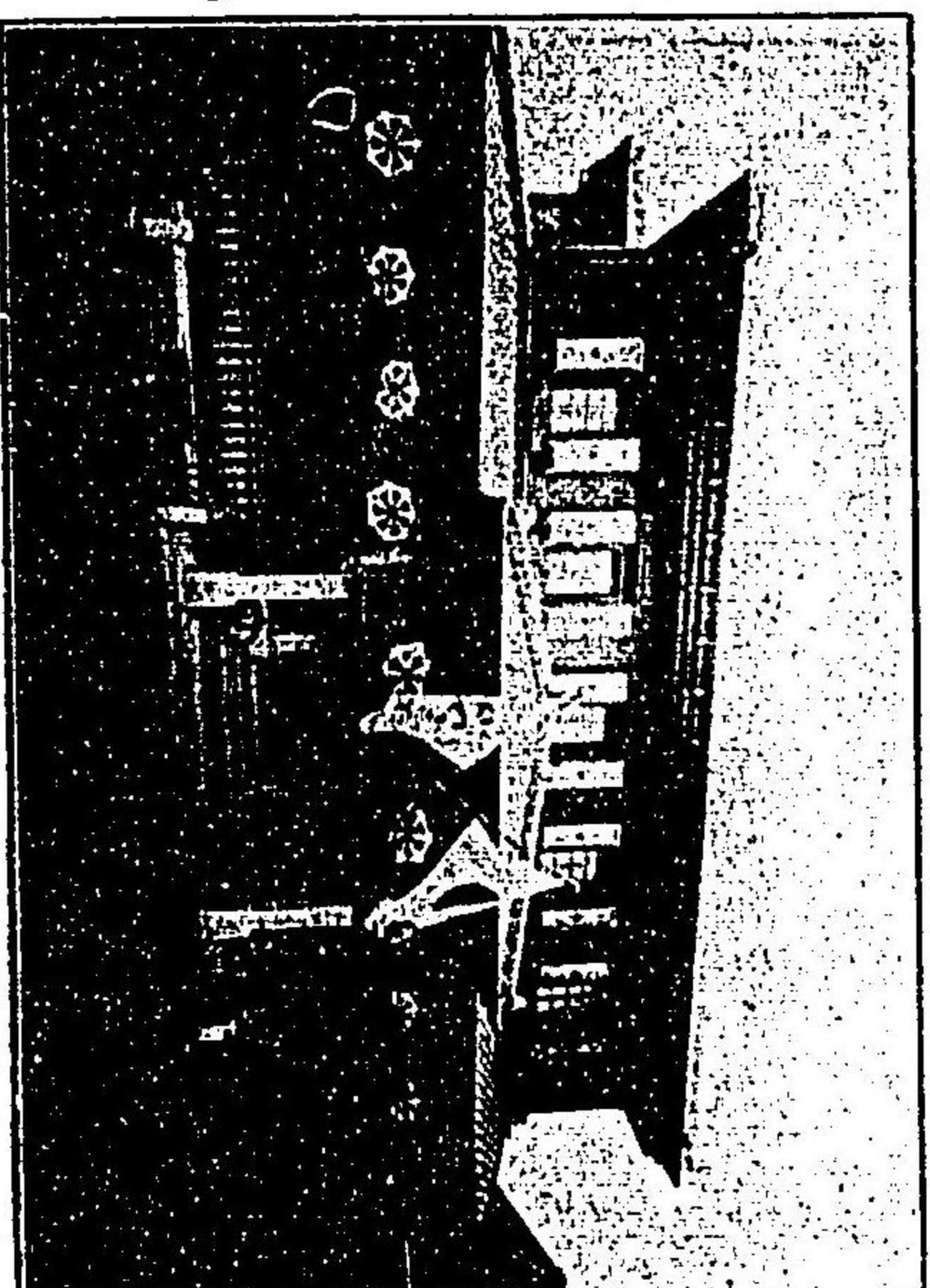


◎新式事務用品並ニ發明諸品

福本岡市博多藏本町
大坂市東區平野町

株式會社 藤七銀行

福岡市博多橋町 電話 四三二一番
福岡市博多橋町 電話 九一四番
本部麻倉



支店 鞍手郡直方町 久留米市米尾町
出張所 田川郡後藤寺町

顧問 安田善次郎
頭取 岡田三吾
取締役 安田善三郎
同 大田清藏
同 伊藤傳右衛門
同 小笠原鑠治郎
支配人 辻音吉

營業概目

内外諸機械
煖房裝置
各種放熱器
蒸汽消毒裝置
蒸汽炊事裝置
衛生諸裝置

製造及輸入

設計并工事に請負

齊藤製作所

製造部

福岡縣福岡市外住吉村秦吉字中木

業務部

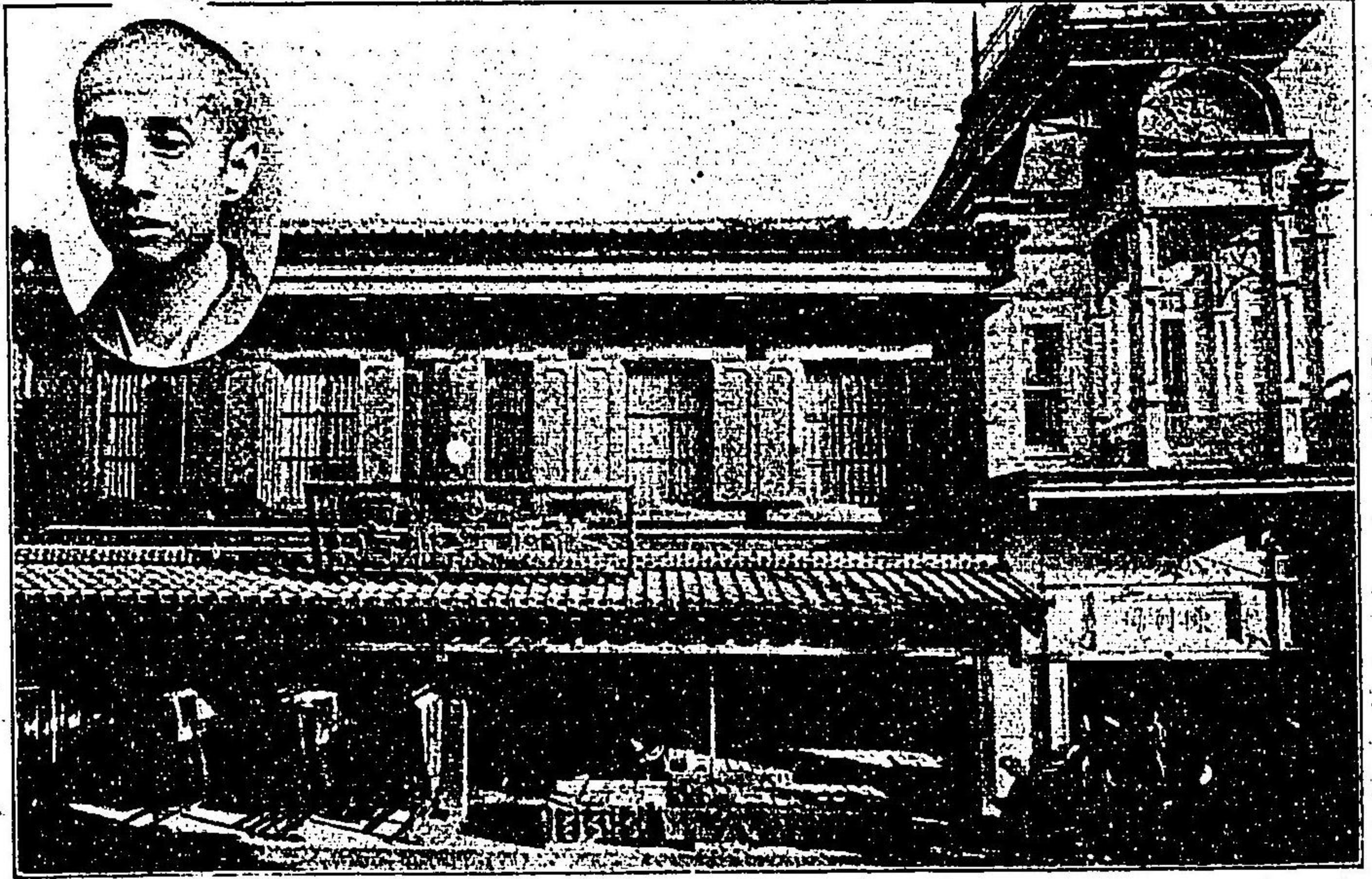
福岡縣福岡市外人參知

(電話四番)

(電話新橋九六五番)

東京市京橋區三十間堀壹丁目六番地

⊕ 篠原吳服店 ⊕
店內總陳列



品質の精選を主とし四季の流行に
 け安く買ふて安く賣るは弊店の特色
 七

博多掛町 ⊕ 吳服店

電話二四二二番

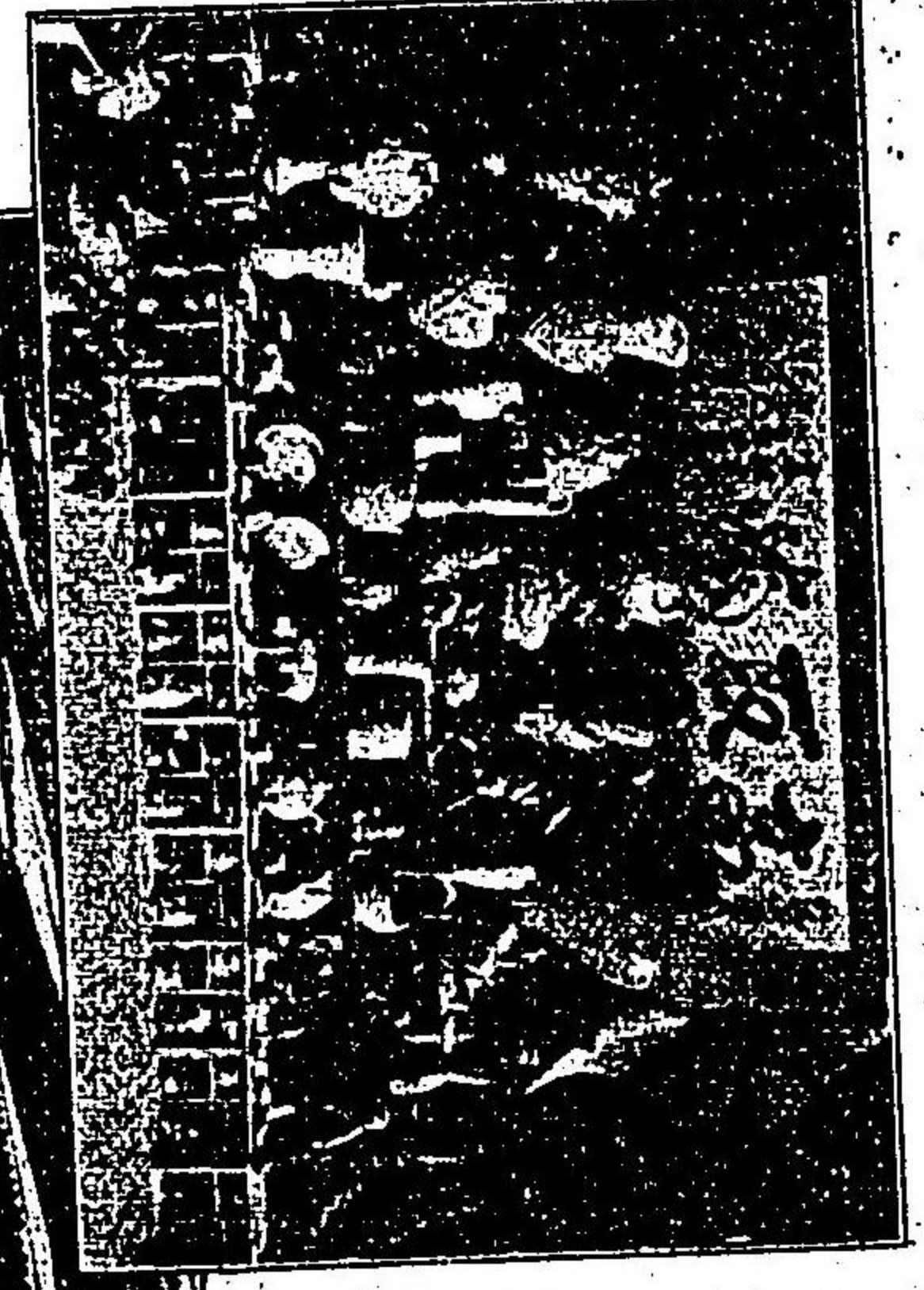
福國市西新町



新島工務



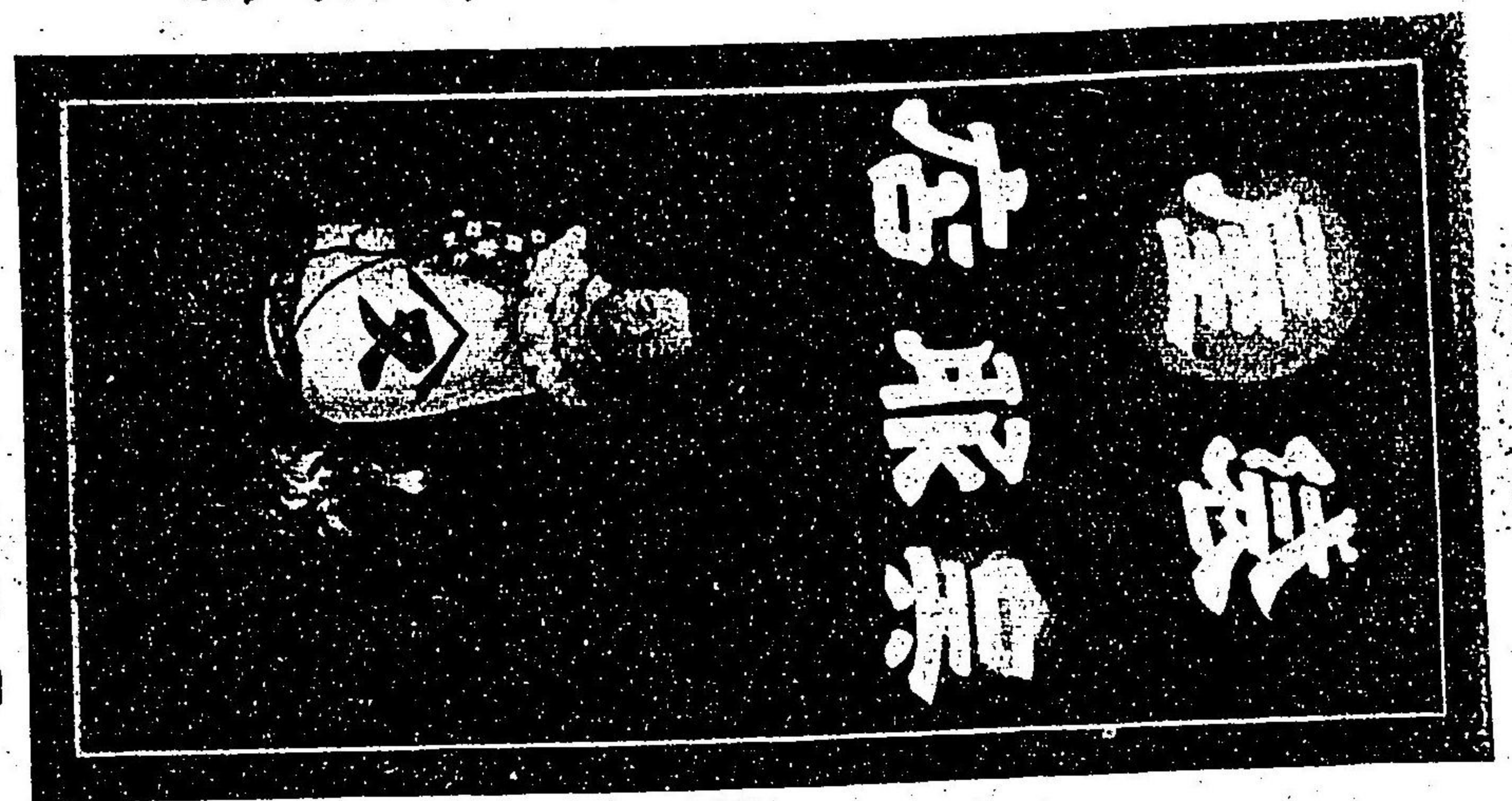
豊井染場



高取前工國産
 元 繁 燦

廉價正札販

八

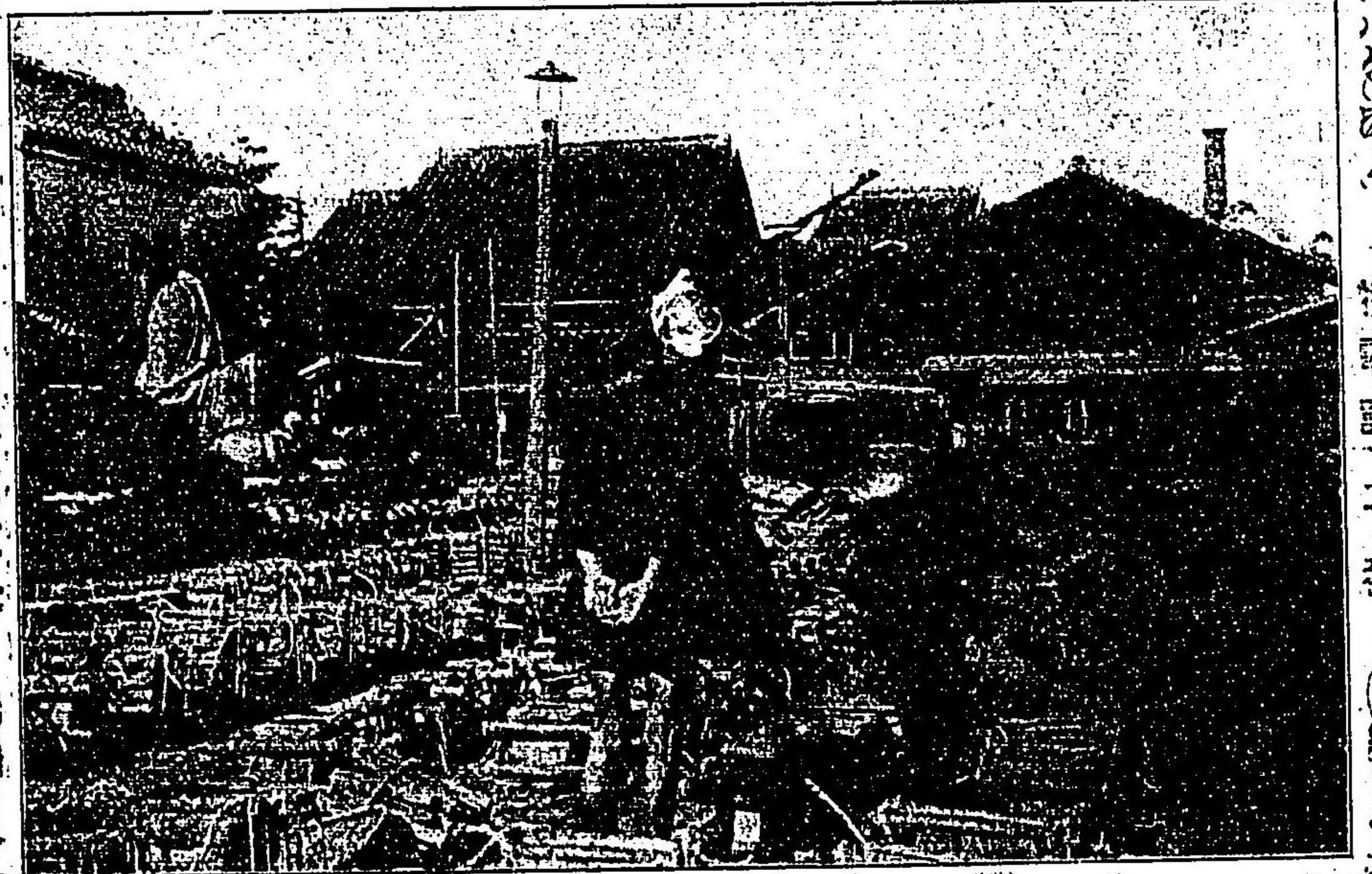


博多綱場町

袋屋吳服店

電話八百七十七番

牛馬耕鋤先 鍋釜製造業



磯野本店鐵造所
博多土上居町四十五番地

東京電話一三二七

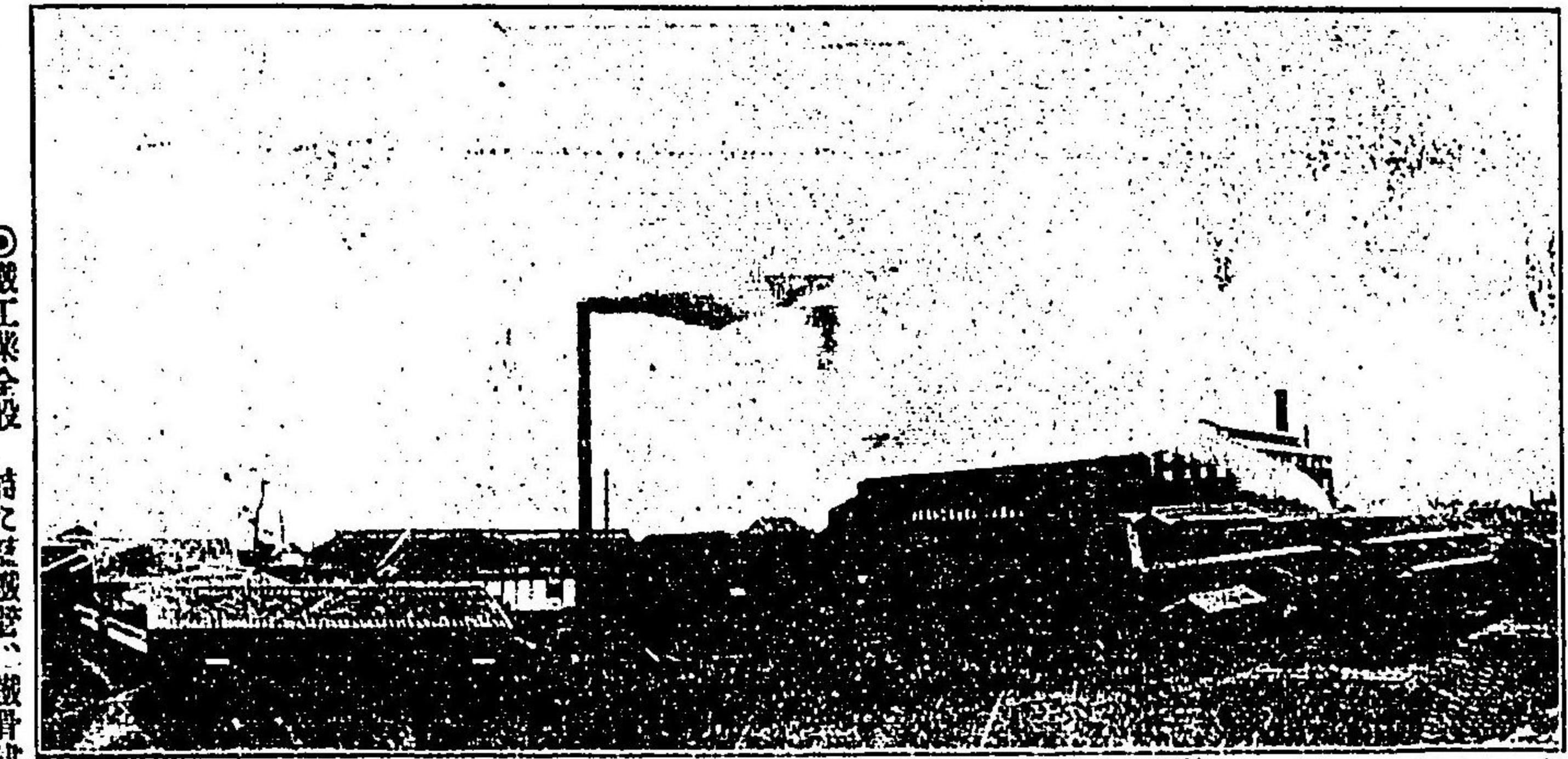
九

徳永鐵工所 徳永純一郎

(營業種目)

◎鐵工業全般 特別に鐵管、鐵骨建築等の技に長ず◎特許鑄造業◎衡器製造(如何なる大形にても御請に應ず)◎度京衡器販賣業

511

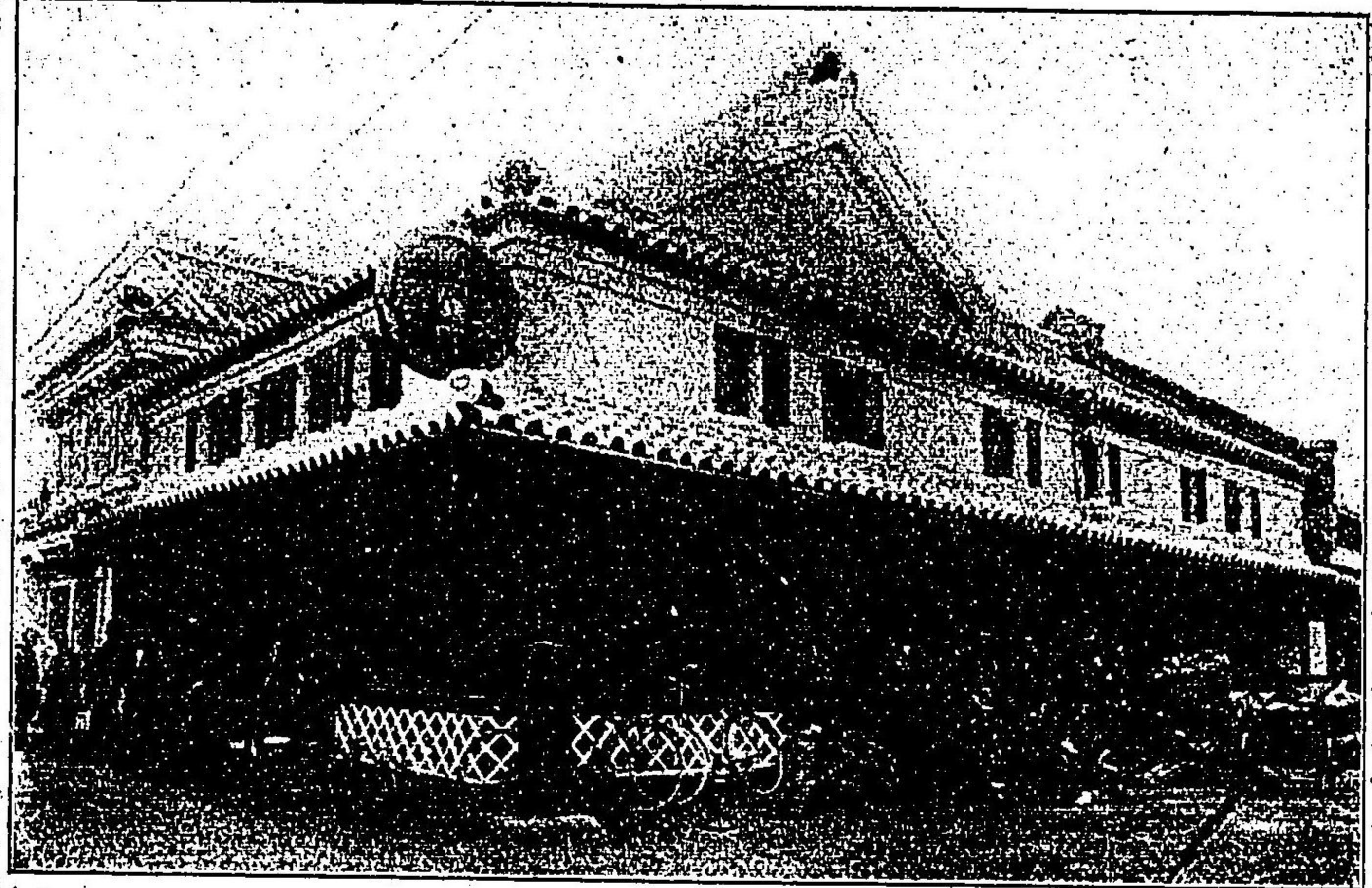


番九長話電	港松若國前筑	場工本
番九〇三長話電	目丁四濱大多博市岡福	場工分多博
番五二二長話電	山之岬字港松若	場工分町之濱
	山之岬字港松若	場工分山之岬

◎衡器部

本工場 若松港鐵工所内
分工場 博多新川端町
販賣所 博多新川端町
電話四八二七番

銅鐵金 卸物商

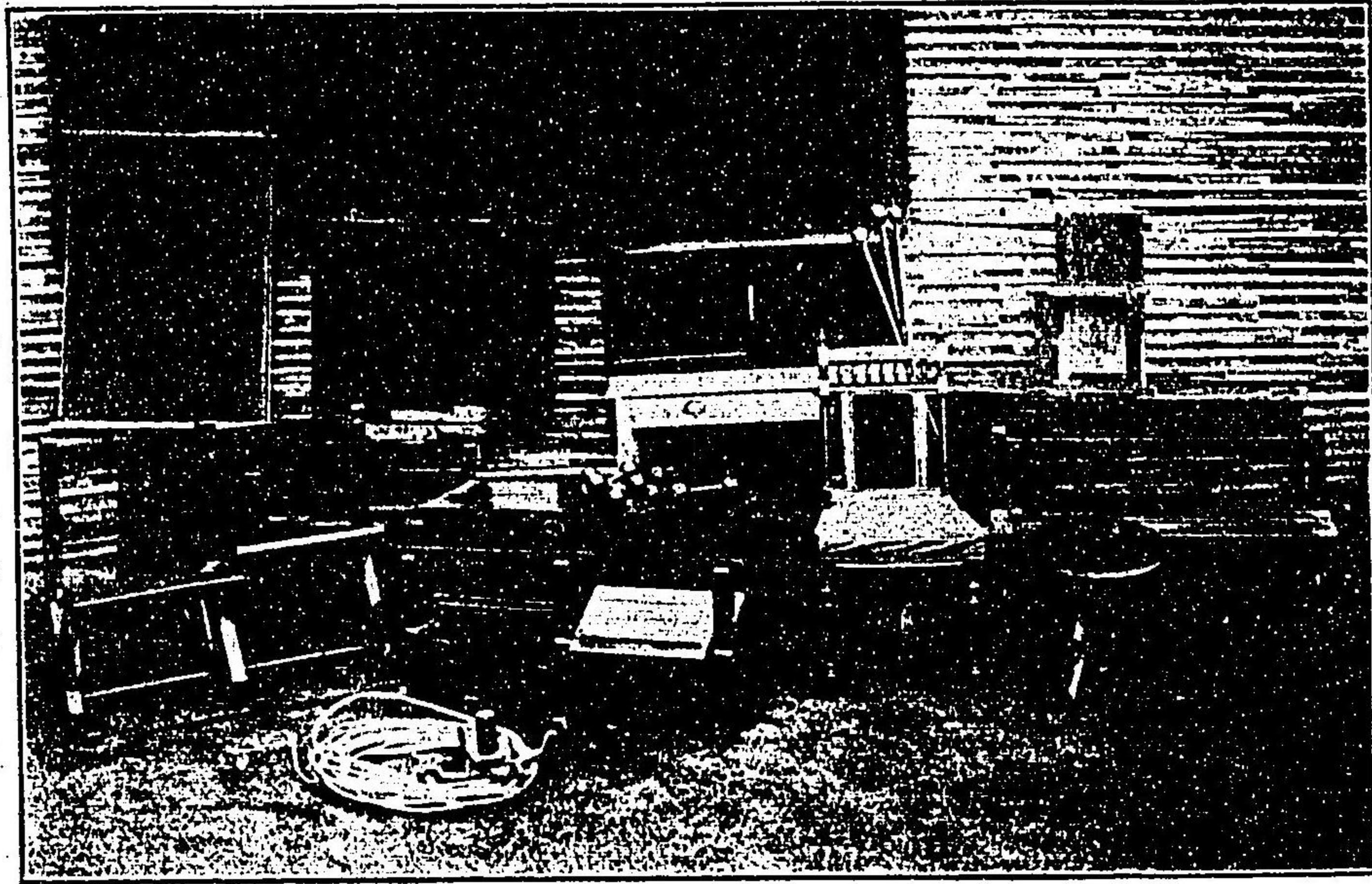


東京振替一二七九三

特電話六三〇番

磯野支店金物店
博多中土居町三番地

に並掛腰付机許特
元賣販造製具器用校學

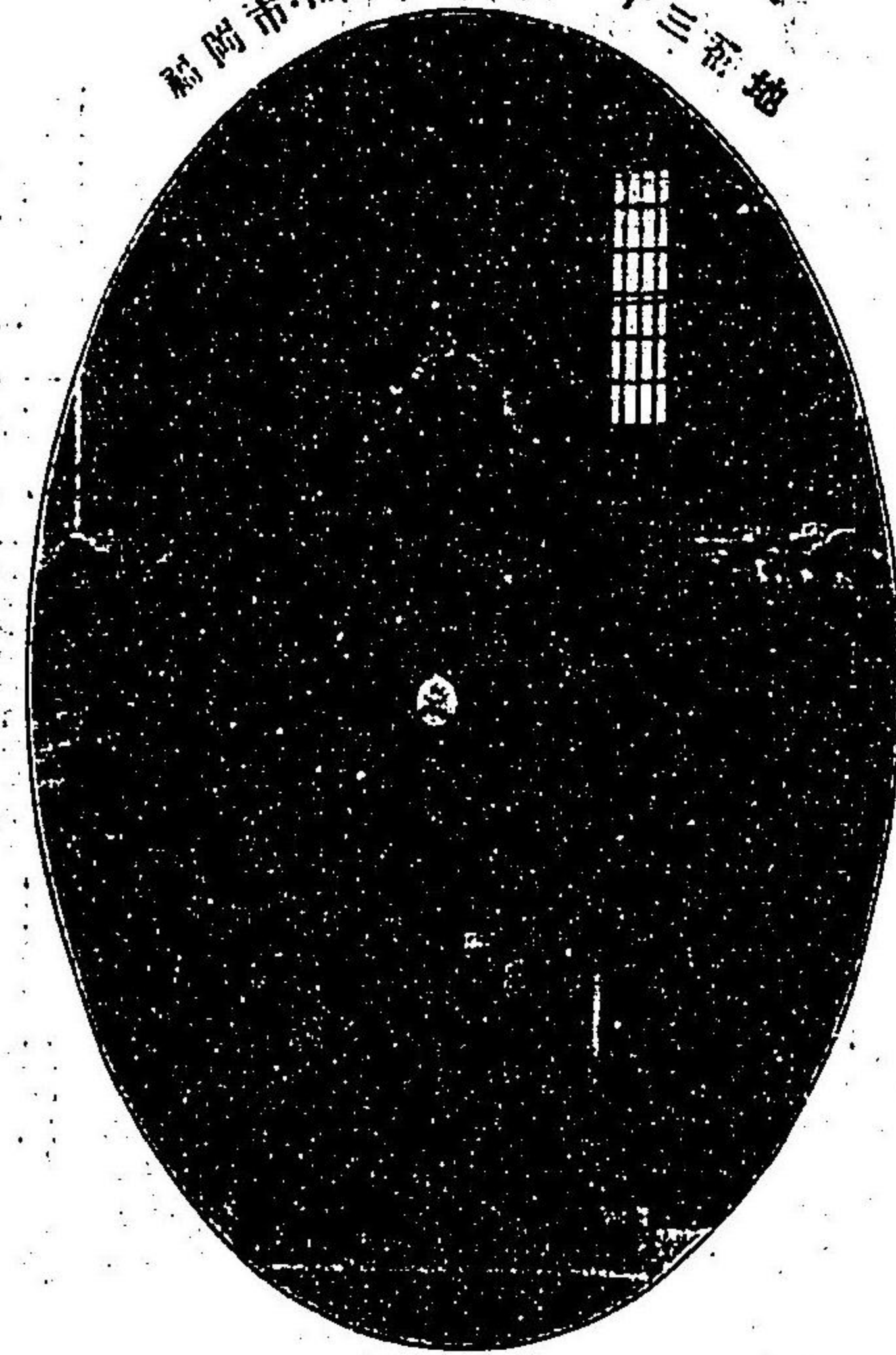


番四四九品電 番七三六九座口阪大替振

福岡市養巴町十四番地
櫛橋製作所

三

支店
福岡市柳多下四町四十三番地



共濟生命保  險株式會社

同	同	取締役	社長	監督	顧問
安田善治	安田善藏	安田善四郎	安田善助	安田善三郎	安田善次郎

本社

東京市日本橋區小舟町三丁目九番地

三

海陸貨物運送並取扱

(信用其他世既に定評あり)

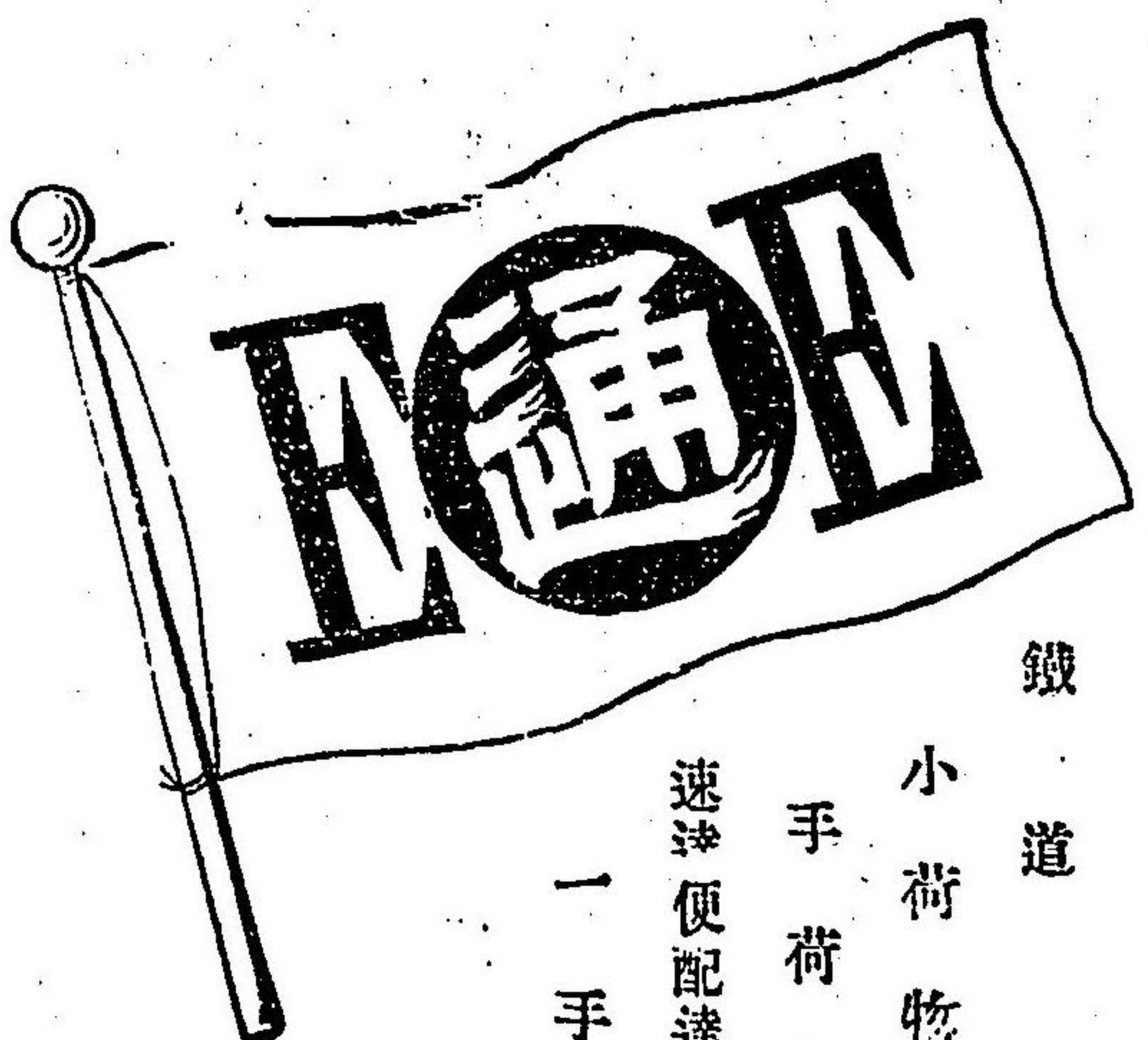
鐵道

小荷物

手荷物

速達便配達

一手



内國通運株式會社

博多取引店

吉塚取引店

病室増築 院長 脇坂良太郎

(寢具賄等一切設備普通室特等室あり)

○たの野門

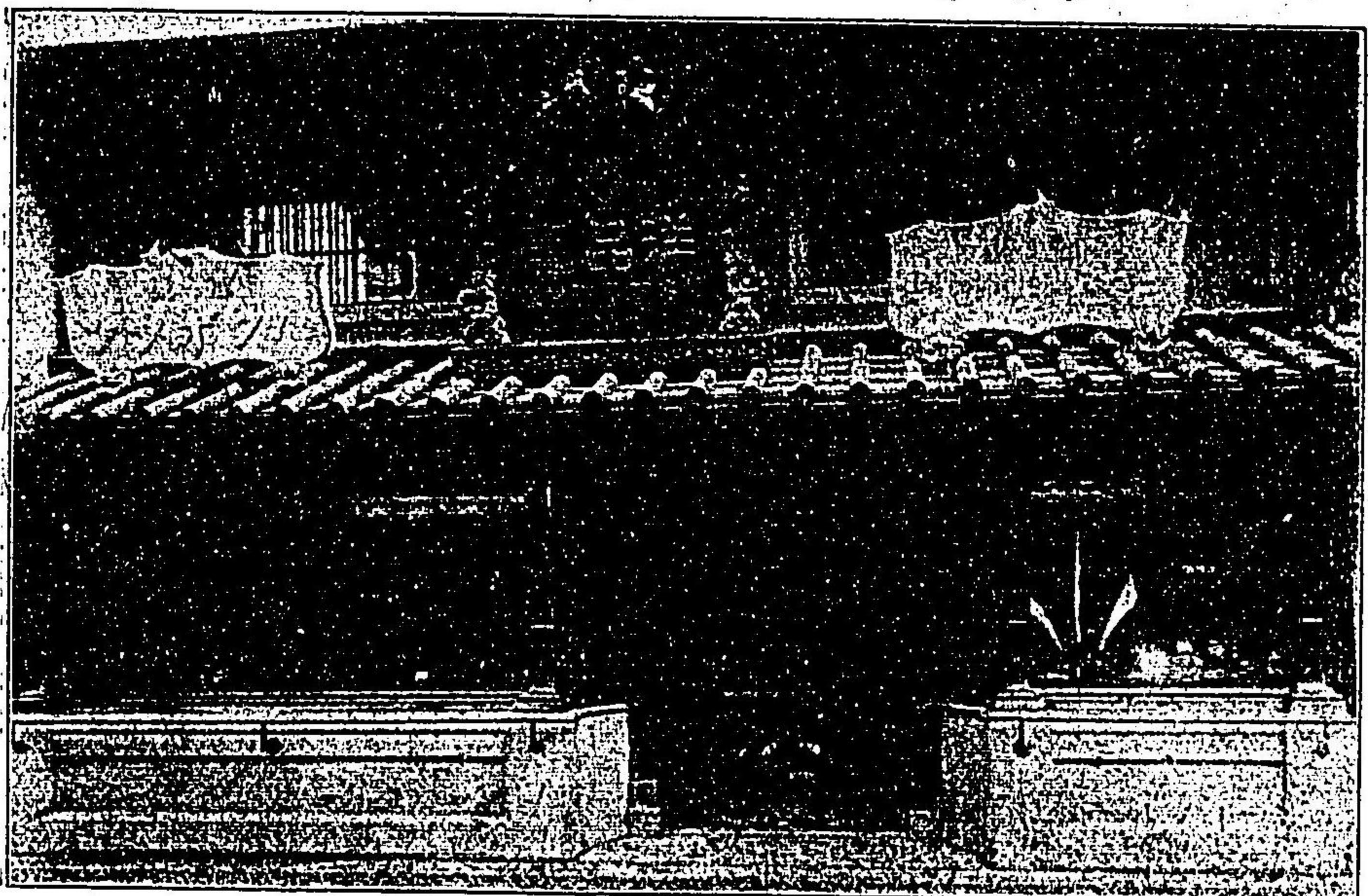
福岡市天神町(元朝倉屋旅館の跡三階建)電話二五二番

痔疾専門 天心堂醫院

福岡市麴屋町

一六

高等歐米雜貨商



電話 七四〇六番

村塚洋品店

各種高品來取插申候

高等洋服商

博多西町網場角支店 木下洋服部



各國羅紗商

博多中間町

本店 木下羅紗店

電話 八五八番

一六

吳服太物卸商

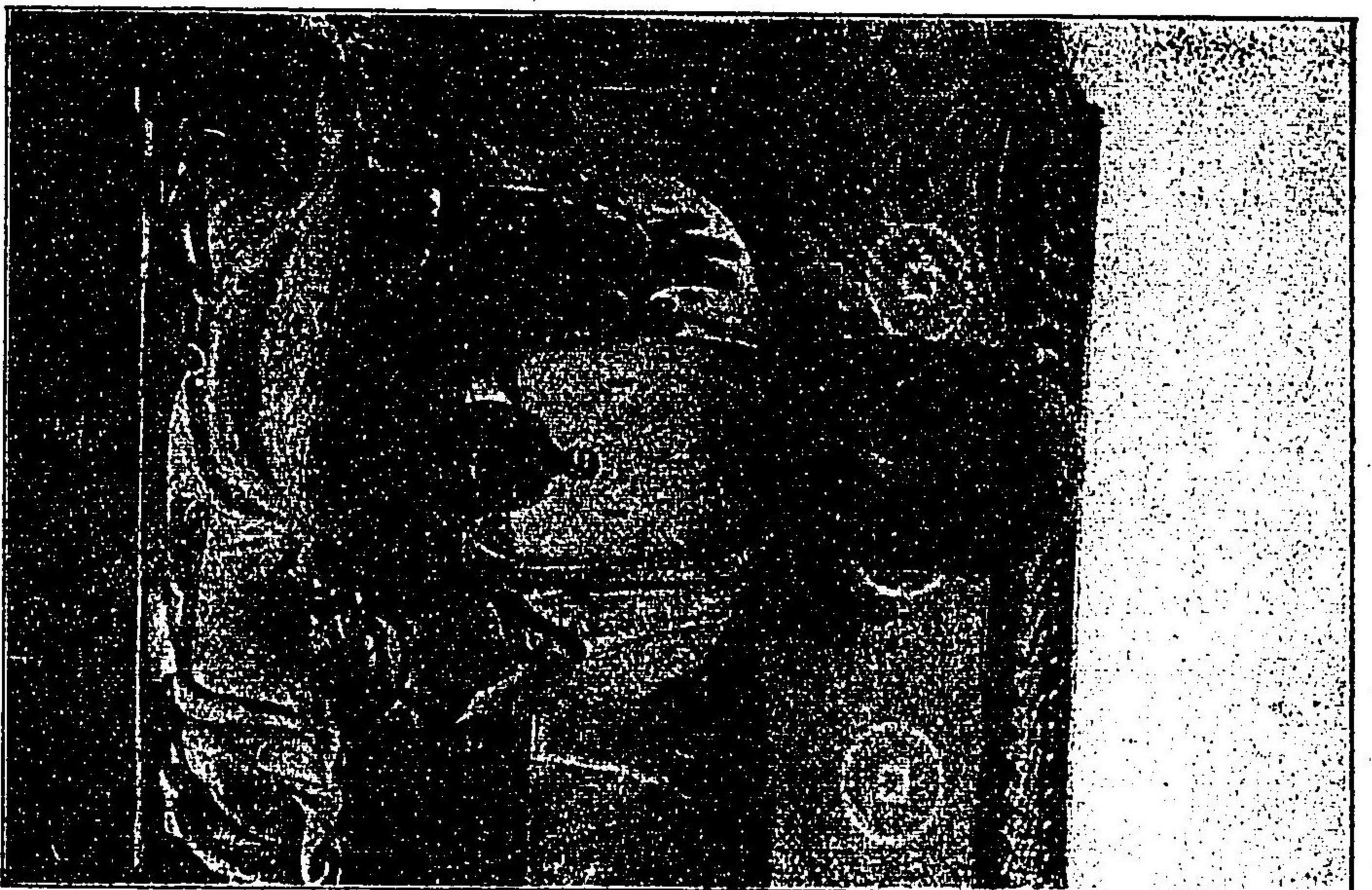


福岡市博多藏本町中間筋角

全木梨久吳服店

電話九百三十九番

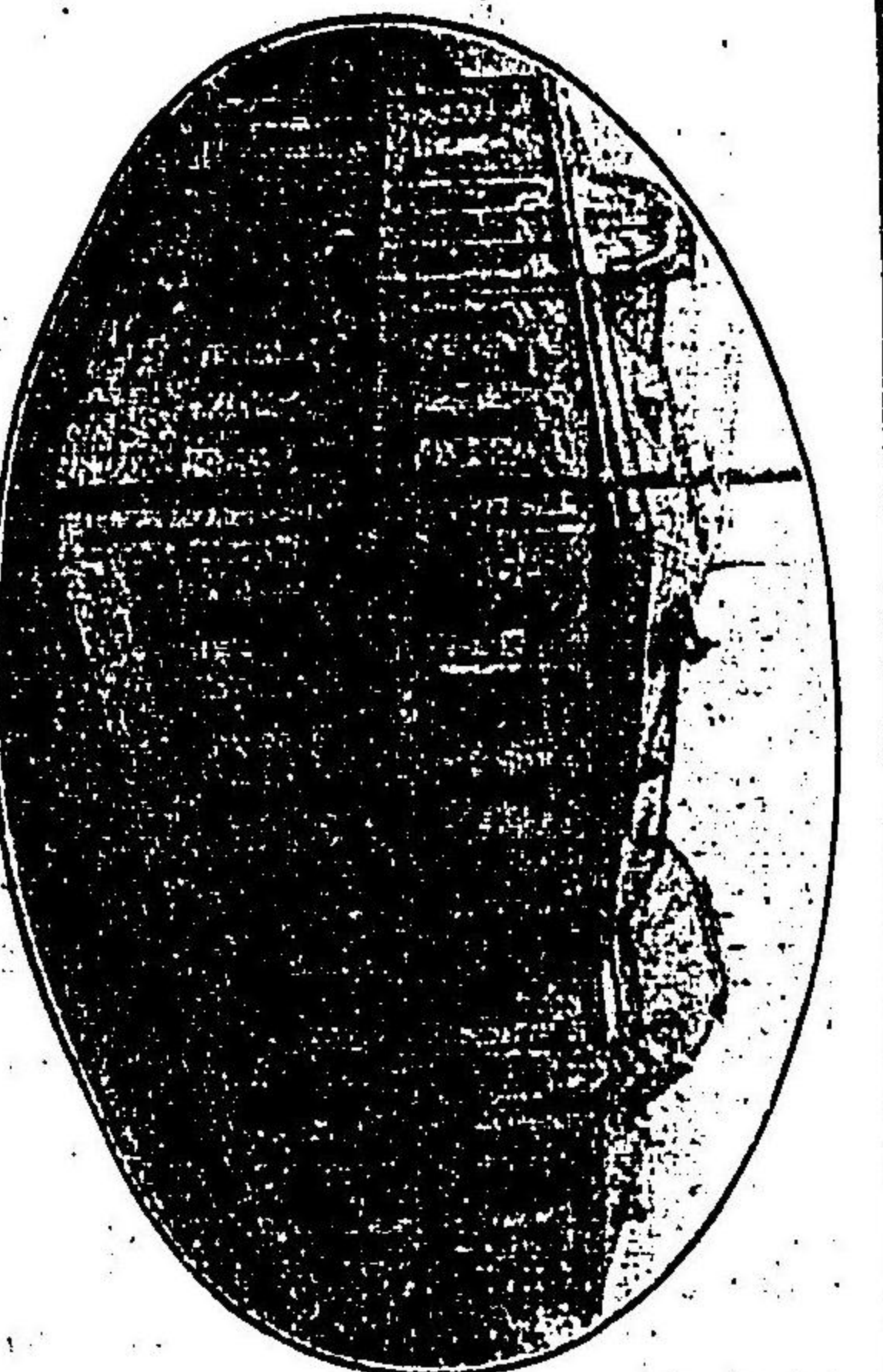
大禪丸取次



御夢相目藥本家

福岡市博多 名稱寺

電話八百三十三番



大 同 生 命 保 險 株 式 會 社
 廣 岡 惠 三 社 長

大阪本社 西區江戸堀上通二丁目九
 電、話 表 西 二 三 七 四
 西 三 〇 八 四
 振替貯金口座(大阪四四〇番) 三三

九州支店 福岡市博多社家町一八
 電 話 (二四〇番)
 振替貯金口座(大阪七五五番)

支 店 東京、大阪、東北、京都
 出張所 名古屋、廣島、金澤、岡
 山、長岡

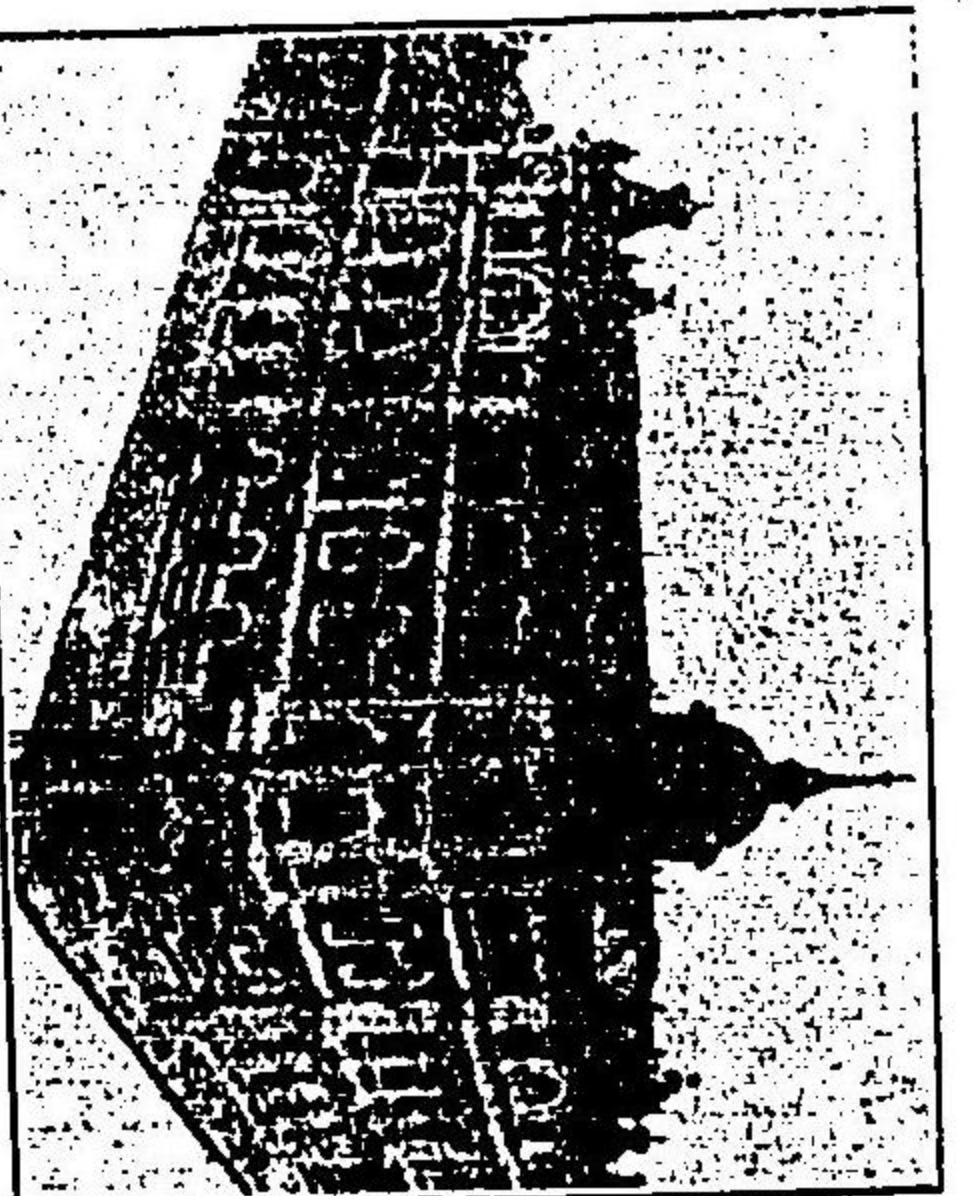
代理店 全國各地、韓國、滿洲
 千有餘アリ

小泉合名會社製帆布九州一手販賣
東京製網株式會社製品特約販賣



船鑛山鐵道建築木工業
用品

福岡市中島町西詰
幸田船具店
電話二五三番



本社會社株式保險保命生本日

契約保險金

七千三百三十八萬二千四百八十四圓

(四十二年十二月末)

諸積立金

千二百九萬九千〇九十八圓五錢二厘

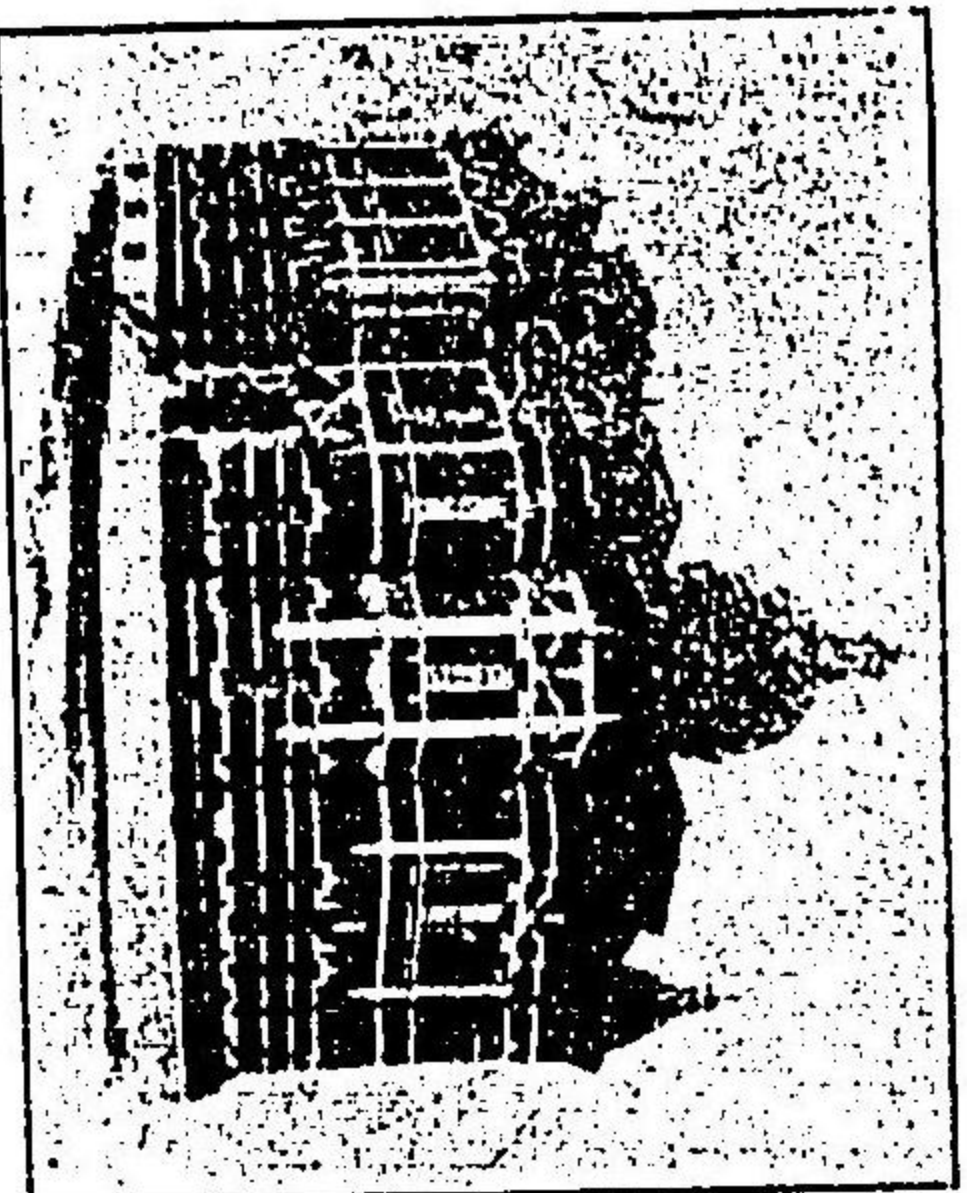
(四十二年十二月末)

本社 大阪市東區今橋四丁目

九州支店 福岡市福岡橋口町

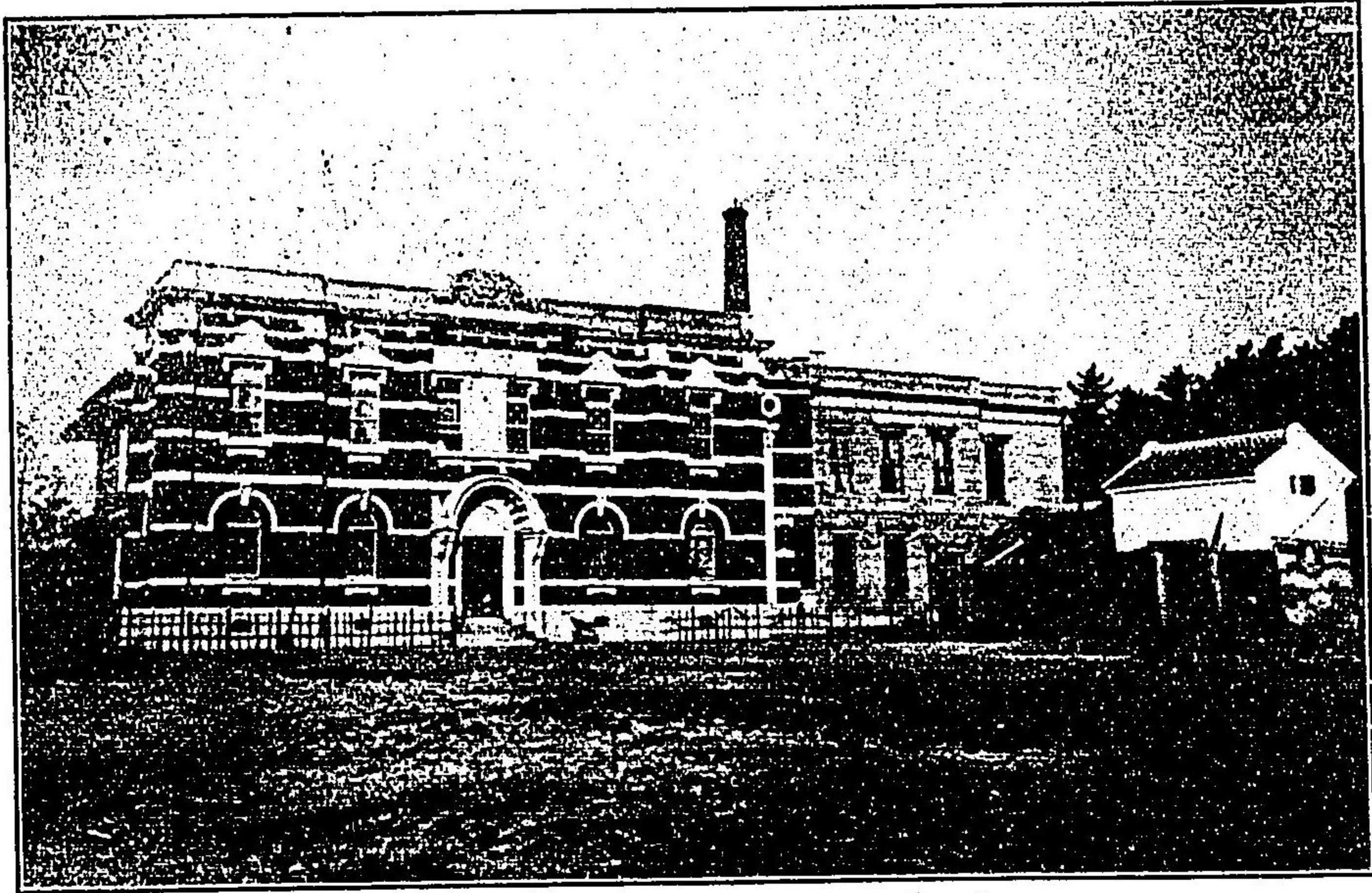
其他東京、京都、名古屋、仙臺、金澤、
廣島ニ支店出張所アリ

三三三



同九州支店

庭園内海川魚旅放養池墜道内水族館砂湯の珍設り



福岡市外箱崎宮海岸(電話七十五番)
抱洋閣

博多驛より十六丁、吉塚驛より八丁、箱崎驛より三丁

二五

洋式湖湯特等、上等、並等
砂温室、カル、ス温泉清潔設置
海川鮮魚
料理旅館

博多名物

平助筆
みこり筆

御土産用ニ美麗ナル箱入
并ニ紙包各種アリ

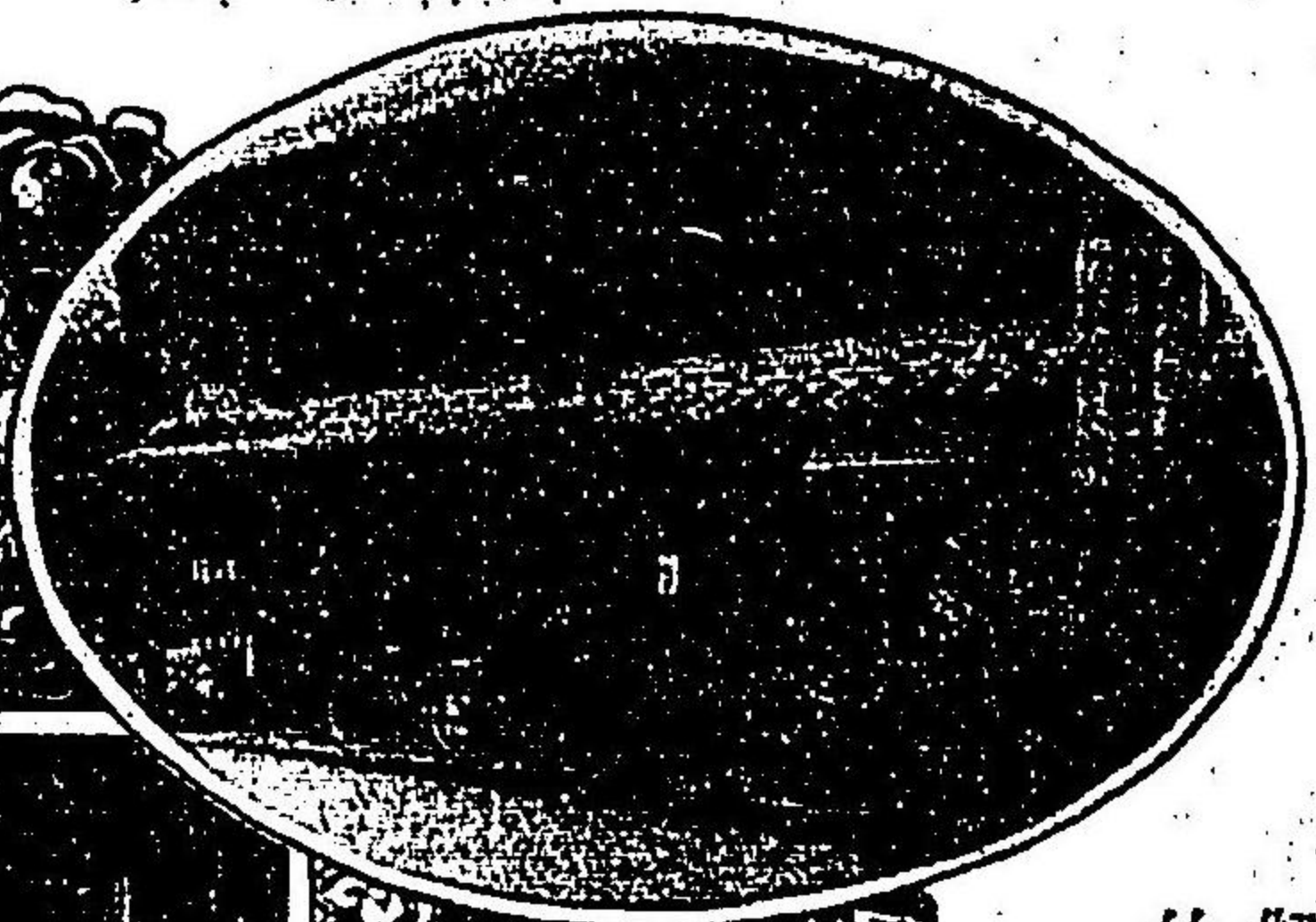
博多麴屋町

復古堂文具卸商

河原田平助

電話百十六番
博多口座東京四六番

二四



文房具陳列店頭内

平助筆最近名譽表彰

兩陛下御用品
皇太子殿下御用品
宮内省御用品
有栖川宮殿下御用品
伏見宮殿下御用品
第五回内閣勸業博覽會三等賞
第四回全國五二品評會進步銀牌
第五回全國製産品博覽會銀賞
東京凱旋五二共進會有功銀牌

大阪戦後紀念博覽會一等賞
其他富市及府縣品評會共進會金銀牌受領筆壺

福岡市案内記

總説

位置廣袤 — 地勢 — 氣象 — 人口及地籍 — 市街

市行政機關

清澄水の如き那珂川の水の博多灣に朝する所、井然たる一市街あり是れ我福岡市とす。市は戸數一萬二千、人口八萬、福岡縣廳あり第三十五旅團司令部あり、其他各種の官衙學校等大抵此地に集り一縣政治の中心地たる而已ならず、其位置九州の中央にありて清韓兩國と對峙し、陸に九州鐵道あり海に博多港を控へ地形交通の利便は商工業の殷盛を促し、海陸の貨物常に輻輳して地方經濟上の中心地たる觀あり。加之市の周圍は青松白砂遠く連り、前は海に臨みて風光の明媚他に其比なく、然じて又神功皇后の三韓征伐以來元寇の役を初め此地幾多の歴史に富み、到る處名勝舊蹟に乏しからず。即ち本市は福岡縣の首都、商工業の中心地たる外、亦た實に外客の遊覽地たるなり。之を以て貨客の出入常に頻繁にして市况活氣を呈し、市街年を逐うて膨張發展しつゝあるを見る。

位置廣袤

本市は福岡縣の西北に位し北緯三十三度三十六分三十五秒、東經百三十度二十四分(市役所所在地)の地にありて我國標準時

は本市本来の時刻より進めること十八分三十七秒なり。然して東は筑紫郡堅粕、千代及豊平村と境し、南は同郡住吉、警固兩村並に早良郡鳥飼村に接し、西は樋井川を距て、早良郡西新町に隣り、北は博多灣に臨みて遙に海の中道の白砂青松を望む。南北十九町東西一里十六町、面積約零方里三分四厘なり。

地 勢

概ね平坦にして東南は沃野遠く連り、荒津山の一小丘西海岸に峙ち餘勢海に入りて鶴來島の一小嶼を現出す。石堂川(比蘇川又ハ三笠川)は源を筑紫郡寶滿山に發し、支川十六流を合せ市の東端に沿ひ海に入る長さ六里十六町。那珂川は筑紫郡背振山より出で、十五の支川を合せ、福岡市界に來り博多川を分派し、中島町東中洲町を抱いて海に入る長さ八里二十五町、小耶馬溪の稱ある釣垂は本川の上流にあり。薦川は市の西部を貫通し、樋井川は早良郡柏原附近より出で市の西端に沿ひて海に入る。

氣 象

市外は平野遠く連り前は海に臨みて遠く黒潮の影響を受け、従て氣候克く調和され寒暑共に酷烈ならず。既往十箇年を通じての酷暑暑熱と雖も、最高温度攝氏三十五度三、最低温度攝氏氷點下四度六を示したるに過ぎざるなり。而して一年中炎熱甚だしきは概ね八月中旬より九月上旬迄に

して、寒氣強きは一月下旬より二月中旬迄とす。一年間の天氣は快晴五十日内外、曇天百四十日内外、雨雪百七十日内外にして雨量一千七八百瓦を算す。初霜は十一月終霜は四月、初雪は十二月終雪は三月、初霰は十一月、初氷は十二月を普通とすれども時に遲速あるを免れず。風位は午前は東南の風多く午後は西北に變ずるを常とす。因に福岡縣一等測候所は明治二十三年一月の設置に係り今筑紫郡住吉村八溝にあり。

人口及地籍

明治二十二年四月市制實施の際は戸數九千四百四十戸、人口五萬八千四百七十七人なりしもの、三十年に戸數は九千七百六戸、人口六萬一千四十七人となり、更に四十一年には戸數一萬一千三百五十六戸、人口七萬九千九百六十五人に達せり。如上は凡ての方面に於て發展しつつある本市の戸口増加歩合としては割合に少なきが如くなるも、是れ唯統計上の數字たるに過ぎず、實は市の境域狹隘にして新たに家を建築する餘地なき爲め、年々増加膨脹する戸口は皆接續郡地に向ひて溢出し、西は早良郡西新町より東は粕屋郡箱崎町に至る迄、接續町村の發展著しきものあるを一見せば思ひ半ばに過ぐべきなり。尙ほ四十一年末現在地籍は官有地二百七十七町六反一畝一步、民有地免租地三十五町三反五畝七歩にして有租地は左の如し。

地目	反	別	地	價
畑		町		三、〇〇六、四〇三
市街宅地				一八五、一三七、三五六
雑種地				三七、九二七
池沼				五、二〇、六五五
山林				一八八、六六二
原野				二四六
鹽田				二、二二九
合計				一九三、四〇三、五七八
				二八六、七八〇

市街

那珂川の一水南北に市の中央を貫きて之を二分し、東を博多と云ひ西を福岡と稱す。博多は古の博多津にして現今の市街は天正年中豊臣秀吉の再興に係り、太宰府を起點として建設されたる都市なれば、堅町は南北に流れ横町は小路にして東西に通ず、町數總て百七十八町、中島町、掛筋(橋口町、麴屋町、掛町、網屋町)は繁華の中心にして西門筋(古小路、仲間町、中石堂町、宮内町)は繁華の中心にして西門筋(魚町)西門筋(藏本町) 吳服町筋、横町筋並に川端筋は之に次ぎ商業頗る盛にして百萬の斐殆んど是れ店舗なり。福岡は元黒田氏五十二萬石の城下として建設され舊城遑濠尙ほ存す、六町筋(養子町、大工町、本町)及橋口町、大堰橋比し商工業般盛なるも博多の繁榮に比すれば稍遜色あり。他は概ね閑靜なる所謂沈竹壁の巷にして士族屋敷の俤を存し、官衙學校多く茲に在り。町數五十四(内浦村) 而も斯の如きは單

に行政上の區劃のみ、東は、千代、箱崎、豊平及堅粕各町村、南は住吉、警固、鳥飼の各村、西は西新町等市附近の各町村は皆本市に連続して一市街をなし、風俗習慣より生活の程度に至る迄同一状態の下にあれば、事實上の本市は頗る廣大なる地域を領有し強大なる富を有するなり。尙ほ市内各町名左の如し。

- 福岡 天神町、因幡町、下名島町、須崎土手町、極樂寺町、須崎裏町、船津町、鍛冶町、材木町、藥院町、紺屋町、西小姓町、林毛、藥院西川端、小島馬場、齋研町、藥院町、堀端、鐵砲町、東小姓町、藥院東川端、養巴町、雁林町、大名町、土手町、上名島町、萬町、東職人町、船町、吳服町、西職人町、本町、濱町、養子町、大工町、魚町、東唐人町、西唐人町、浪人町、樹木屋町、大圓寺町、東唐人町堀端、新大工町、西町、地行東町、地行西町、荒戸町、東港町、北港町、南港町、西港町、伊崎浦、谷町、荒戸村。
- 博多 中島町、東中洲町、川端町、下新川端町、上新川端町、川口町、片土居町、中土居町、下土居町、上西町、下西町、古小路、上店屋町、下店屋町、上吳服町、下吳服町、上魚町、中魚町、下魚町、上東町、下東町、中小路、西門町、蓮池町、北船町、上普賢堂町、下普賢堂町、寺中町、金屋小路、上桶屋町、下桶屋町、馬場新町、上辻堂町、下辻堂町、御供所町、上奥堂町、下奥堂町、中奥堂町、上小山町、下小山町、出来町、上赤間町、下赤間町、竹若町、箱屋町、上厨子町、下厨子町、櫛田前町、大乘寺前町、上土居町、社家町、上祇園町、下祇園町、萬行寺前町、瓦町、今熊町、掛町、麴屋町、橋口町、上鍋町、下鍋町、上洲崎町、下洲崎町、上對馬小路、中對馬小路、下對馬小路、妙樂寺町、妙樂寺新町、古門戸町、網場町、行町、濱小路、西方寺前町、藏本町、奈良屋町、釜屋町、芥屋町、古溪町、奥小路、登堂町、倉所町、上市小路、中間町、中市小路、中石堂町、下市小路、官内町、上濱口町、中濱口町、下濱口町、上金屋町、下金屋町、横町、廿家町、鏡町、上堅町、中堅町、下堅

町、柳町、大濱町自一丁目至四丁目、小金町、千年町自一丁目至三丁目、石城町自一丁目至三丁目、海岸通自一丁目至五丁目、幾世町、黒比須町、冷泉町、西濱町一丁目二丁目、北濱町自一丁目至四丁目

市行政機關

福岡市役所は天神町にあり、市長助役各一名、市參事會員六名、收入役一名、書記四十九名、技手二名、掃除監督長一名、巡視八名を以て各般の事務を處理せり。又市會議員は三十六名にして福岡部より十七名、博多部より十九名を選出す。

明治二十二年四月市制實施以來既に二十星霜を閲し自治の成績見るべきものなとせす。四十一年の本市費(決算)は三十八萬七千八百三十三圓五十九錢三厘にして市制實施當時の市費一萬三千九百七十一圓二十八錢に比すれば實に約三十倍の増加を示し殆んど隔世の感なき能はざるなり。

沿革

福岡——博多

本市は福岡博多兩市街より成り兩地各々異なる歴史を有するを以て項を分ちて沿革の大要を叙すべし。

福岡

往古那珂郡警固村の海濱に福崎と稱する地あり、漁家點々たる一寒村にして只蘆荻の戦ぐあるのみ。後陽成天皇の

慶長五年黒田長政筑前に封せられ其年十一月入國して名島城(小早川隆景の城郭、今の粕屋郡名島)に居るや、地は山河の險に據るも都邑を開くに適せざるを以て、父孝高と議し、福崎の地を相して新たに城郭を築く。慶長六年より起して工役七閏年にして成る、今の福岡城之なり。當時城の西方には深き入海あり、古の草香江にして之を利用して漕と爲す、是れ大濠なり。草香江の入江にあさるあし田鶴の

あなたつ／＼し友なしにして 萬葉集

又城の北方は潮入の沂地にして荒津山下には大船巨舶の碇泊するものありしが、之を埋立て、平地となし、城の外郭は東を那珂川に限り、河中の砂洲に中島を築きて商家の町(中島町)とし、東南には長湍を掘り、西は早良川を以て外郭とし、唐人町東の湍を以て内郭とせり。斯くて城下の地を劃して士民の住宅に充て福岡と命名せり。蓋し長政の曾祖父高政が備前の福岡より起りたるを念へるなり。明治新政に入りても尙ほ福岡の東端東中島橋詰に櫛形門と稱する郭門存在し、其左右那珂川に沿ひ堤防ありて、全く博多と區域を異にせしが、明治八年福岡縣廳新築の際櫛形門以南の石壘を毀ちて建築の用材とし(今の福岡警察署縣廳、般地は堤防跡なり)明治二十一年那珂川埠頭延長の際、石材を櫛形門以北の石壘に取り、堤防跡は川沿の新道と爲し、茲に全く外郭の俤を撤す。福岡の名ありてより明治四十三年に至る三百十年、市街は諸

士及び商家の家宅等町割の區域嚴正なりしも今は士庶各町に雑居するに至れり。

博多

博多は古への備縣の域内なり。神功皇后征韓の時備河口(那珂)と榎日浦(香椎)との間に海路を取り給ひし事日本紀にあれば、當時既に津港の開けたりならむ。應神天皇の御宇皇威大に張り三韓朝貢するあり、即ち官家(後は大宰府)を此地に置き内外の政治に當らせ給へり。宣化天皇の御宇に至り官家の規模を擴張し給ひたるが、當時那津と稱へ、後ち備津若くは備大津と稱し或は筑紫の大津と呼び又單に荒津とも言ひ、敏達天皇の二年西海一の開港場と定め給ひ淳仁天皇の天平寶字年中に至り、初めて博多大津の稱起れり。博多の起源斯の如く遠く、彼の魏志の倭人傳に備國二萬餘戸と記せるを見るも、備津と稱せし時代既に殷賑の海港たりしや疑なし。後ち太宰府を御笠里(今の太宰府)に移さるゝに及びても博多は攝津國難波津と共に日東國の二大港として内外の船舶輻輳し、同時に太宰府の外府を設けて文武の諸政を張れり。當時唐との交通盛んにして彼我の國使等の往來するもの多く、鴻臚館の北館を此地に置きて其接待應酬に備へ、又警固所の設ありて兵仗を蓄へ艦船を泛べ、防人を置きて邊海の防備に充つ。而して筑前沿海は外寇の虞あるを以て、古より海岸に長壘を築きて其來襲に備へ、

天智文武兩帝益々邊警に努め給ひ文永の役蒙韓連合軍の上陸に鑑み、北條幕府は博多津番役の制を定め、諸豪族に命じて交代に兵を出して駐屯せしめ、後宇多天皇の建治元年より翌二年に亘り、九州の諸族に命じ博多沿海の石壘を修補増築せしめ、蜿々たる長蛇の如き石壘は多々良、管崎より西は今津に至る數里に達す。博多を石城と呼ぶは蓋し之に起因す。(伊崎浦に石壘の一部を存す)

當時博多の地たる西は那珂川に限り、比惠川其東に注ぎ其下流は博多住吉の間を流れて那珂川(今の瓦町)に合し、且つ中央を東西に通する入海あり船舶入津の埠頭たり。是れ袖湊にして後遂に博多の異名となれり。(袖湊以北を沖の濱と稱す)

千鳥啼く袖の湊をどひ來かし

唐土舟の夜の寢覺に 續古今集

泪そふ袖のみなどをたよりにて

月もうさねの影やごしけり 續千載集

弘安五年奉行府を開き、永仁元年九州探題府を設け、北條氏亡びて足利幕府起るに及び、延元元年尙探題府を再興し、津名隆々として繁榮日に加はり、海東諸國記に博多居民萬餘戸(足利幕府の中葉)と記せるも過言にあらざるべし。而も袖湊は漸次泥土の堆となりて埋没し(現時藤橋以東の森小路は間餘の遊渠に蓋して作れる街にして該遊渠こそ袖湊の殘蹟なれ)大船多く沖に繋り、加之肥前平戸其他諸港の新興し來るあり、後奈良天皇の天文二十一年以後復た外船來

らず、我博多港は漸く衰微に赴きたり。應仁文明の頃博多の地大友氏の勢力範圍に入るや、臼杵安房守今の出来町附近に居を構へ、瓦町より辻堂町に至る間城隍を掘り又新川を掘りて比惠川の水を注ぐ是れ今の石堂川なり。爾來屢々交戦の衝となりて民家潰え、天正十五年豊臣秀吉西下して島津氏を征する時、商賈四散し人煙殆んど絶え、應神以來千七百餘年の名邑將に禾黍漸々の境に化せんとせり。秀吉深く之を惜み、六月凱旋して宮崎に駐まるや、同月十日博多に蒞み、自から地形を按じ市街の地を方十町と定め、石田三成、小西行長、長束正家、瀧川三郎兵衛及山崎志摩守を以て奉行とし工事を督せしむ。此地元と太宰府に通せしにより南北を縦として大路とし、東西を横とし經營全く成り、數年を出でずして再び繁榮の名區となれり。天正十五年より明治四十三年に至る實に三百二十七年。

小早川秀秋筑前に主たる時、再興後の博多は公領なりしを以て怡土郡半地を以て之に代へ、黒田長政亦先例に據り博多を私領とし、爾來二百七十餘年其の治下にありたりき。

教育と宗教

小學校——中等教育諸學校——私立學校——商業學校——醫科大學——工科大學——幼稚園——孤兒院——盲啞學校——感化院——教育支會——圖書館

——市民の信仰心——神社と神道——佛教——基督教
筑紫の太宰府は西海に於ける學問の府として、孝謙天皇の朝には學業院の設けあり、後に菅公此に薨じて文學の祖神となりて永く餘韻を垂れ、降つて黒田氏の治世に至り、天明寛政の間育英事業大に見るべきものあり。天明三年東西兩學館を福岡に創設し、東にあるを學問所と稱し西を甘棠館と稱へ東西拮抗一時其盛を稱す。龜井南冥西館にあり館内名士濟々筑前の士風爲めに不變するものあらんとす、可惜俗儒の陥擠する所となりて甘棠館廢せられ、久しからずして皇朝の學又顧られず學問所亦衰ふ。學問所は後修猷館と稱し縣立中學修猷館は其の後身なり。而して藩政時代に於ける文學の徒を教ふるに、貝原益軒を最とし其の一門には元端、義質、好古、常春あり、益軒の門には竹田定直、稻富又百あり、定直の子孫定良、定矩宗學をうけて學問所の教授たり。龜井家には南冥昭陽父子あり、其門には原古處、江上源藏の如き秀才あり、宗暉は詩人として西海に鳴り、采蘋少琴は女詩人の双壁として重きを爲し、國學には加藤一純、青柳種信を出し、歌人には大隈言道、野村望東、平野次郎あり其他月形洗藏、井土周磐等篤學の士多く、勤王の志士等が文事を解したるもの其の餘風ならすんばあらず。明治維新後に至りても私塾は猶盛んにして、西には正木、宗、幸島等の諸塾あり、東は住吉人參畑に老媪高塲蘭

ありて各々子弟を教養す。方今時めく福岡人士は正木塾の出身にあらざれば、即ち老嫗の鞭達を享けたる人なり。小學校令施行するに及び、教育事業は長足の進歩を示し、就學歩合今や百人中九十八人九四に上り、全國各市中最良の成績を収め居れり。

小學校

向學心の發達に伴ひ就學兒童激増し、日露戰役に際して止むなく第一第二學年に二部教授を行ひ、近く御供所校並に大名女子校を新築したるも、尙ほ教室不足を感じ、今復學校増設の計畫あり。此外兩師範學校附屬小學校ありて市西部の兒童千餘を收容せり。

學 校 名	兒 童 數	學 二 級 數	所 在 地
大名男子尋常小學校	一、一〇三	一八	大名町
大名女子尋常小學校	九五六	一七	士手町
當仁尋常小學校	七四八	一二	東唐人町堀端
上吳服男子尋常小學校	八四八	一三	上吳服町
上吳服女子尋常小學校	六七四	一二	上吳服町
御供所尋常小學校	一、〇九四	一八	御供所町
中市小路尋常小學校	八八九	一四	中市小路
奈良屋尋常小學校	八九四	一五	奈良屋町
福岡高等小學校	九六六	二〇	天神町

中等教育諸學校

本市は福岡縣の首都なるを以て縣立諸學校の多くは、市内及び附近に設置されたり、左の如し。

學 校 名	生 徒 數	所 在 地	電 話 番 號
市立福岡商業學校	四四四	堅粕村	九五五
縣立福岡農業學校	二二〇	那珂村	九二五
縣立福岡工業學校	四一二	東港町	三〇二
縣立中學修猷館	七三〇	四新町	四七四
福岡縣師範學校	四四〇	荒戸町	五〇二
縣立福岡高等女學校	三七九	天神町	
福岡縣女子師範學校	四〇三	島飼村	六六

私立學校

左の如し。

學 校 名	教 科	所 在 地
筑紫高等女學校	修身、國語外十科目	警固村
九州高等女學校	同上	荒戸町
福岡英和女學校	國語、英語外十三科目	天神町
福岡實習女學館	修身、國語外六科目	荒戸町
女子職業學校	裁縫、手藝	西小姓町
豫 修 館	修身、國語外七科目	荒戸町
福岡研成校	修身、國語外八科目	荒戸町
福岡環備學校	同上	荒戸町
博多實業補習學校	修身、簿記外三科目	上吳服町
東亞語學學校	清語、韓語	馬場新町
西海憲精學校	簿 記	天神町
鎮西高等簿記學校	修身、簿記	中島町
翠 絲 學 校	讀書外四科目	柳 町
福岡神學校	神學、宗教、哲學外廿二科目	大名町
女子美術學校	裁縫、造花外七科目	大名町
柳田女學校	修身、裁縫、刺繡、禮法	社家町
シンガー裁縫女學校	ミシン裁縫、刺繡	橋口町

市立福岡商業學校

堅粕村にあり甲種程度にして豫科一箇年本科四箇年。卒業生累計百七十九人にして或は上級學校に進み、銀行會社に就職し、又は獨立自營する等各方面に亘り、何れも成績良好なり。

福岡醫科大學

京都帝國大學福岡醫科大學は千代村にあり、白砂青松の地に宏壯なる講堂教室を建築し、明治三十七年の開校にして今や四百の學生を收容せり。此地市街の紅塵を避けて水清く氣澄み、學校所在地として天下無比の地なり。附屬病院は元の縣立病院にして大學設置當時之を寄附したるものなり。

工科大學

醫科大學の東方二十餘町箱崎町地蔵松原に地を相し工科大學は建築されつゝあり。明治四十四年授業開始の豫定にて工事著しく進捗し、愈々開校の運に至らば醫科大學と合して福岡大學設立さるべしといふ。而して輿論は福岡縣に高等學校設置を希望し居り其新設の曉には位置を本市附近に撰擇すべし、斯くして我福岡市が西海に於ける學問の府となるも遠きにあらざるべし。

幼稚園

本市に於ける幼稚園は明治二十二年上吳服尋常小學校に附

設したるを嚆矢とし後之を廢したるが、今左の二園あり共に私立なり。

名 稱	保育兒童數	保育年限	創立年月	所在地
福岡幼稚園	一〇二	三箇年	明治卅六年	大名町
博多幼稚園	七四	三箇年	明治卅八年	上市小路

孤兒院

龍華孤兒院は祇園町萬行寺内に在り、明治三十二年萬行寺前住職七里恒順の創立に係り篤志家の喜捨によりて之を維持し居れり。當初よりの收容孤兒二百十九名に達し既に獨立自活の途を得たるもの少なからず、明治四十二年内務省より金三百圓を下賜されたり。

私立福岡盲啞學校

因幡町にあり、福岡縣教育會の事業として財團法人組織の下に經營さる。明治四十三年一月開校し、初年度とて收容生徒は盲啞兩生合して十四名なり。

感化院

同院は縣立代用にして福岡學園と稱し瓦町にあり。明治四十二年の開園に係る。現今市外鳥飼村に三棟の園舎建築中にして、竣成の上は不良少年三十名を收容し訓育する豫定なり。

教育支會

福岡縣教育會福岡支會は市内各學校教職員及有識者を以て

組織され、事務所を福岡高等小學校内に置き學生の風紀問題其他教育上各般の問題につき研究を重ね之が改善實行に努めつゝあり。

圖書館

私立福岡圖書館は荒戸町にあり。明治三十五年八月の創立に係り、藏書は和漢洋に亘り五萬九千餘冊に及び一年間の開館日數三百三十九日、閱覽人員二千百餘名なり。

市民の信仰心

本市の殷賑なる、寸田尺地も之が利用の途を講じつゝあるに拘はらず、神社佛閣教會等の壯麗宏大なる造營物各所に散在し、庭園墓地の廣大なる地域を領有するもの、是れ市民が神佛に對する敬虔の念厚きを示すものにして、信仰心の深さを見るべし。

神社と神道

市内に於ける神社は縣社二、郷社一、村社四、無格社五十六、計六十三社にして此外境内神社七十一社あり。神道教は微々として振はず、教務所は大成教三、神理教二、大社教一、金光教二、天理教二あり。

佛 教

市内には扶桑最初の禪窟なる聖福寺あり、眞言東漸の第一歩たる東長寺あり、我國の宗教史と深き關係を有する事とて、佛教の隆盛なる亦怪しむに足らず、今天台宗六、眞言

宗六、淨土宗十九、臨濟宗十三、曹洞宗六、眞宗二十三、日蓮宗十、時宗一、計八十四寺院あり、此外院外の佛堂三十五あり。

基 督 教

基督教亦た盛にして市内に於ける教會は浸禮教會一、美以教會二、バリストス正教一、日本組合教會一、日本聖公會二、舊教一、計八箇所あり、各教會皆多數の信者を有せり。

衛生と警備

大學醫院——市立荒津病院——醫師——市民の健康

所——水道——消防組——水難救護組——巡查派出所

生命財産の安危は一に繋りて衛生警備の施設如何にあり。由來本市は氣候克く調和され寒暑酷烈ならず、加ふるに前は博多灣の絶景を望み後は白砂青松相連りて、氣候の温暖、風光の明媚は衛生設備の完成と相俟ちて健康地たるを失はざるなり、海陸に於ける警備も今や完全せざるはなし。

大學附屬醫院

福岡縣立病院は明治十年の設立にして爾來幾多の變遷を重ね市外松原に大建築を起すや、位地の良好と設備の完全に於て全國病院の模範と稱せられ、醫員亦有數の國手にして病院の聲價大に揚り遠く來院するものあるに至り、醫科大

學設置の素因を作れり。明治三十七年大學設置と共に本病院を寄附し爾後大學附屬醫院として著るじき發達を遂げ地方醫界の中樞として貢獻する所多大なり。

市立荒津病院

明治十二年虎疫流行の際市外松原に假病室を設置したるに始まり、爾後増築又は補修を行ひ大に規模を擴張し各種傳染病患者を收容し來りしが、四十一年榊木屋町に移轉し荒津病院と稱す。而して衛生思想の普及せる結果傳染病の蔓延流行すること稀にして一年間の入院患者は八十名内外に過ぎず。

醫師

近年各科専門醫の續々開業するあり私立病院亦設置さるゝありて大學醫院に收容し得られざる患者の來診入院を求むるもの多し。現今醫師六十九名、齒科醫五名あり、又産婆三十八名あり。

市民の健康

本市一年間の出生兒千九百四十四人に對し死亡は千二百五十四人を算す、即ち出生は全人口の三分五厘弱、死亡は二分六厘強に當れり。而して死亡者の病症別によれば呼吸器病三百三十人を最とし發育營養的病百七十四人、消化器病百九十一人、神経系及五管病百八十八人、傳染性病百五十二人等之に次ぐ。

上水道

本市の大部分が往昔海濱の斥地なりし事とて井水鹽分を含み有し飲料に適せざるを以て、市民の多くは各個に良水を購買し其供給によりて僅に之を便する有様にて上水道敷設の急を唱へ、市に於ては先年來之が調査を遂げ假に設計を終へて國庫補助の申請中なるが、水源は室見川の上流早良郡内野村字曲淵の溪谷とし人口十二萬に給水し得べき設計にて、該費用には約三百萬圓を要する見込なり。

消防組

近年各地に於て頻々大火の報を耳にするに際し、我市民は寧ろ怪訝の念を以て之を迎へざるはなし、蓋し柳町、善小路、片土居町、藏本町等の火災は市民の視て以て大火と爲すと雖も類焼家屋三十戸を出でず、是れ家屋の構造給水の便利等其因を爲すものあれども亦警備設備の完整と當事者の機敏なる動作とに依らずんばならず。現時消防人員三百八十人にして之を四組に分ちて變に備ふ。又市附近には豊平、千代、堅粕、席田、住吉、鳥飼、西新等の各町村に消防組の設置あり、警鐘一打皆動く。

水難救護組

水難に對する救護設備としては伊崎浦に私設難破船救護組の設ありて市の補助を受け救護船を有し、市附近の漁村亦此設備ありて緩急相救ひ些の遺漏あることなし。

巡查派出所

福岡警察署は天神町にあり市内に於ける巡查派出所は左の十二個所にして配置巡查数は人口約八百人に對し一人の割合なり。

橋口町(福岡)、薬院町、本町、荒戸町、西町、橋口町(博多)、下祇園町、下呉服町、官内町、大濱町、柳町、博多停車場、下對馬小路(水上を管す)

尙武

旅團司令部——福岡聯隊——尙武會——在郷軍人團——武徳殿——町道場——學校の武術——野球——庭球——端艇——競走

本市の地位たる古來内外四戰の巷となり、譽ある古武士の流血は深く地殻に滲入し、脈々として忠愛の念尙武の氣を後人に傳ふるものあり。雄々しき男子は言はずもかな、婦女子に至るまで軍事思想に富み、近く日露戰役に際しては遺憾なく其特性を發揮して各々報國の途を謬らず、出でばは國家の干城となり入りては志を養ひ、強壯なる身體は健全なる精神を宿し以て九州男子の本場たる所以を空しうせざるなり。

旅團司令部

歩兵第三十五旅團司令部は福岡城内にあり、日露戰役後の

設置にして歩兵第二十四聯隊及び歩兵第十四聯隊を管す。

福岡聯隊

歩兵第二十四聯隊は福岡城内に屯營す。日清戰爭には旅順港二龍山の險を一舉にして奪取し、日露戰役には第一軍に屬して鴨綠江の第一戰に参加し蛤蟆塘の苦戰以後奉天戰役に至るまで幾十戰、武名大に著はる。

尙武會

市内有志者及び在郷軍人を以て組織し、軍人家族の救助、入退營軍人の送迎其他軍人慰安の方法を講じ、尙武の氣風の振興に力めつゝあり、曩に日露戰役紀念として西公園下新道路より杉土手にかけて數百株の櫻樹を植付け市に一光彩を添へたり。

在郷軍人團

市内在郷軍人中の有志を以て組織し、事務所を魚町に設け軍人慰安の方法を講じつゝあり。

武徳殿

大日本武徳會福岡支部武徳殿は大名町にあり、本市武術の中樞にして各々日割を設けて練磨研鑽し毎に曳々の聲を絶たざるなり。

町道場

十年前迄は市内に柔術道場九、劍術道場四を數へ、武術の

重んぜらるゝ事他に其例を見ず、剛健なる九州男子の眞面目を發揮したりしが、時代思想は文弱の弊を導き加ふるに各學校に道場を設けて之を奨励するに至りしを以て町道場は漸次衰微に赴き、且つ野球庭球の流行により斯道に志すもの漸く少く、今や明道館、天真館、吉田の三柔術道場と淺野、幾岡二劍術道場を剩すのみ、昔日の隆盛復た見る可からず。

學校の武術

身體を鍛ひ心膽を練るは武術に如くものあらず、然れば町道場の全盛時代なる明治三十年頃、修猷館師範學校に於ては校内に道場を設けて之を奨励し、學生争うて之に越き爾來町道場の繁榮は全く之に奪はれたるの觀あり。

野 球

本市に於て秩序ある野球競技は明治二十八年の秋福岡聯隊鎮魂祭餘興として中學修猷館選手に由て行はれたるを嚆矢とす。當時何等世人の注意を惹くことなかりしが、三十年頃熊本山口兩高等學校の對校競技の本市に於て行はれたるより頗る野球熱を喚起し、先づ師範學校に野球團起り次で十七銀行員有志は中學校有志を加へて一團を組織し、斯くの如くして三野球團鼎立して野球趣味を鼓吹し、各學校亦之に倣ひて技を練り、先年醫科大學内に初めて完全なるグラウンドの設置を見、續て縣下各中學校選手の競技會あり、

斯界は長足の進歩發達を示し來れるも猶多望なる未來を有するなり。

庭 球

庭球の本市に傳はりたるは明治三十三年前後の事にして當時は師範學校及修猷館に於てのみ之を見たりしが、今は各學校にコートの設備あらざるなく寧ろ野球以上の勢力を有し、福岡醫科大學主催の下に明治三十九年以降縣下各中學校選手競技會を催し之を奨励し居れり。

端 艇

醫科大學を始め各學校には各々端艇部の設けあるも、本市の北面に展けたる一灣の水は時に風強く波荒くしてオートルを握るに便ならず、斯界の發達に多大の障害を來し殊に競漕場として適當の水路を有せざるを以て競漕の趣味索然として世人の注意を喚起するに至らず、従つて漕界振はず各校選手の技倆も亦優れたりと言ふべからず、只師範學校選手のあるありて琵琶湖上の競漕に馳名を現はし本市端艇界の爲めに萬丈の氣を吐く。

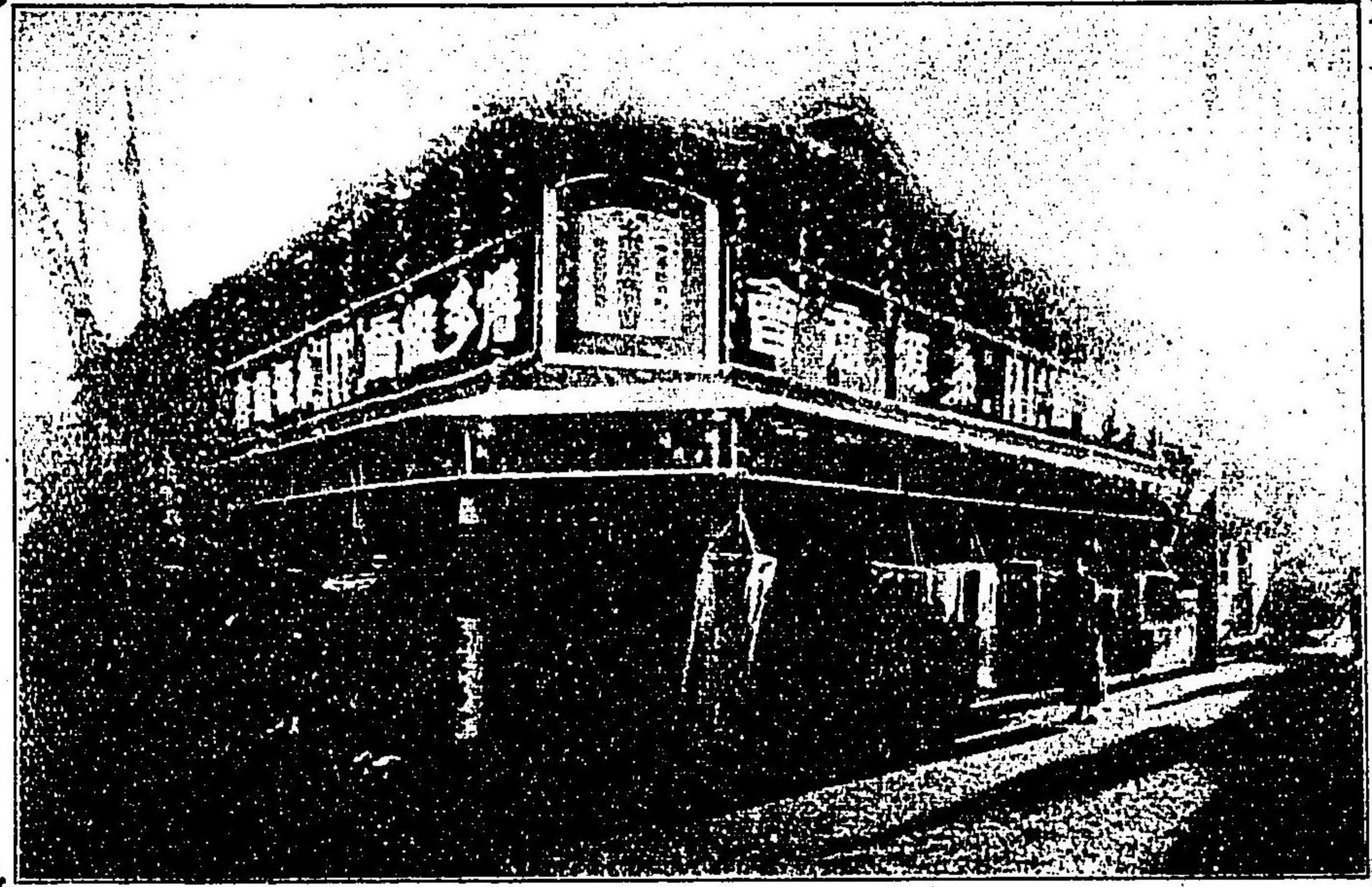
競 走

福岡醫科大學運動會に於ては、毎年縣下各中學の選手及び各小學の選手をして各々優勝旗を争はしむ。是より競走熱俄然として起り、競走は運動會の花として世人の注目を惹くに至れり。

新聞及雜誌

本邦新聞事業の消長を見るに、東に東京諸新聞紙あり、畿内には大阪諸新聞紙あり、前者は關東東北の地に雄飛し、後者は關西に濶歩し、地方新聞は之に壓迫され發展の餘地乏しく群小空しく社運の微々たるを嘆ずるに反し、九州は遼隔の地にして京阪新聞の勢力及ばず新聞紙界別天地の觀あり、而して我福岡市は九州の首都として、九州文明の先覺者として百般の事物皆茲に策源し、新聞事業の如き異常の發達を示せり。めざまし新聞は最初の新聞紙にして實に明治十一年十二月の發行に係り、翌年筑紫新聞と改稱し、二十四年更に福岡日々新聞と改稱して日刊とし以て今日に至り、縣下政友會の機關新聞として社運隆々たり、九州日報は明治二十年八月の創刊にして初め福陵新報と稱し、憲政本黨の機關紙として地盤鞏固なり。該兩新聞は何れも八頁年中無休刊にして共に輪轉機を使用し、發行部數前者は四萬後者は二萬、紙面の體裁内容共に京阪の新聞紙に遜らず、實に地方新聞中第一位に居り、勢力範圍も獨り縣下に止まらず、佐賀、熊本、長崎、大分、山口各縣及び韓國に及ぶ。近來交通の便大に開け京阪諸新聞の侵入し來るあるも之を併讀するに過ぎずして、兩新聞の勢力に何等の影響を與へざるなり。其他新聞雜誌の發刊少なからざるも起倒

博 多 織 商



糸 源 商 會

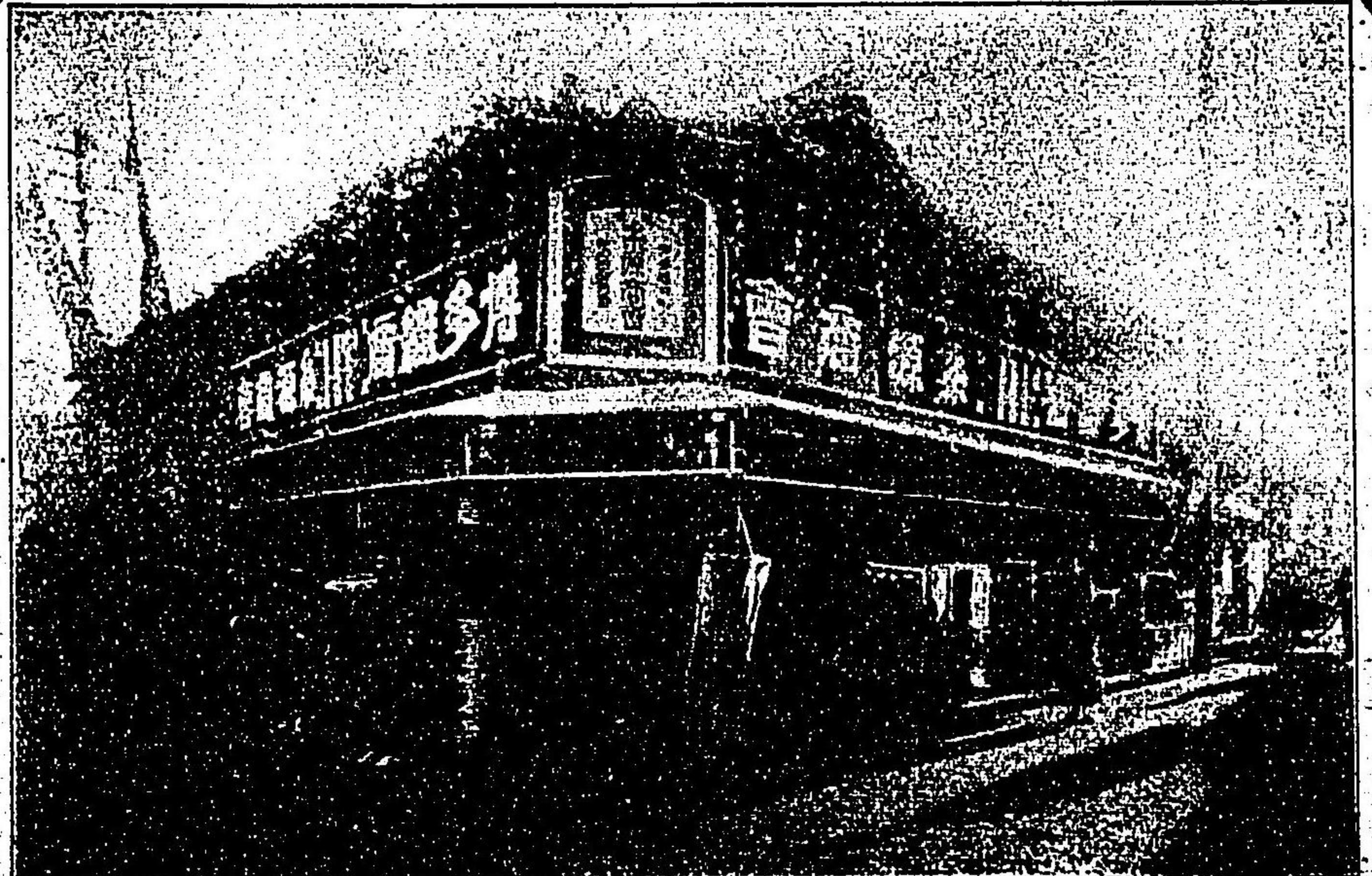
製 造 販 賣 元

筑 前 博 多 橋 口 町

新聞及雜誌

本邦新聞事業の消長を見るに、東に東京諸新聞紙あり、畿内には大阪諸新聞紙あり、前者は關東東北の地に雄飛し、後者は關西に濶歩し、地方新聞は之に壓迫され發展の餘地乏しく、群小空しく社運の微々たるを嘆ずるに反じ、九州は遠隔の地にして京阪新聞の勢力及ばず新聞紙界別天地の觀あり、而して我福岡市は九州の首都とて、九州文明の先覺者として百載の事物皆茲に策源し、新聞事業の如き異常の發達を示せり。めざまし新聞は最初の新聞紙にして實に明治十一年十二月の發行に係り、翌年筑紫新聞を改稱し、三十四年更に福岡日日新聞と改稱す。今日に至り、縣下政友會の機關新聞とて社運隆々たり、九州日報は明治二十年八月の創刊にして初め福慶新報と稱し、憲政本黨の機關紙とて土地盤鞏固なり。該兩新聞は何れも八頁年中無休刊にして共に輪轉機を使用し、發行部數前者は四萬後者は二萬、紙面の體裁内容共に京阪の新聞紙に遜らず、實に地方新聞中第一位に居り、勢力範圍も獨り縣下に止まらず、佐賀、熊本、長崎、大分、山口各縣及び韓國に及ぶ。近來交通の便大に開け京阪諸新聞の侵入し來るあるも之を併讀するに過ぎずして、兩新聞の勢力に何等の影響を與へざるなり。其他新聞雜誌の發刊少なからざるも起倒

博 多 織 商



筑前博多橋口町

二七

糸 源 商 會

製 造 販 賣 元



二九



河内機料店
河内洋品店

博多行町

綿糸。布綿。

博多行町

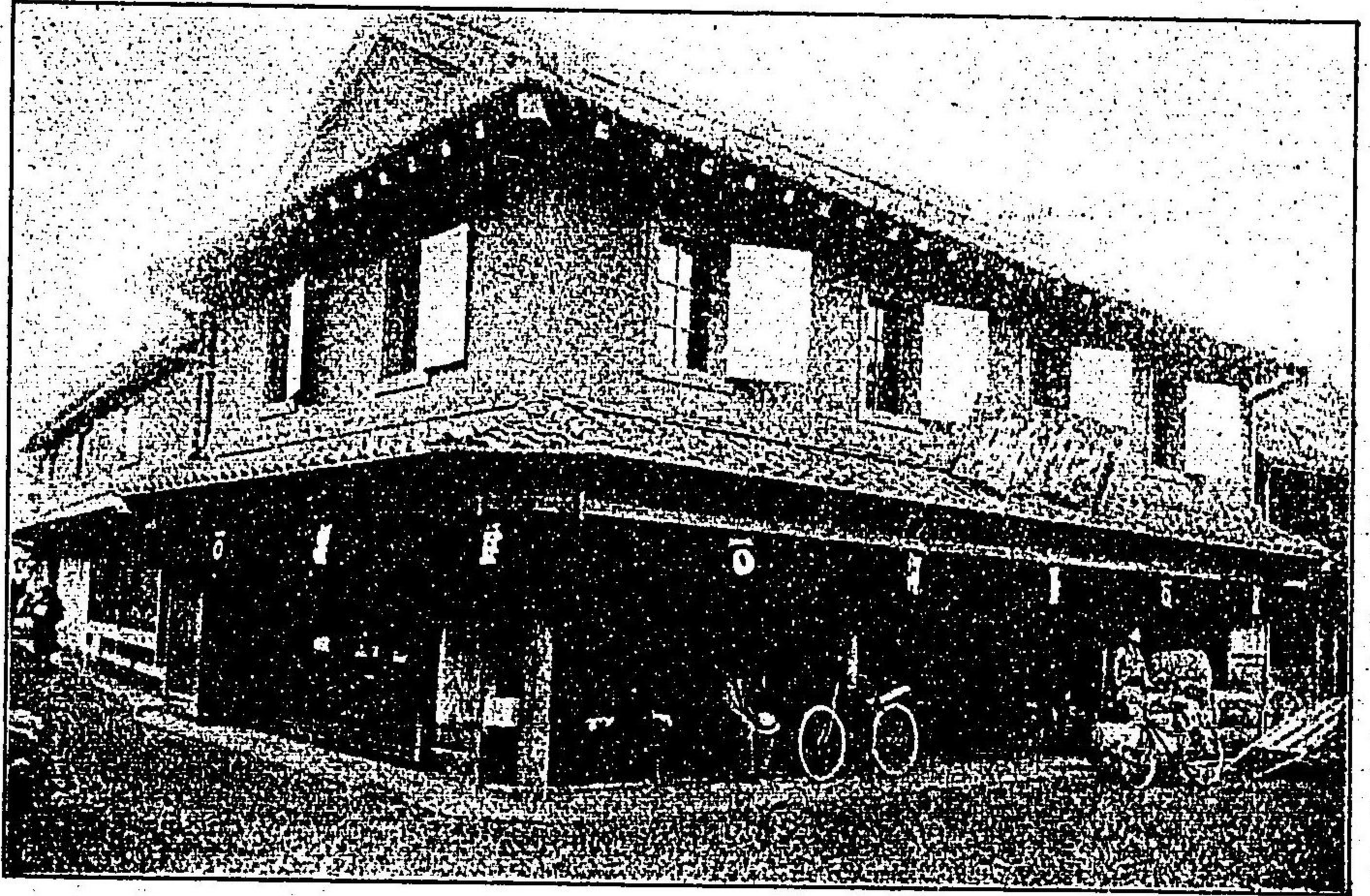
河

内

糸

店

(電話二百三十七番、
大阪六七五三番)



二八

金物卸商



三

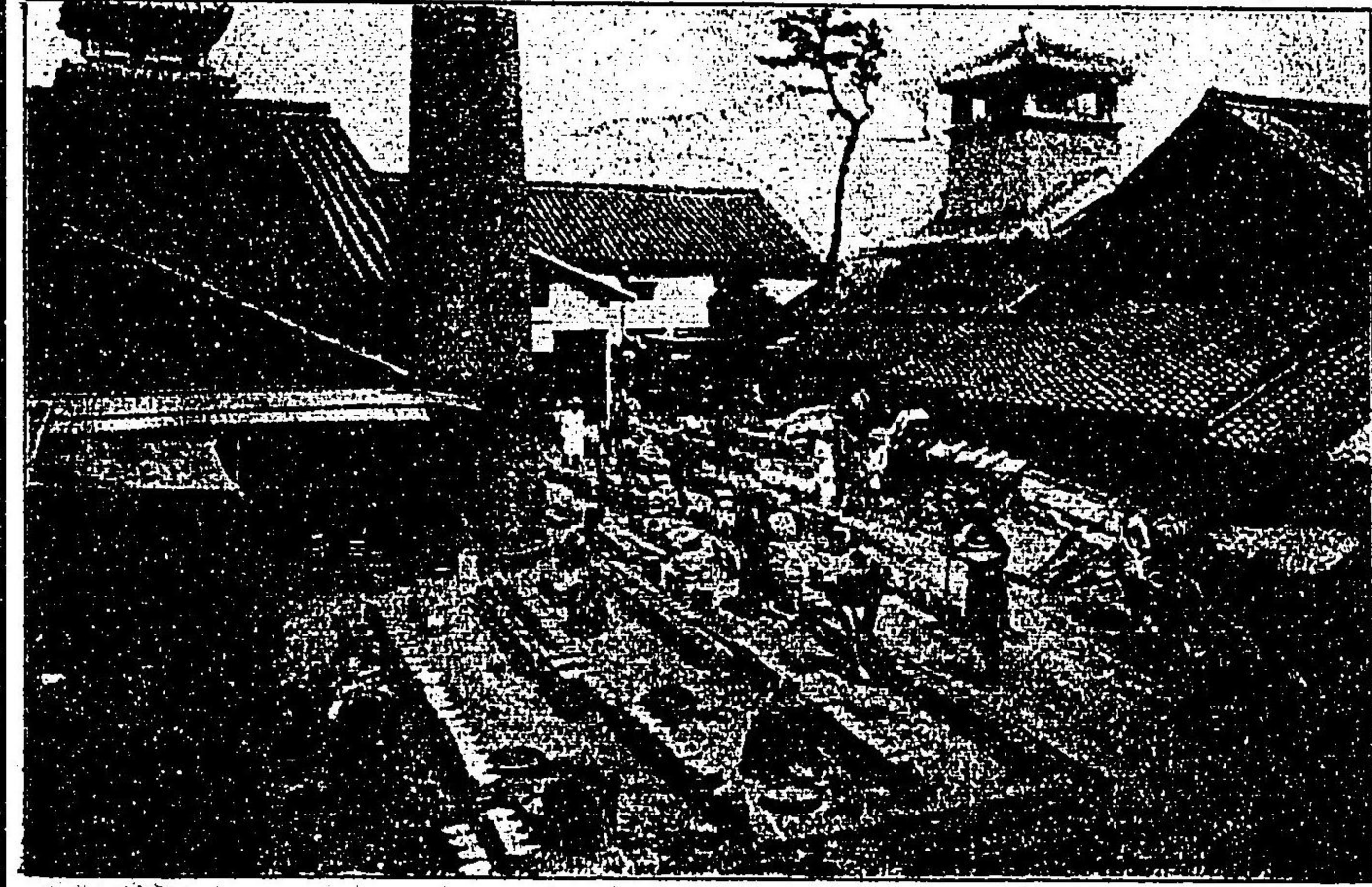
福岡市上土居町
深見平次郎支店

特電 電話 三十五番
振替口座 大阪 二七八二番

三一

製造品目 } 博多鉄 ○ 博多錠 ○ 改良バツケ及ベルツ
小兒自用轉車 ○ 銅真中鐵細工物類

鑄造業



三

福岡市上土居町
かなや 深見平次郎本店

特電 電話 三三四番
振替口座 大阪 二七八三番

三〇

鑄造先 鍋釜、引トセ、銅像、紀念碑、梵鐘、神佛具、青銅製品

有田燒九州販賣部



製造本舖 肥前國有田町

寶

福岡市博多中島町

林慶次支店

三三

電話八八二番

うなぎ・御料理



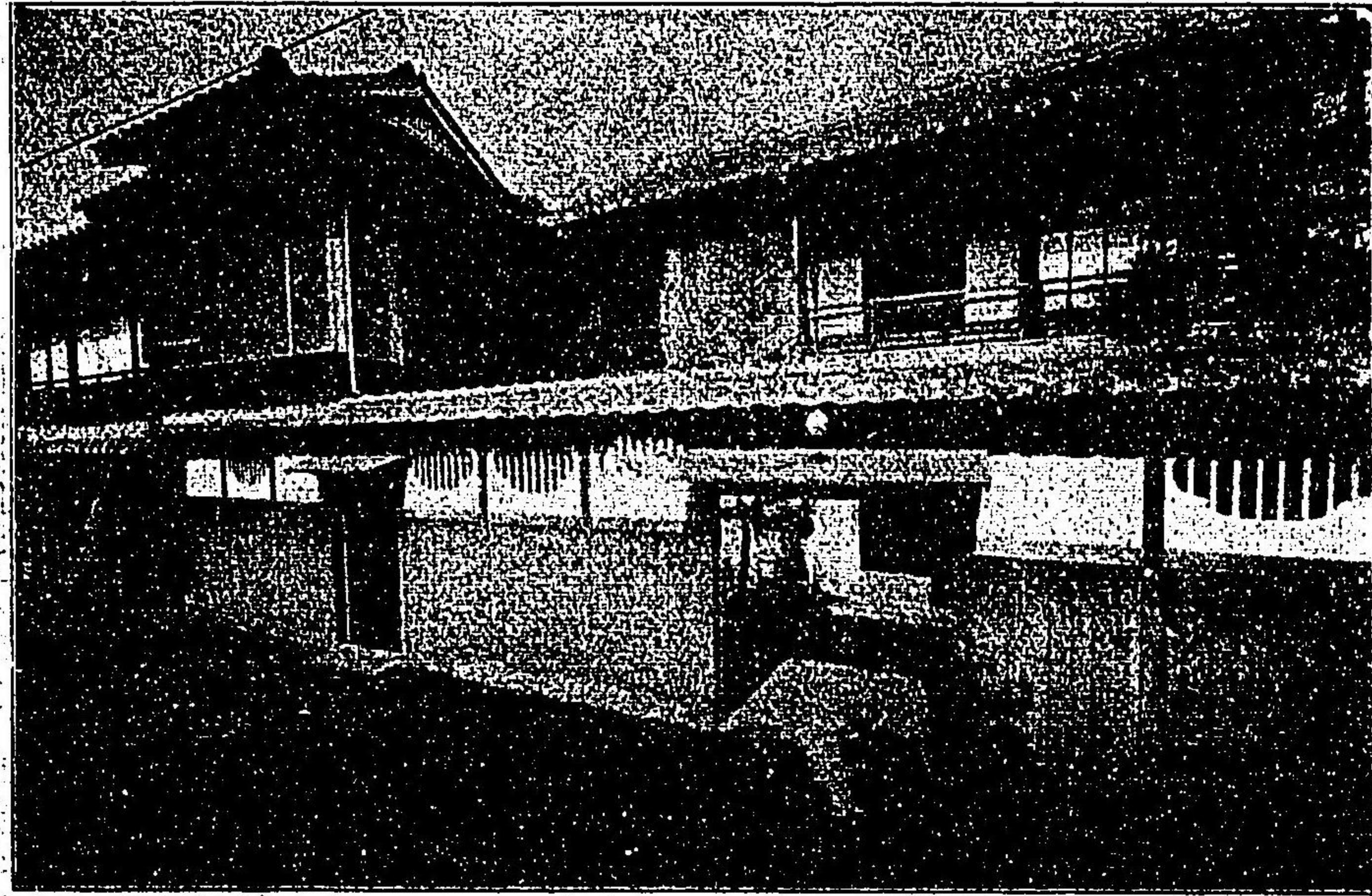
市内の中央に位し
割烹最も熱達せり

三三

福岡市東中洲 末廣

電話五百二十番

御 料 理



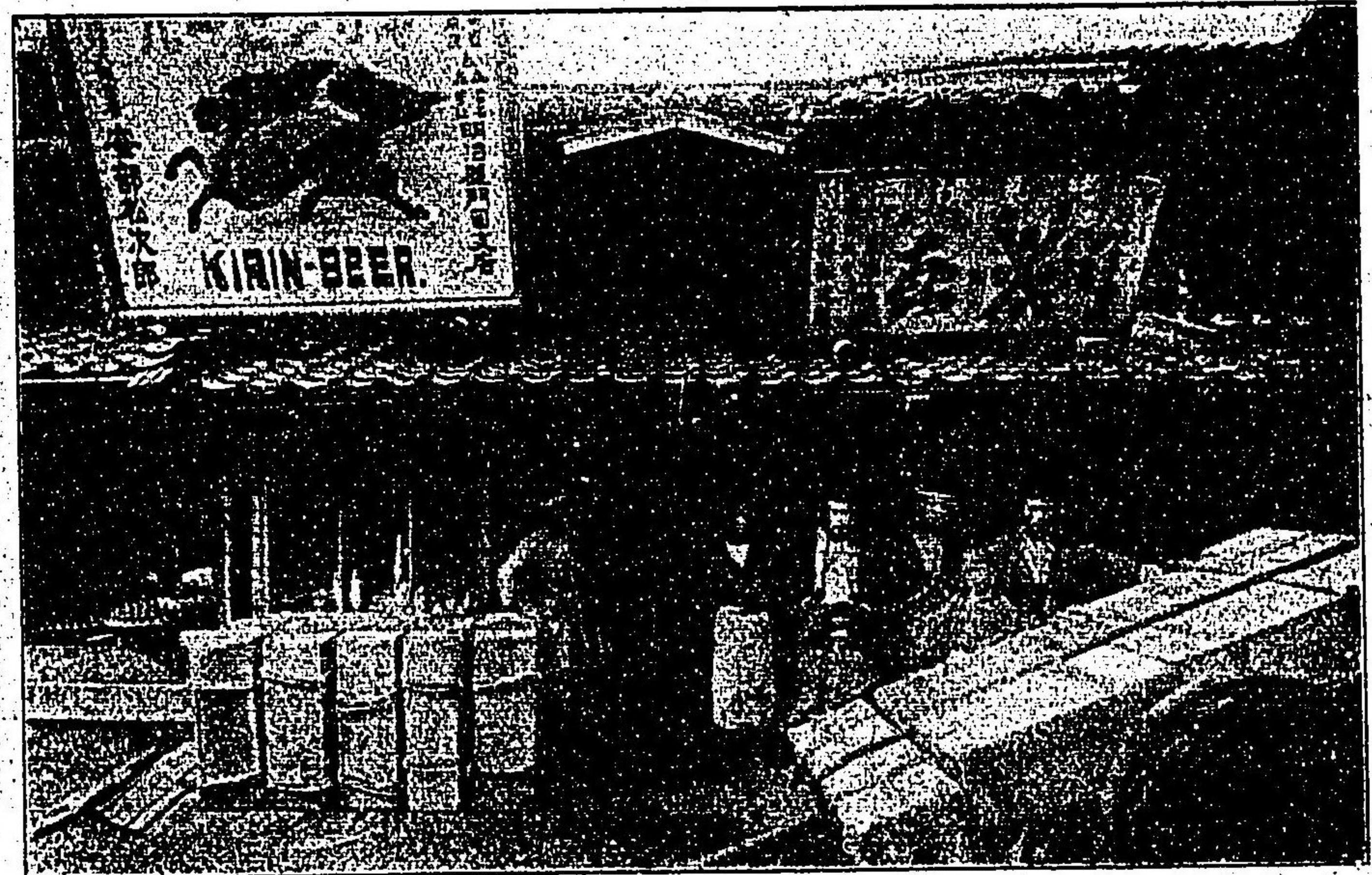
福岡市博多釜屋町

満 月

三五

番二十三百二話電

酒 類 卸 小 賣 商



澤之鶴
麒麟ビール

特約一手販賣

福岡市萬町

安部松次郎

三四

(番一十六百四話電)

土木建築請負業



竹田勘太郎

福岡市本町

電話五百五十八番

三七

萬町醬油



商號 楠屋

三六

醬油釀造元

福岡市萬町

白木半四郎

電話四百三十一番 東京振替金口座 一六八三

井上染料店

歐米各國諸染料工業藥品



本店

博多魚町
久留米市

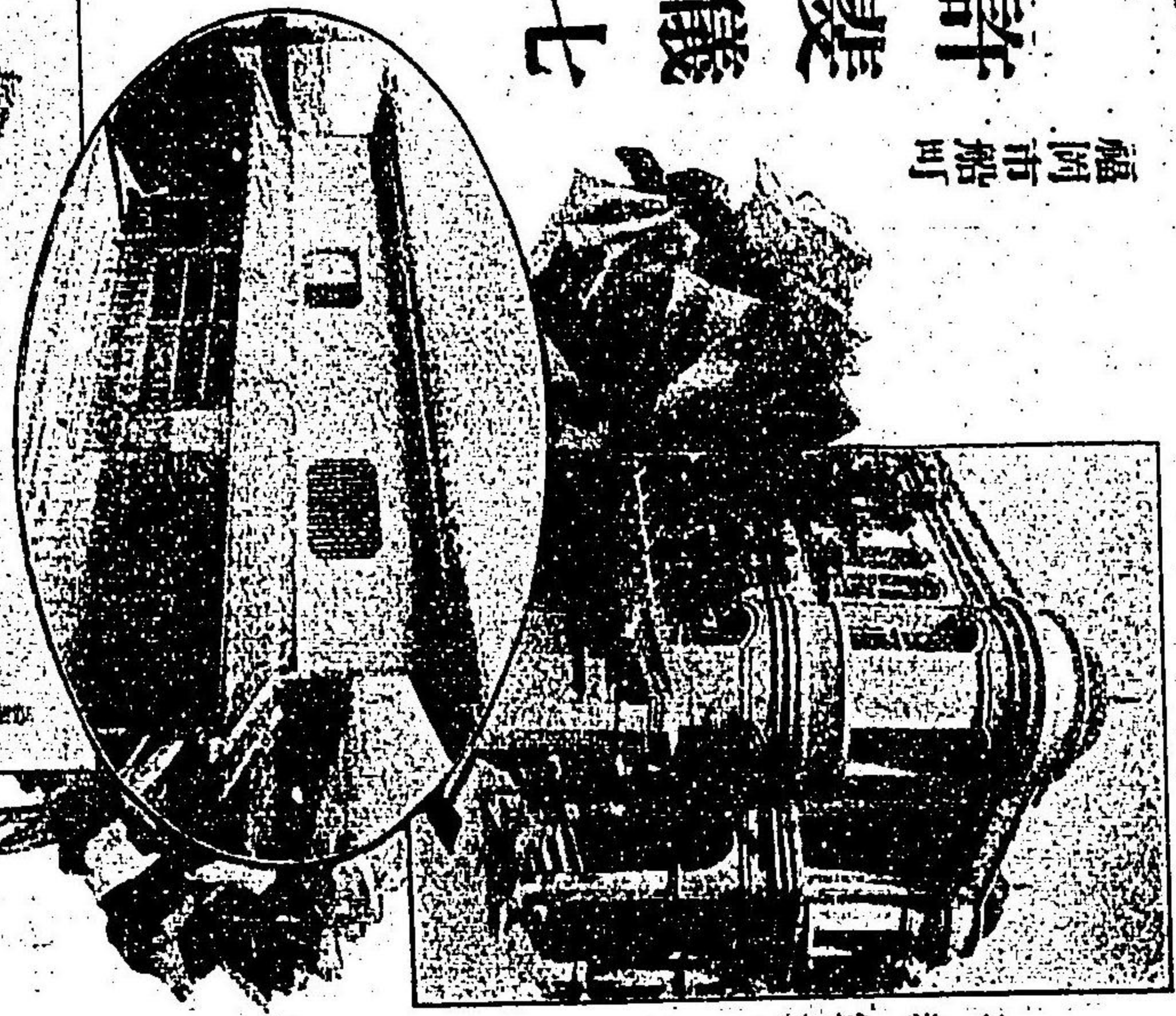
特長電話一四二八番
大阪振替貯金二八四番
市本町一丁目
電話四〇八番

清酒此乃美釀造元

電話二百十五番

許斐儀七

福岡市船町



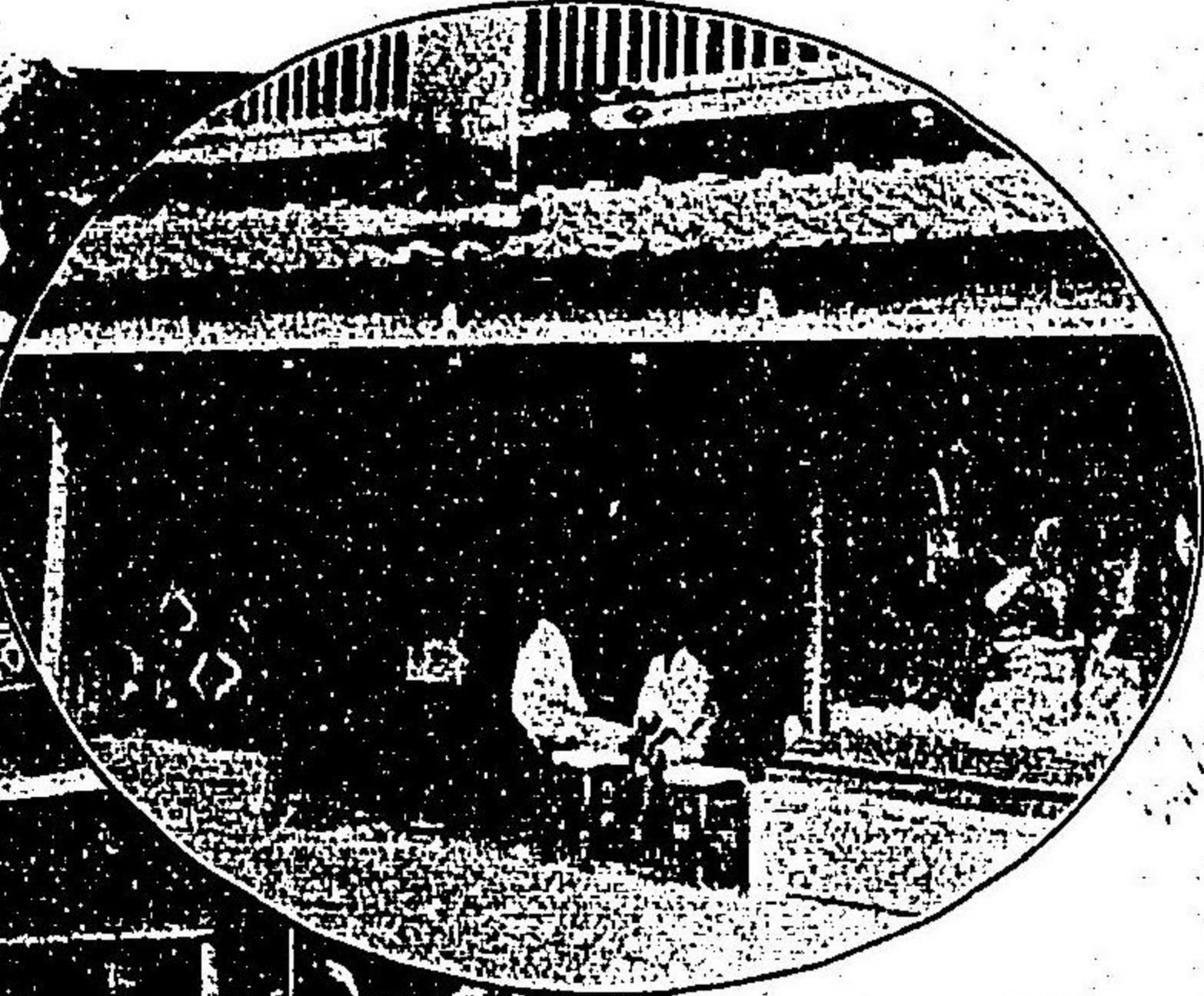
廣造場

三九

國博多絞製造販賣

四〇

博多絞店



博多本通

上洲崎町東詰

兎崎絞店

(電話七三一)

國博多織

製造販賣

博多本通
上洲崎町東詰



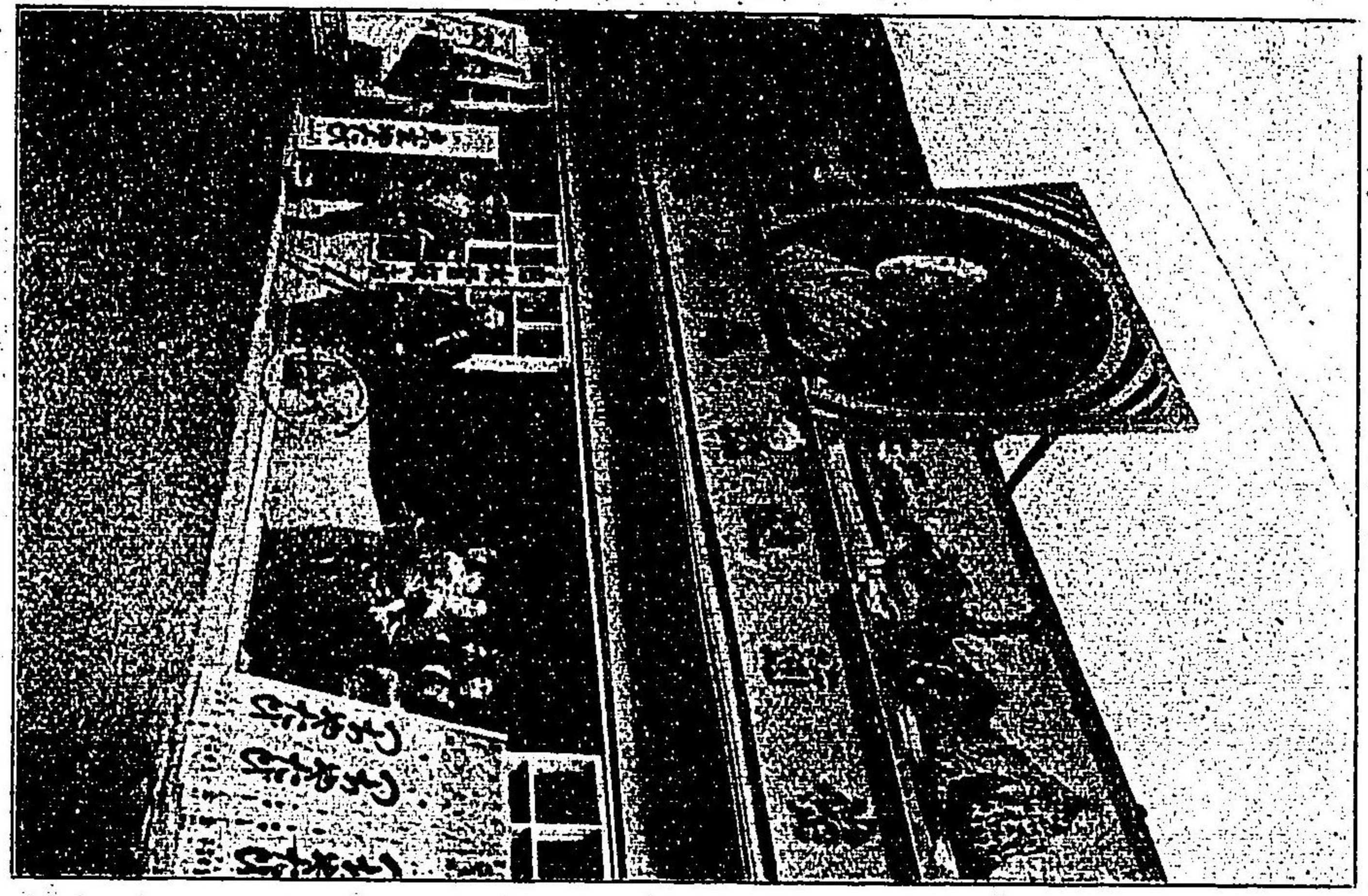
博多織店

兎崎帶店

電話七三一
總店大阪七二六九

かんばんか

明光堂
博多上新川端町
白水看板店
電話七八四番



四一

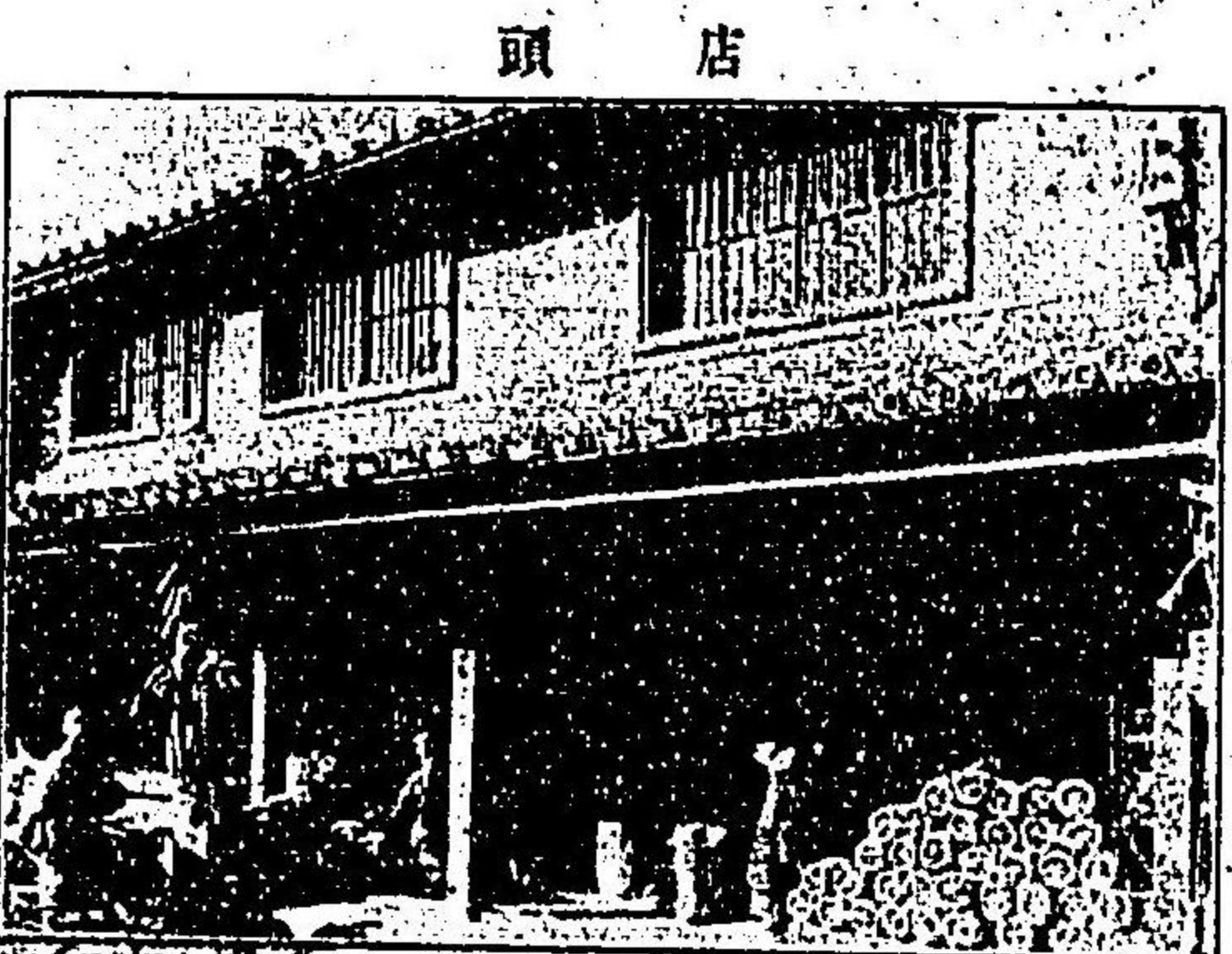
○謹告

不肖の現代社界に抱負する主義は他なし世間にある發明品の普及と供給を期し、これに運ばれ、今や常市に開催せらるる九州沖繩八縣聯合共進會に於て特許館の設けらるるの舉に千載一遇の好機會たり多年の主唱は今日始めて是れを有形的に組織し特許業者の組合を起すと同時に九州發明協會の組織をなせり本部を常市に置き支部を東京大阪京城の各方面に設け今後の發展上大に期する處あらんとす希くは江湖同感の七奮て不肖が赤誠のある處を諒せられ斯業に向て特許有權者諸君は固より其他に於ても多數の御協賛あらん事を切に望まんとすため聊か微衷を陳ぶるといふ



四三

九州十縣聯合共進會特許館出品指定所
九州三縣聯合共進會特許館出品指定所
明許會出品指定所
協出特許品指定所
冒記出品指定所
本定出品指定所
印定出品指定所
何許品專賣所
智囊堂
室王有
運 地番五十七町口橋市岡福



筑前博多
官内町
陶磁器卸商
久野村久兵衛

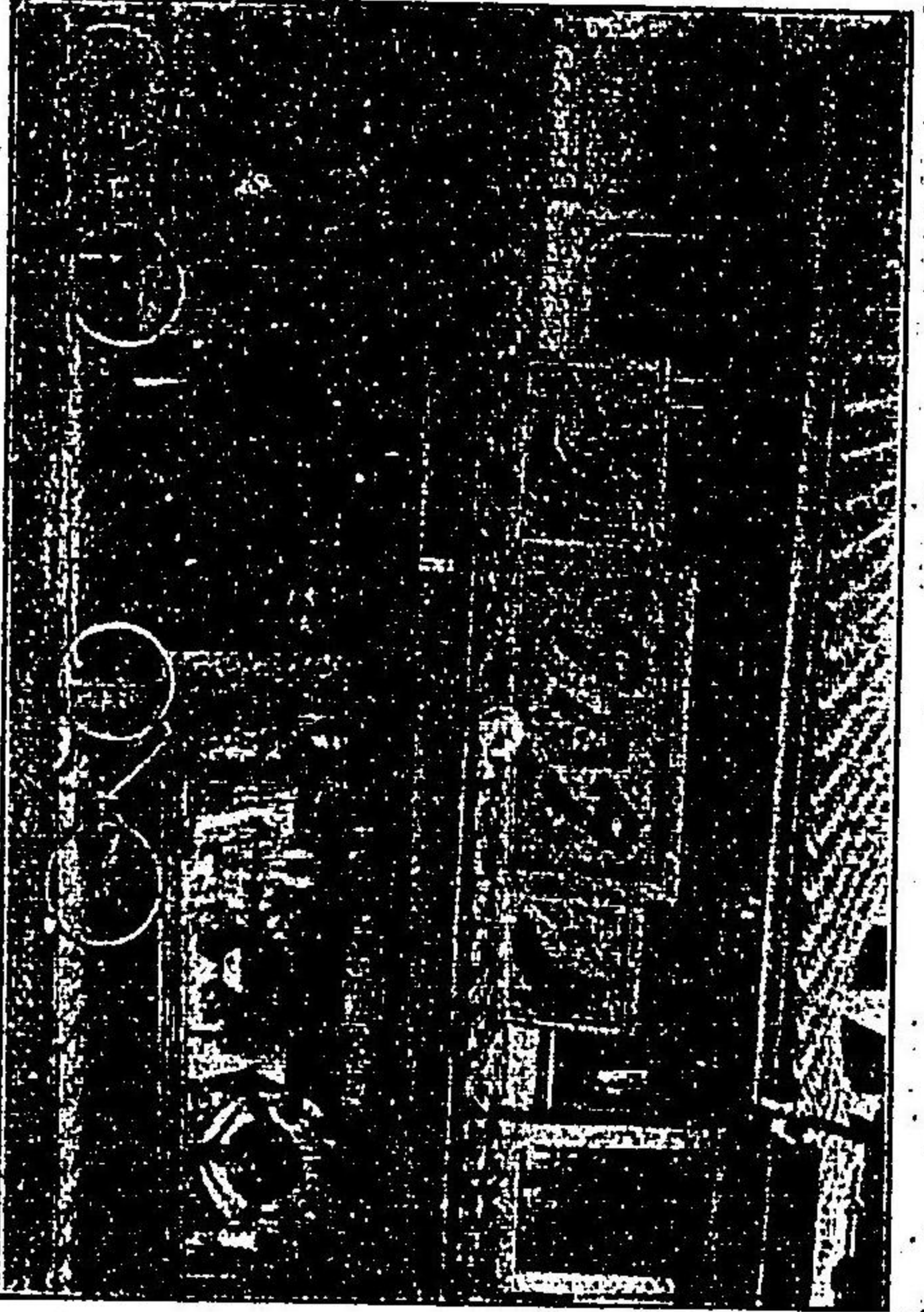
商號
官内斧屋

振替口座大阪二五八一番
電話二百十番

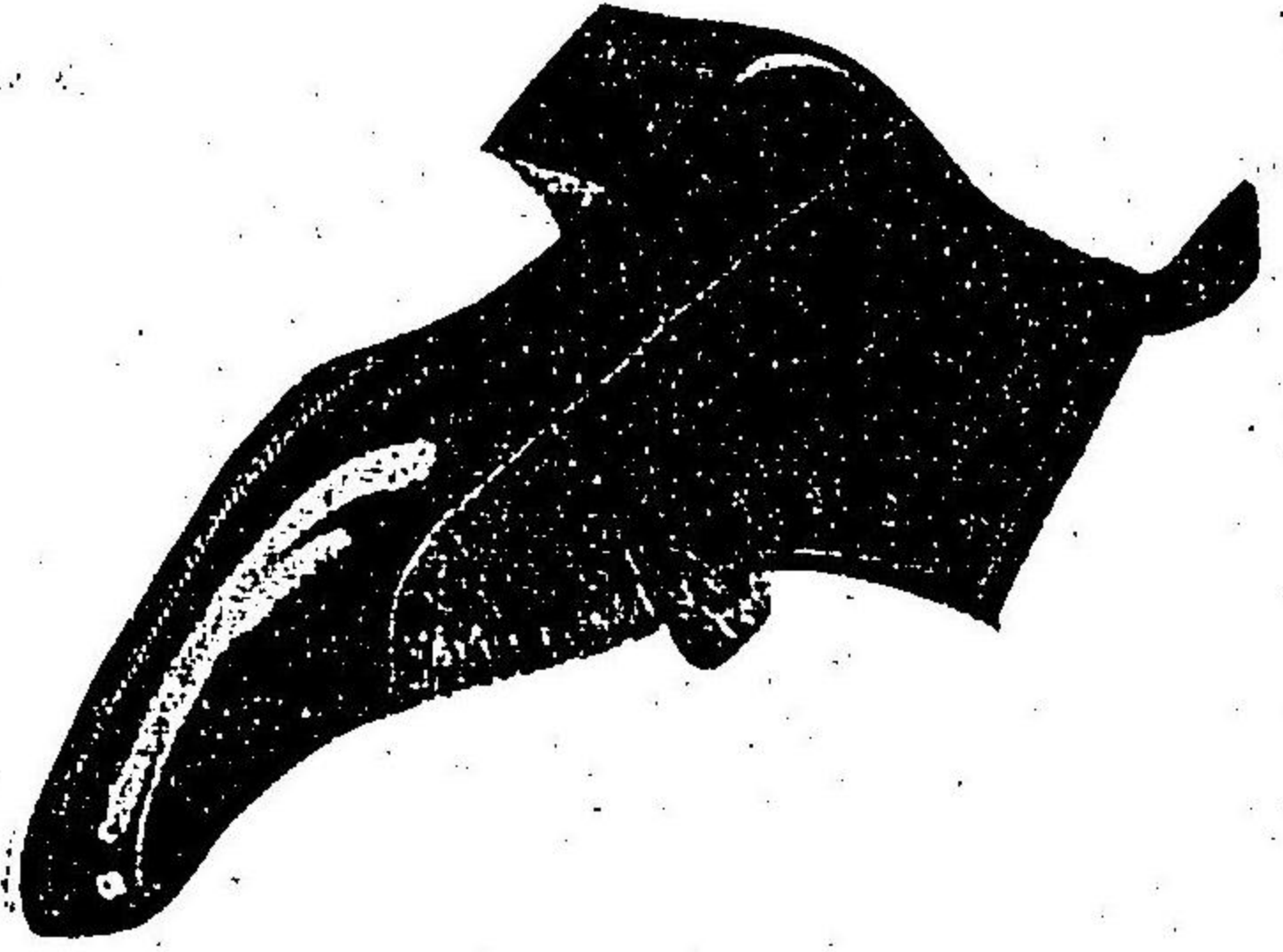
四二

所 靴 製

四四



福岡市橋口町
電話 八九番



高 田 六 助

理 料 御 鰻

地を東公園に占め四時の風景眺め絶ゆるの時なり



徳 安 善 助 電 話 七 百 番

筑前 博多 吉塚 うなぎや

四五

土木建築請負業

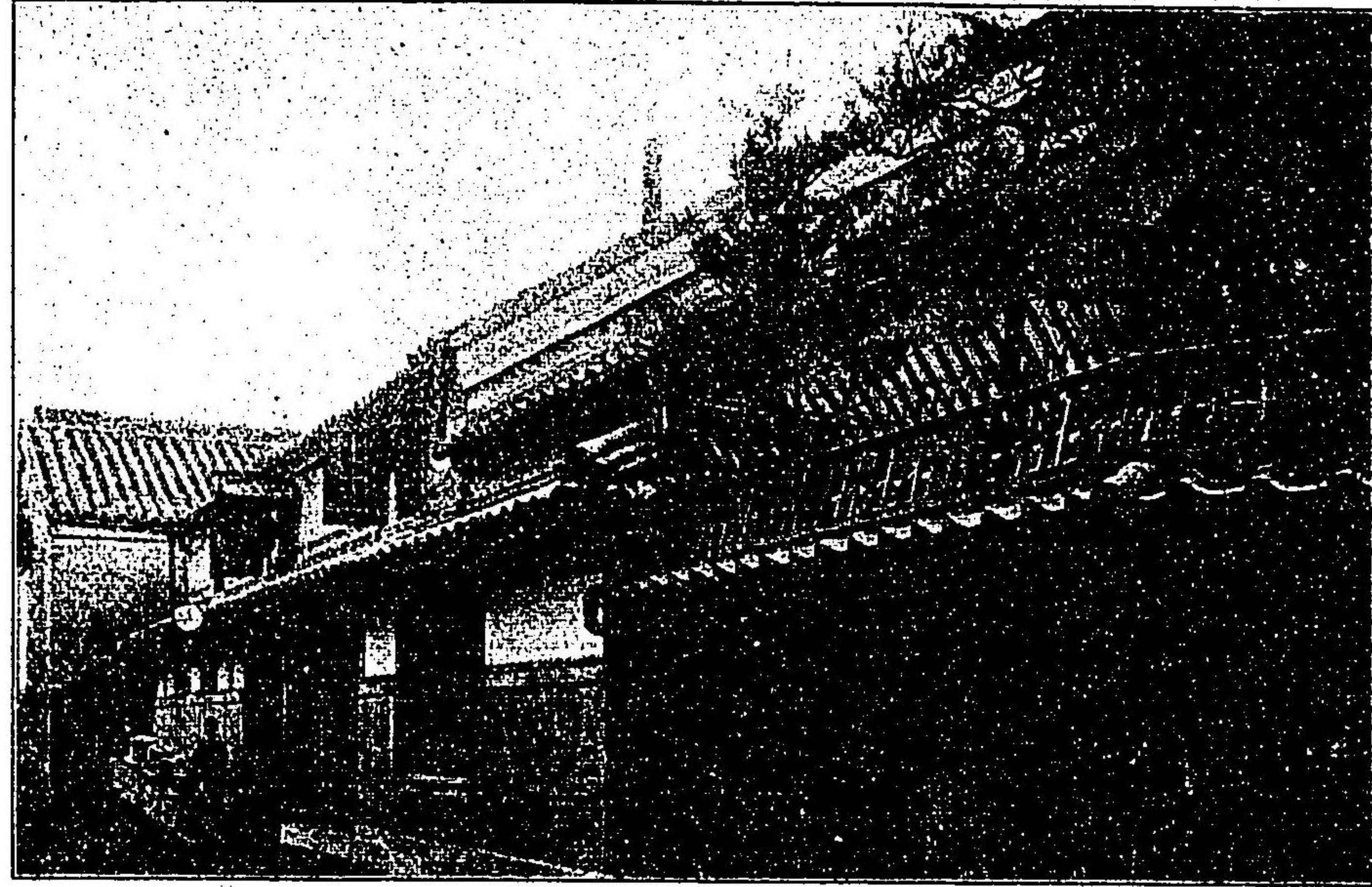


電話六百十番

福岡市中對馬小路
岩崎庄三郎

四六

二九娘釀造元

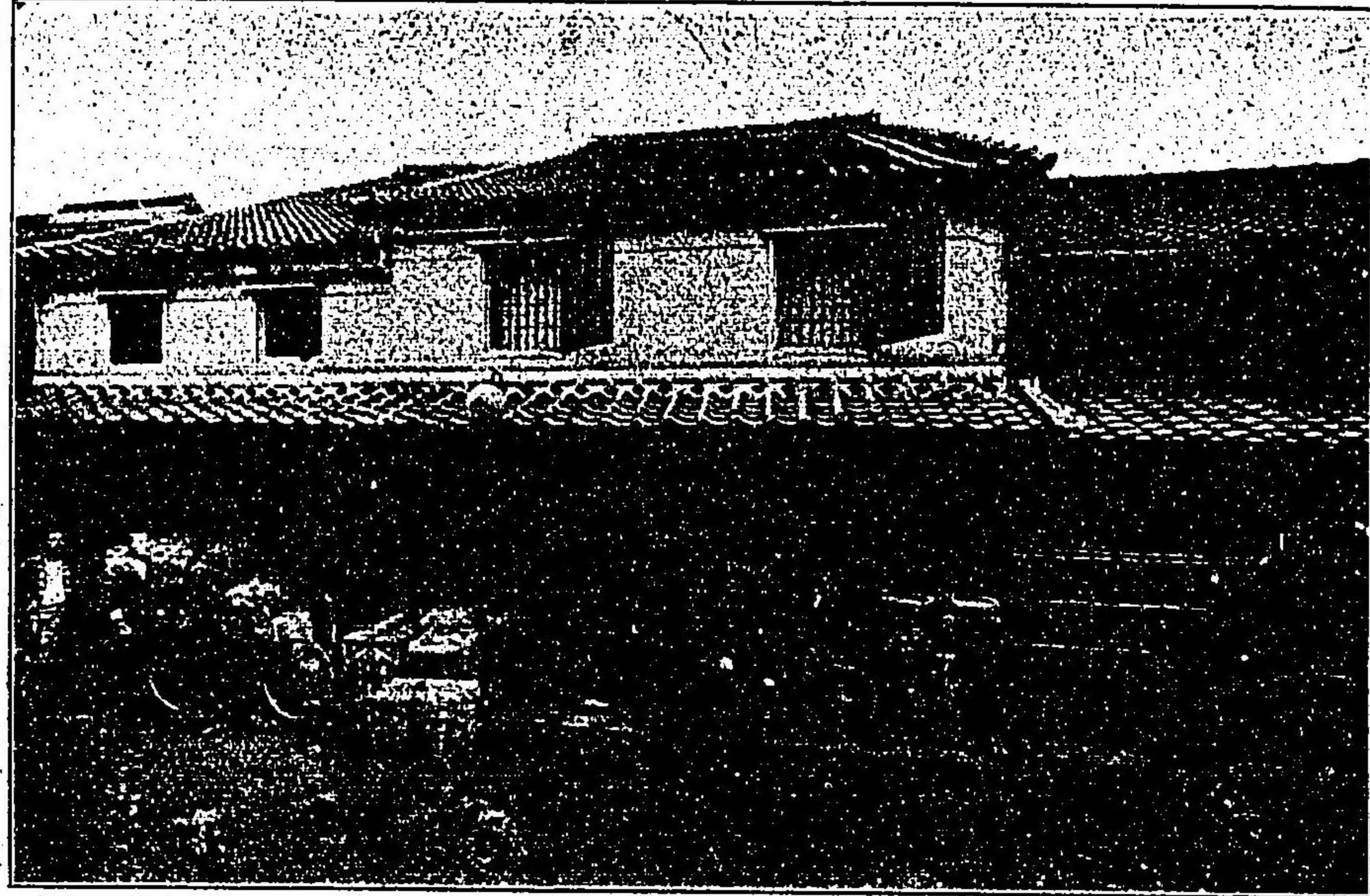


電話六百五十五番

福岡市博多濱小路
鳥羽屋 石橋源二郎

四七

乾物海產雜物穀卸商



福岡市博多
中對馬小路

全立石善平商店

四九

東洋一品壽泉苔一手販賣 ● 水戶蒟蒻粉販賣

電話四一四八番 東京(大坂) 振替口座 電話四二番

硝子商



福岡市博多
藏本町

荒卷芳三郎商店

四八

電話七百四十八番 ● 振替東京八五六三番

類瓶 ● 燈洋 ● 鏡兒姿 ● 器食 ● 切子硝 ● 子硝似

町行多博市岡福

店のもきは田百

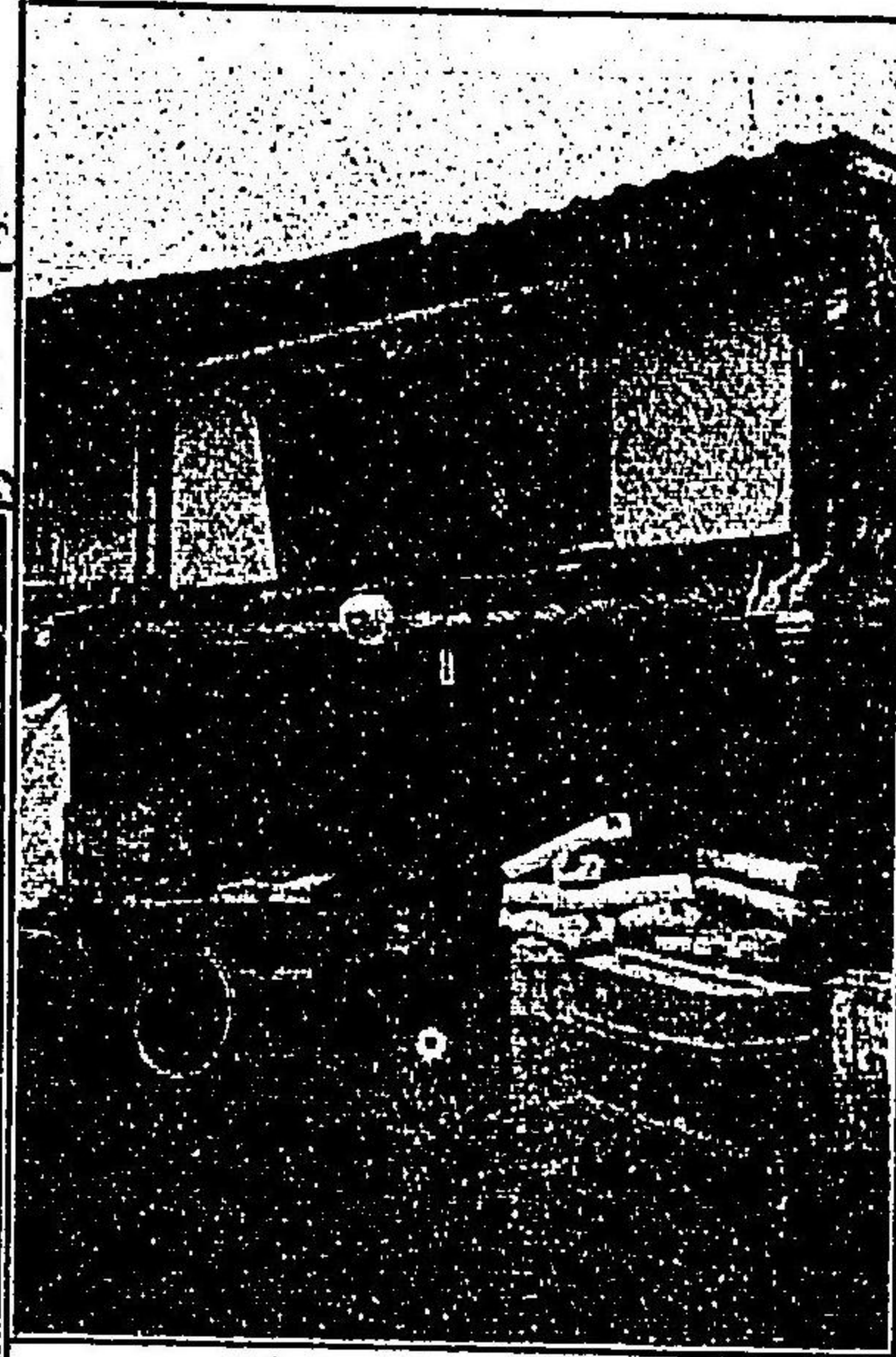
番一十三百三話電



五二

商のもきは

卸服呉



袋足々猩
賣販手一州九

博多掛町

百田商店

電話 三百三十一番

商標 油 醬 西 上 登 録

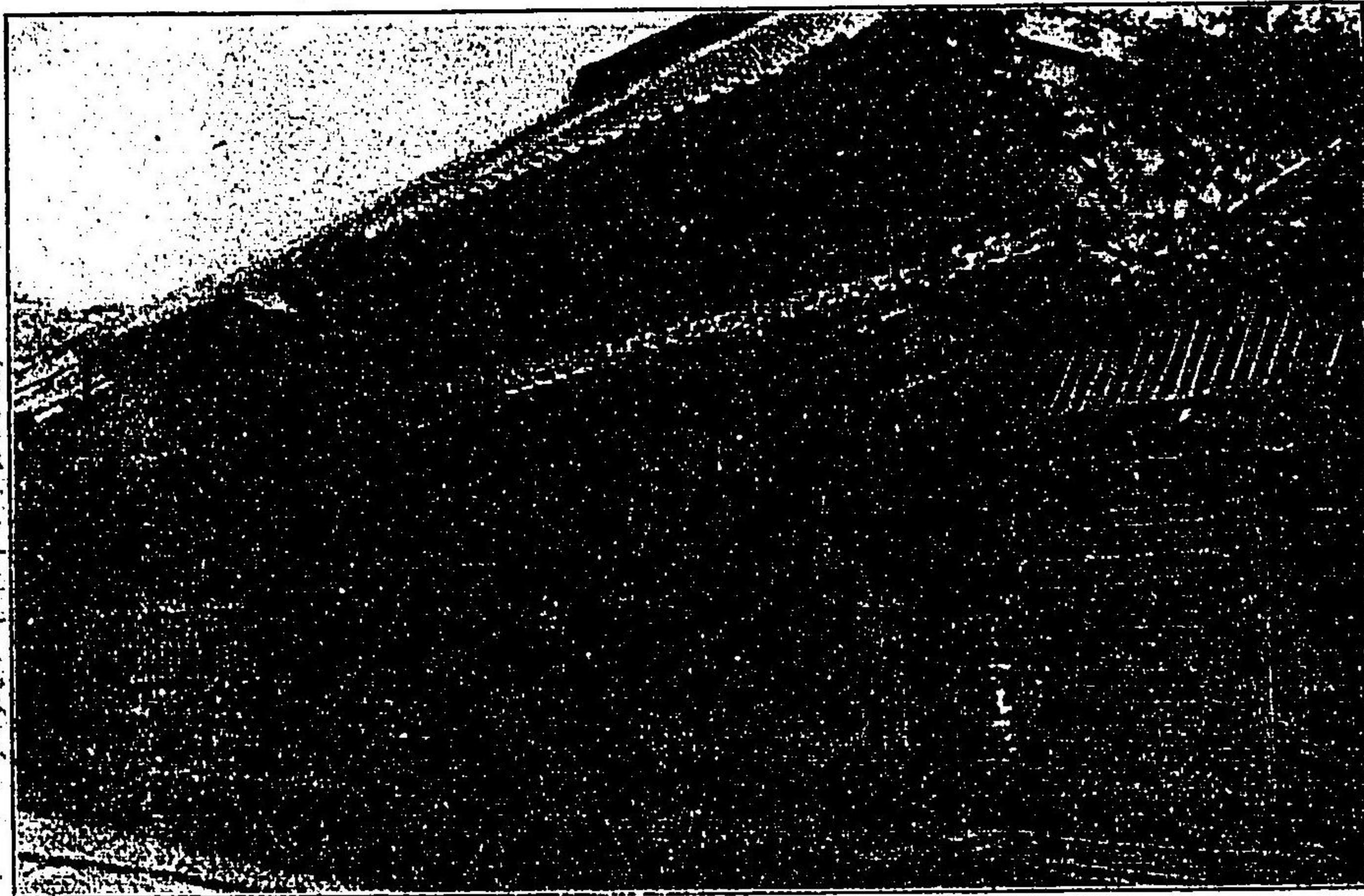


釀造元 筑前博多上西町
奥村治七
電話 七六〇番

五〇

番 六 五 八 六 三 三 販 大 座 口 替 振

銘酒綾杉釀造元

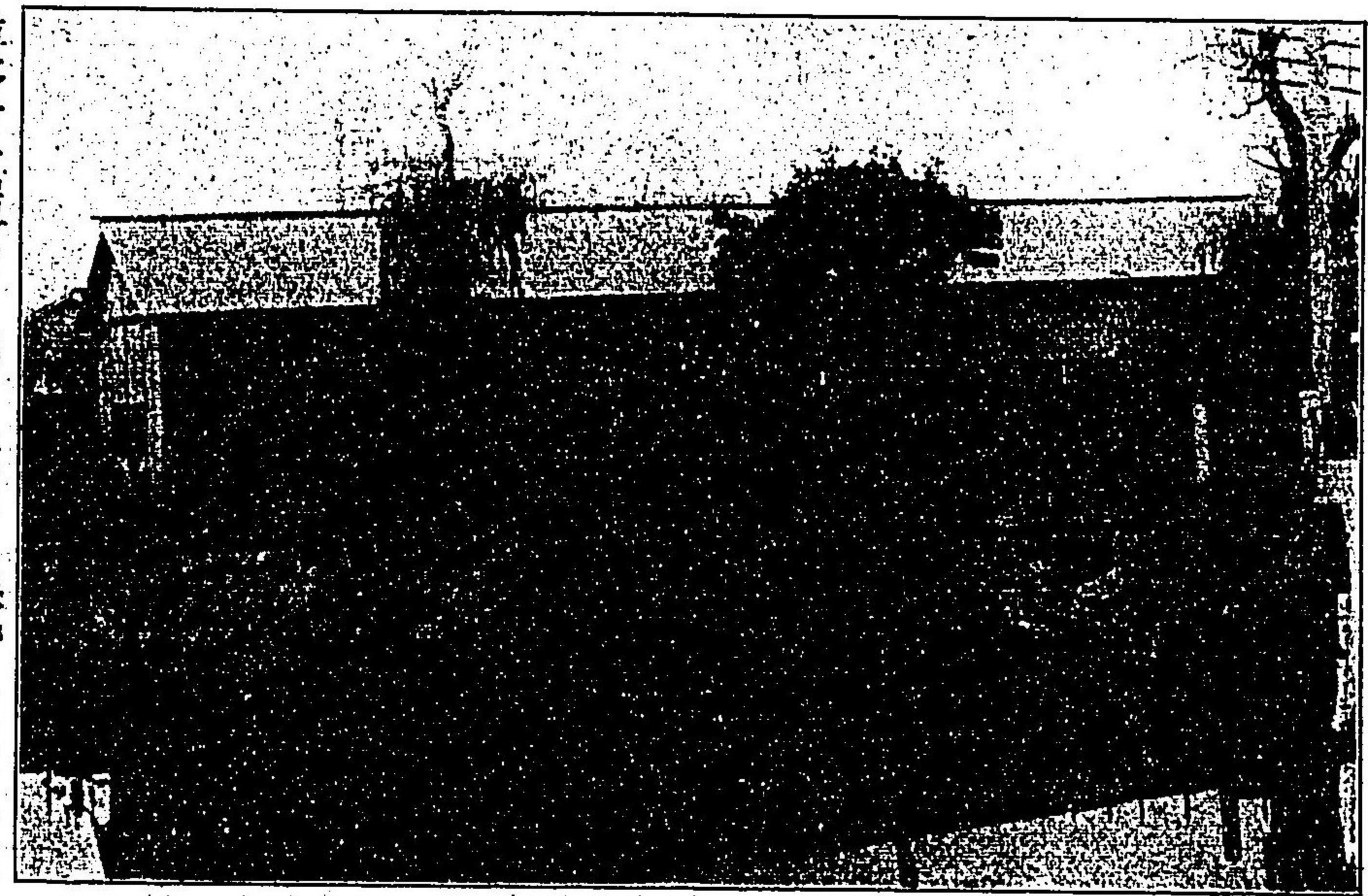


福岡市橋口町 中尾卯作

五三

電話二五五番

博多織專業



博多片土居町 大佛前
博多東中洲
電話八百七十番
振替口座東京一七八四二番

中中西織工場
中中西織工場

五二

專賣特許漣織・古式博多織・海乃中道織

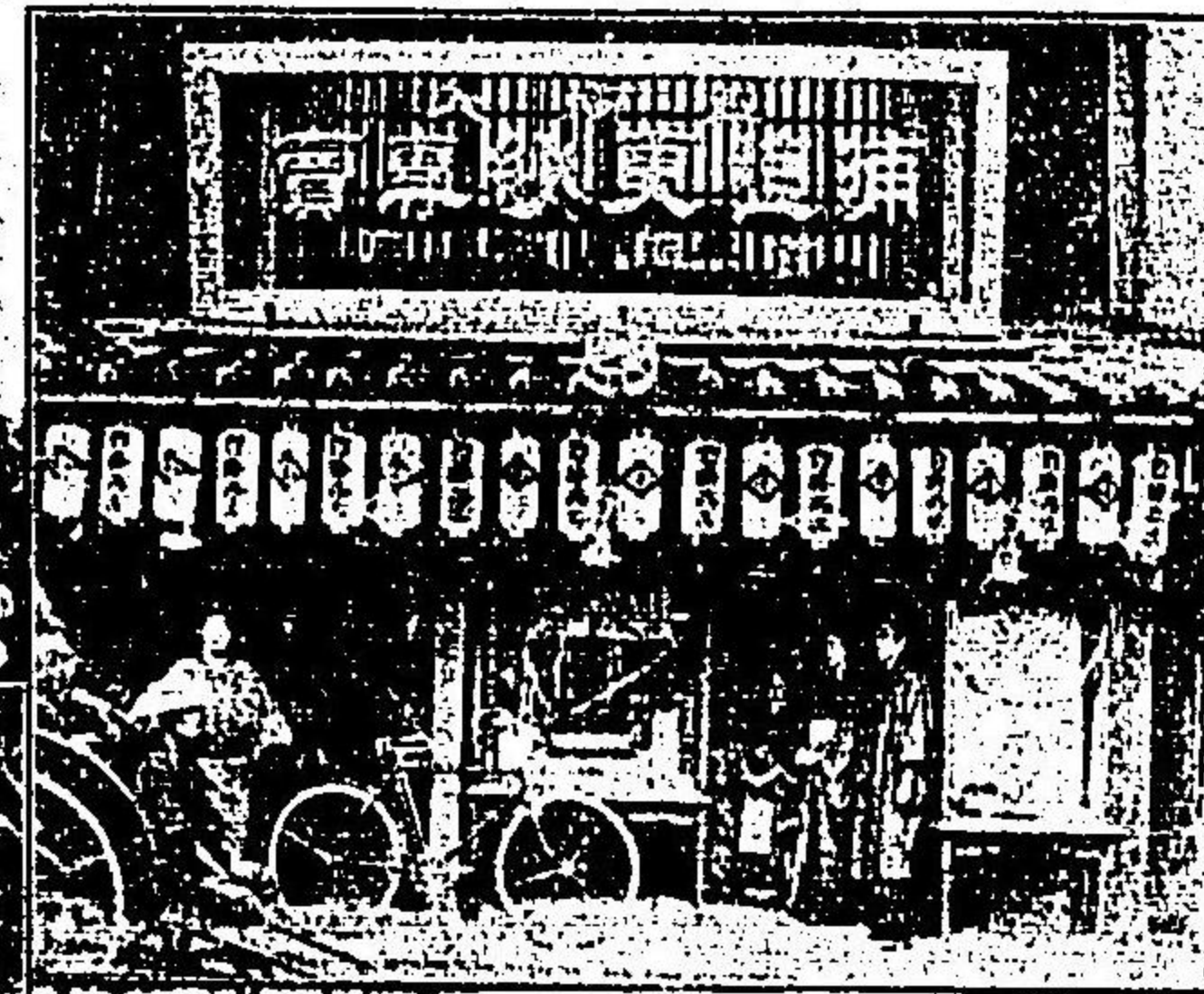
直輸入浦鹽更紗專賣



內部陳列販賣場

五五

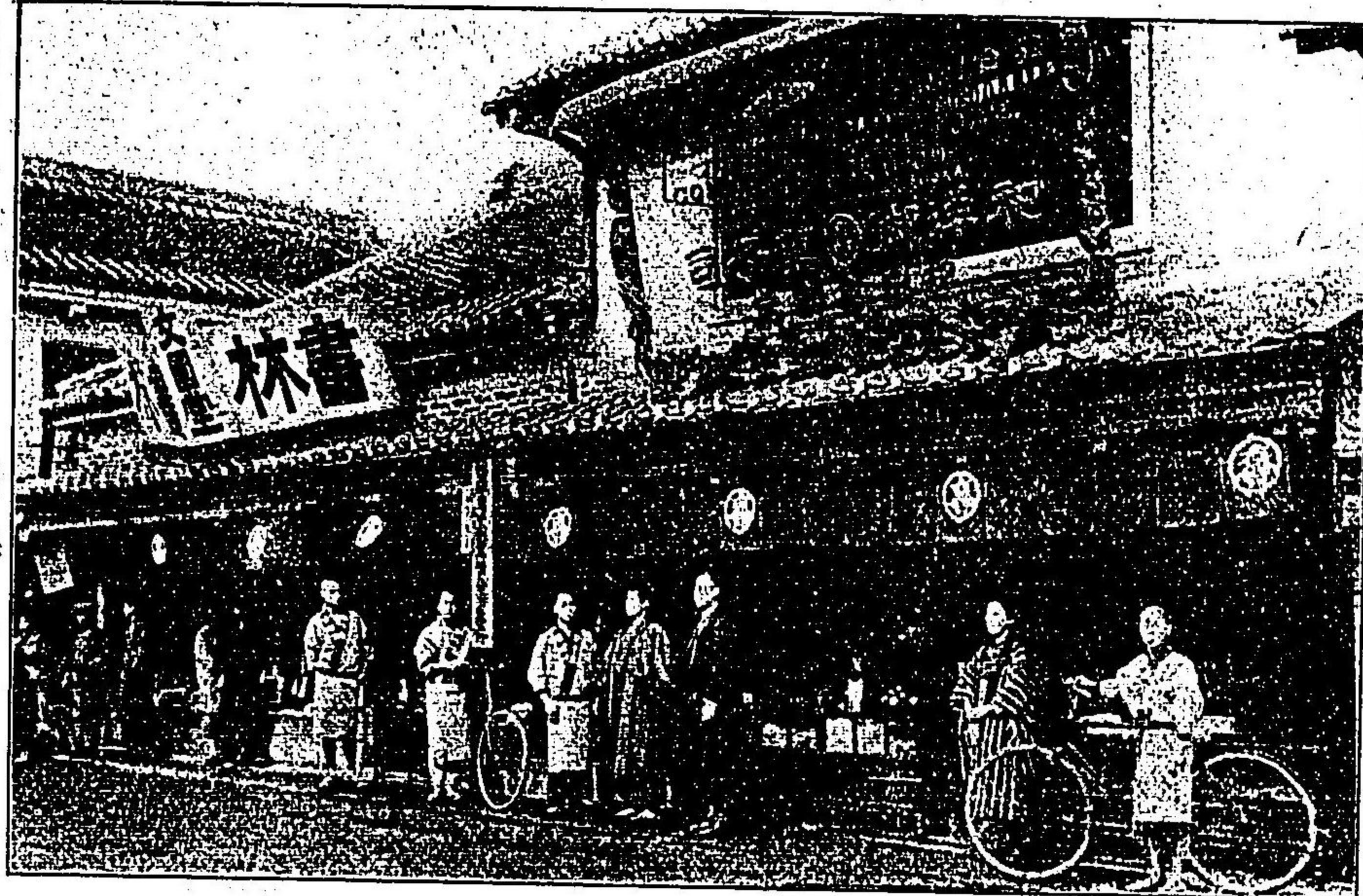
外部正面



博多町

首藤小商店

和洋御菓子公司



電話三百八十八番

內國各博覽會有名功譽賞牌受領

福岡醫科大學御用達

和田喜樂堂

福岡市橋口町西詰

五四

博多下新川端町 後藤源太郎

五六

博多人形製元



毎ならず、現今左の諸新聞あり。

名	種	発行回数	所在地
九州日報	新聞	日刊	須崎土手町
九州新報	新聞	日刊	中島町
九州新聞	新聞	日刊	妙樂寺新町
九州南報	新聞	毎月六回	下土居町
九州南報	新聞	毎月六回	登室町

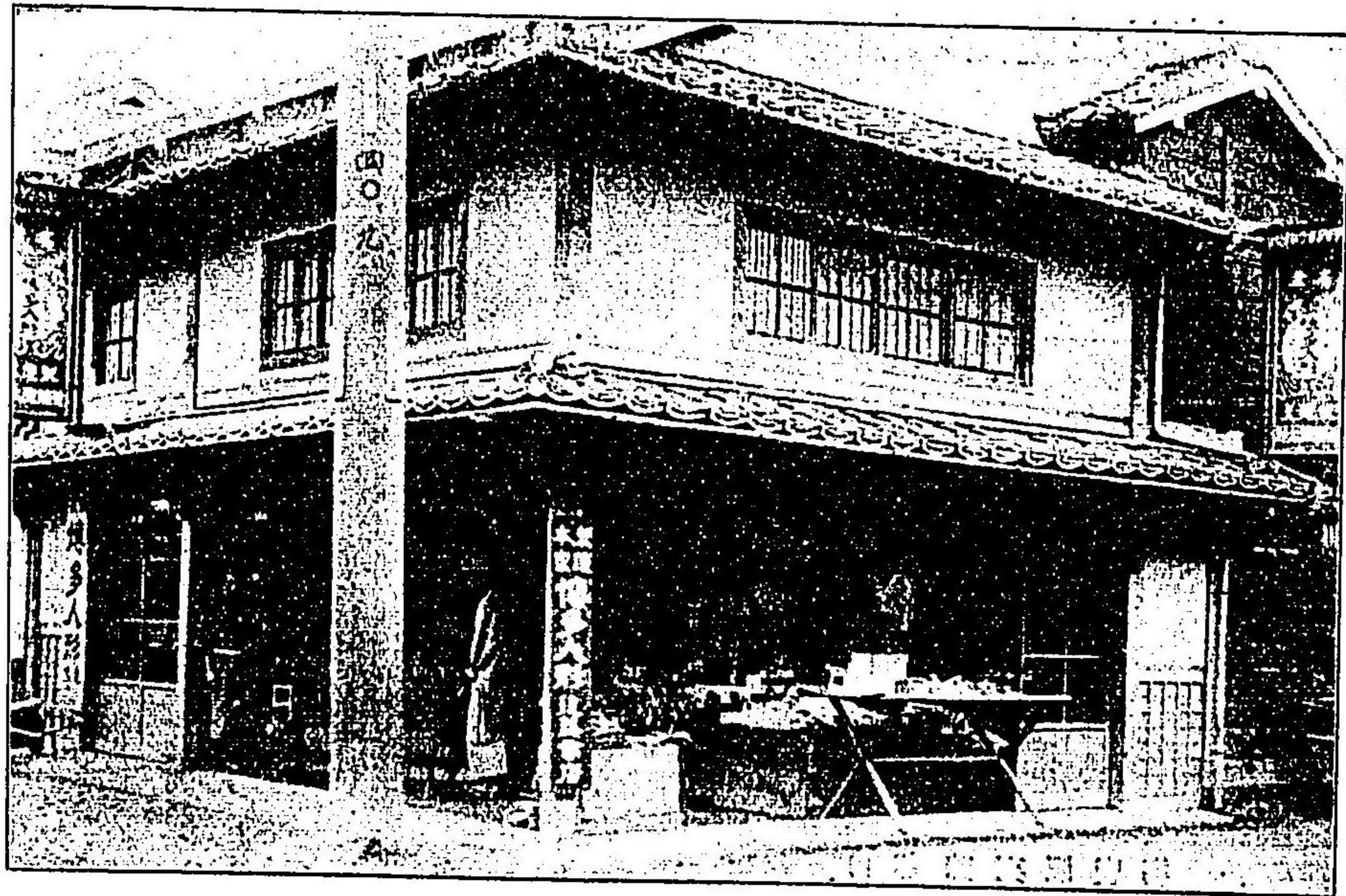
工業

重もなる工場——重もなる工産品——博多織——博多絞——博多人形——素焼物——文具——博多車——博多漆光——博多鉄——高取焼——物産陳列所

本市には彼の博多織を初め著名の工産品に乏しからざるは昔く人の知るところなるが、近來時運の進歩と製造技術の改善とは益々各種工業を通じて、産額の増加業務の發展を見るに至り、今や従業戸數四千餘戸に達し、生産總額三百萬圓に上るの盛況を見つゝあり。蓋し本市は九州の中央にありて清韓兩國と對峙し、地形上有利の位置を占め、且港灣鐵道其他交通機關の便備はる等、工業發達の要件を具備せるにより、夙に工業地として世人の注目を惹けるに至らざるが、現今の状態は未だ以て大工業の勃興を見るに至らず、市内及接續地に於ける工場數（職工十人以上）四十二箇所、の内原動力を有するもの二十三箇所、其機關數十六、馬力

博多下新川端町 後藤源太郎

博多人形製元



毎ならず、現今左の諸新聞あり。

名	種	發刊度數	所在地
福岡日新新聞	日刊	日刊	須崎土手町
九州實業新聞	日刊	日刊	中島町
九州商業新聞	日刊	日刊	妙樂寺新町
九州商報	日刊	日刊	下土居町
九州商報	日刊	日刊	荻室町

工業

重なる工場——重なる工産品——博多織——博多絞——博多人形——素焼物——文具——博多車——博多鞆先——博多鋏——高取焼——物産陳列所

本市には彼の博多織を初め著名の工産品に乏しからざるは普く人の知るところなるが、近來時運の進歩と製造技術の改善とは益々各種工業を通じて、産額の増加業務の發展を見るに至り、今や従業戸數四千餘戸に達し、生産總額三百萬圓に上るの盛況を見つゝあり。蓋し本市は九州の中央にありて清韓兩國と對峙し、地形上有利の位置を占め、且港灣鐵道其他交通機關の便備はる等、工業發達の要件を具備せるにより、夙に工業地として世人の注目を惹けるところなるが、現今の状態は未だ以て大工業の勃興を見るに至らず、市内及接續地に於ける工場數(職工十人以上)四十二箇所の内原動力を有するもの二十三箇所、其機關數十六、馬力

數七百七十七馬力に過ぎず、從て煙筒林立煤煙空を蔽ふの壯觀を見る能はずと雖、中小工業に至りては著しく發達し、凡そ工藝品として本市に産出せざるものなく、復た其品質價格の點に於ても敢て他地方の製品に下らざるが如し。今日世に知られたる重なる工産品を擧ぐるも博多織、博多人形、博多絞、素焼物、博多翠先、博多筆、博多鉄、車力等枚舉に遑あらずして多種多様の生産あるは、本市工業の特色と云ふべし。然して本市が斯くの如く特有の物産に富む所以は、應仁以來の名邑として我國に於ける最も古き商工業地なる而已ならず、博多港は外國貿易最初の港津にして、古來支那國と交通の要衝にありたれば、同國の進歩せる工業技術は最も早く輸入され、製造業の發達を見たるに職由するもの如く、彼の博多織を初め本市特有物産の沿革を考査するに多くは起源を其當時に發し、爾來時勢の變遷に伴ひ漸次改良工夫を重ねて今日の盛況あるに至りしなり。然して今や各種の工業を通じ同業組合の設置其他の方法を以て製品の意匠に、製法に、將た企業組織の上に、銳意改良を加へつゝあれば、向後一層の發達を見るべし。又地形の利交通の便は漸次大工業の勃興を見んとし、現にライジングサン石油會社の精油所は對岸西戸崎に設置せられ、南洋の原油を輸入して本邦石油界に雄飛せんとするあり、本市が工業地として面目を一新する必らずしも遠き將

來にあらざるべきか。

重なる工場

現時の重なる工場左の如し。

名 稱	製 品	所 在 地
福岡日々新聞社	新聞紙	須崎土手町
九州日報社	新聞紙	中島町
共 文 社	活版印刷帳簿	中島町
大隈活版所	活版印刷	下名島町
松居織工場	博多織	東中洲町
河原織工場	博多織	東中洲町
博多電燈株式會社	電 燈	東中洲町
博多瓦斯株式會社	瓦 斯	千代村
太田屋工場	油 蠟	堅粕村
山 家 屋 屋	清 酒	瓦 町
石橋酒類製造場	清 酒	濱小路
島井鐵工場	機械汽罐類	南港町
河内洋服部	洋 服	下新川端町
中尾酒造所	清 酒	橋口町
石田酒造場	清 酒	東中洲町
綿平酒造店	清 酒	本 町
深見鋳造場	農具鍋釜	上土居町
磯野鋳造場	農具鍋釜	上土居町
瀬崎鐵工場	機械汽罐類	御供所町
徳永分工場	機械汽罐類	大濱四丁目
齊藤製作所	機械類	極樂寺町
井村鐵工場	機 械	大濱一丁目
吉田燃糸工場	燃 糸	住吉村
鐵瀧紡績會社支店	棉 糸	住吉村
石瀧酒類製造場	清 酒	大濱四丁目

許斐酒造場	清酒	船町
二九娘製造場	清酒	中對馬小路
紙與醬油店	醬油	社家町
加野酒類製造場	清酒	大濱町三丁目
太田屋醬油店	醬油	藏本町
柴田鐵工場	セメント機械	上金屋町

重なる工産品

本市に於ける製産品は品種類る多数に上れるが、去四十年度に於ける二萬圓以上の物産を列擧すれば左の如し。

品名	金額	品名	金額
博多織	一、五六〇、三六四円	生蠶	三三、四五〇
諸機械	三〇〇、〇〇〇	菜種油	三五六、九〇〇
履物	二二四、八一〇	洋服	二一六、〇〇〇
靴物	一一八、〇〇〇	文具	一一三、四〇〇
綿織物	一〇四、九九〇	鍋釜	一〇五、六五五
菓干	五三、〇〇〇	パケツ	八七、五〇〇
高取燒	四二、五〇〇	博多絞	五五、〇〇〇
菊蓑	三六、〇〇〇	帽子	四二、六〇〇
博多人形	三四、〇〇〇	足袋	三八、〇〇〇
酒	四〇三、九六八	蠟燭	三五、〇〇〇
醬油	二七、九一〇	算笥	三〇、六〇〇
菜種油粕	一三三、四〇〇	細工人形	三〇、〇〇〇
度量衡器	一一四、四五八	人力車	二二、〇〇〇
鋤先	一〇二、八八四	馬車	三〇、〇〇〇
車力	七〇、〇〇〇	色染物	三〇、〇〇〇
椅子卓子類	四二、七五〇	磁器	二六、一一〇
素燒物	四二、〇〇〇	提燈	二五、〇〇〇
金屬器	三五、〇〇〇	履物	二三、〇一八

博多織

本市著名の物産なり、近時八王寺、米澤、西陣、桐生、足利、其他絹織物の産出せらるゝ地方に於て、博多織の模造品を出さざるなき有様なるが、此間に立ちて能く本場博多織の聲價を保ち、毫も需要の衰退を見ざるは其製品が他の模倣し難き特色あるを以てなり。現今製造戸數三百二十四戸、産額十五萬八千五百六十四點、價額百五十六萬三百六十四圓に達す。博多織の創始は嘉禎の頃、滿田彌三右衛門なる者あり、辨圓和尚に隨ひて入宋し織物、朱燒、箔燒、素麵、麝香丸の製法を習得し、仁治二年歸朝するや其工業を郷人に傳授し、獨り織物は家傳として製織せしに始まる。彌三右衛門の歿後子孫相踵で當業に従事し、家運隆々たるものありしも、其極遂に衰微に傾き彦三郎出づるに及び、支那に學びて研究を重ね、之を再興して家名を擧げしが、後奈良天皇の天文年中竹若伊右衛門、彦三郎に就きて斯業を學び更に新機軸を出す、時人之を霸家專織(博多織)と稱せり。伊右衛門の養嗣子惣右衛門なる者、豊公島津征伐に際し馬を博多に驛むるや『天下泰平國家安穩日月浪情』の十二文字を現したる下緒を献じ、又た黒田長政の入國に當り博多織を献じて扶持を賜はる、後黒田家の軍旗を調製し或は幕府への定格献上品用途を命せられ、斯業は漸く盛大に赴けり、献上の名は蓋し之れより起りたるものにして、

當時は専ら帶地を織出したるなり。然れども藩政時代は製造業者の數を限りたるを以て、當業者之に狎れて研究を怠り、單に舊習を墨守したりしが、維新の革新と共に此制破れ從業者漸次其數を増し、各々意匠を練り斯業は驟々として發達し、明治十九年組合を設置さるゝに及びて、益々進歩の成績を示せり。

博多絞

博多織と並び稱せらるゝ本市の物産にして、製造戸數六戸、産額二萬五千反價額五萬五千圓なり。該業の創始は史蹟の徵すべきものなきも、史を案するに天智天皇の時に耽羅佐平橡磨等へ、額十九匹を賜ひしことあり、額額とは糸を以て織布を括り、染液に浸して製し、即ち今日の絞染の幼稚なるものなれば、此時代絞染の法は既に我が國に行はれ、絞染模様の衣裳が官人官女等に愛玩されたる事明かにて、且つ天智天皇は筑前の行宮に在らせ給ひしを以て、大宮人が身に纏へる衣服の模様は當時の博多人士の眼に映じ、之に倣うて製出したるや疑ひなく、蓋し博多絞の起源は遠く此時にあらんか、然れども其製法幼稚にして微々振はず、博多再興の後に至りて始めて産業の發達に従ひ、絞染法も漸次改善進歩し來り、遂に地名を冠して博多絞と稱するに至りしなるべし。

博多人形

玩具又は室内裝飾品として好評を博し、近來到る處博多人形の名を知らざるものなきに至れり。製造戸數四十戸、産額三十八萬二千三百個、價額三萬四千八百九十圓なり。慶長十三年黒田長政福岡城を築きし時、瓦製造用達正木宗七頗る彫刻の術に巧なるより、城瓦に用ゆる土を以て人形を造り之を長政に献じ、其後屢々人形の製造を命せられ、又香椎宮に奉幣使の來るや、柿本人丸の肖像を造りて之を献せり、是れ本業の濫觴なり、始めは玩具雜兜の類を製造するに止まりしが、明治二十年組合を組織し、彩色意匠の改良を圖り、且つ室内裝飾品等の製造を研究し販途大に擴張せり。

素焼物

製造品は極めて多種類に亘り居れるも其重なるものは七輪、火鉢、火消壺、改良竈等にして原料土質適良なるにより、耐火力強く使用久しきに耐へ、經濟向きなるを以て夙に好評を博せり。製造戸數十八戸、産額四十萬三千個、金額四萬二千圓なり。毎年冬期に至れば各地の注文頗る加はり、晝夜製造に従事するも尙需要に應ずる能はざる程なり。該業の沿革は茫として知るに由なきも、今を距ること五六百年以前、浪士八尋某なるもの當地に來りて、炮烙を製造せしに始りしもの如し。

文具

博多毛筆は其原料たる獸毛が縣内附近の地方に産じ、且つ

其質良好なるにより、製品随て優良なり。製造戸數十五戸、産額二百四十二萬五千、價格十二萬二千四百圓に達す。博多港は往昔唐土往來の要衝に當り彼我の交通頻繁なりしを以て、各種文具の輸入に接する便宜ありたれば、製筆の技大に發達したること、彼の延曆年中既に筑紫の筆墨が筑紫の斐紙と共に有名なりしに徴して明かなり、降て文祿年間豊公肥前名護屋駐軍の際、河原田平次なる者、筑紫筆各種を献じて賞詞を得たるより一層名聲を博し、爾來本市の一物産となり、今日の盛況あるに至りしなり。

博多車

製造の多きは荷車にして馬車牛車之に亞ぐ、充分乾燥したる椗材を以て車體を製作するにより、堅牢にして實用に適す、是れ博多車の名ある所以とす。製造戸數四十四戸、産額七千二百輛、價額十萬八千圓なり。明治十年西南戰爭の際軍用荷車を本市に於いて供給し、好評を博したるにより漸く斯業の勃興を見るに至り、次で日清、日露戰役となり軍用車の需要一時に増加するや非常の盛況を呈したり、平和克復後と雖戰役中に得たる好評は別段需要の減少を見るに至らずして、内地は勿論滿韓各地に販途を有す。

博多犁先

白銑玉鋼等の高等鐵配合を以て原料とし、鑄術亦た多年の經驗に出づるにより、製品頗る堅牢にして容易に磨滅せず、且つ泥粘濕潤の耕土と雖輕く耕起し、土表の反轉耕墾自由なるは博多犁先の特色にして、現今製造戸數二戸、産額八十二萬五千三百三十個、價額十萬二千八百八十四圓なり。斯業の創始は今を距る三百年前即ち寛文年間であり、當時内國各藩制を異にし、他藩管下製出商品の輸入を禁じたるにも拘らず、博多犁先の精銳堅牢にして使用輕快なる、毫も之が爲めに販途の減退を見ざりしと云ふ。而して今日の如く全國各地到る處販途を有し、斯業の盛大を見るに至りしは明治二十二年以後の事にして、即ち農業の發達と共に牛馬耕耘は益々各府縣下に普及し、犁先及犁の需要年を逐うて増加するあり、偶々林遠里の設置に係る勸農社員の米作改良教師として各地方に招聘せらるるもの、皆筑前犁を用ひ其効用の多大なるを知らしめたるより、該犁先の販途頗る増加し、内地は勿論韓國各地に輸出するに至れり。

博多鉄

本市の一物産にして正及金入りを特色とし永く使用に耐へ、磨方並に及金加減形狀等改良せられたる點多し。製造戸數十八戸、産額十二萬個、價額一萬圓内外なり。近時需用漸増の有様なるも、該品を製造するには多年の熟達を要するを以て之に従事する職工少なく、爲めに充分需要に應じ難き現況なり。本業の創始は後奈良天皇の御代天文十二年頃外國より傳來したるものなりと云ふ。

高取焼

著名の物産にして製陶工場は市外西新町にあり、製造戸數三戸、産額十六萬三千九百八十一、價額二萬五千八十九圓に達せり。本業の沿革は文祿征韓の役黒田長政の歸國に隨ひて、韓人歸化し名を八藏と呼び、舅新九郎と共に製陶の良工なりしが、鞍手郡高取に居り製造に従事す、是れ高取焼の濫觴なり。長政歿し忠之國主たるに及び、八藏の子八郎右衛門を伏見に遣し、茶道家小堀遠州に就き茶器の製作法を學ばしむ、又た唐津の浪人五十嵐次右衛門を高取に置き共に製陶の業に従事せしめたり。明治維新以後斯業は殆んど廢滅に歸せんとせしが、明治二十三年に至り森長三郎之を再興し、研究を重ね改良を加へ今日の盛況を見るに至れり。

物産陳列所

福岡縣物産陳列所は洲崎町にあり、縣下に於ける各種の物産を陳列して世人に紹介すると同時に、一面には各地方の製産品を蒐集し、斯業者研究の資料に供する目的を以て、去る明治三十九年福岡土木監督署の廢止せらるゝや其建物を借入して假りに陳列所を設置せり。然れども位置の不適當なると、建物の狹隘なることは設備完全せず、充分の効果をみる能はざるも、尙ほ當業者を益するところ少からず、陳列する物品は農産、林産、礦産、水産及び織物、陶器、花

筵、製紙、清酒、醬油、木蠟、製茶、製粉其他の諸工産品並に縣外參考品等にして、出品の總數八千五百餘點に及べり。

商 業

集散貨物——開港場——外國貿易——國內商業——
會社——銀行——金融——取引所——市場——倉庫——
商業會議所——商品陳列館

博多は應仁以來の名邑にして此地に官家設置され、爾來西海の政治中心たりしが、之と共に商工業發達し、敏達天皇の二年更に此地を蕃舶の要津と定め給ひしを以て、博多は西海商業の中心地を兼ねるに至れり。降りて醍醐天皇の延喜九年税關検査の事務を太宰の府官に一任せらるゝあり、朱雀天皇の承平五年唐物使を此地に遣はして貨物を検査せしめらる、是れ唐商腐集して雜貨の眞贋相錯るを以て之を正さん爲なりしと、當時商港としての博多の繁榮想ふ可し。天文寛永の交に至りては宗室、宗湛、宗伯等の諸豪時を同ふして輩出し、貿易頗る殷賑を極めしこと人の能く知るところにして、斯くの如く本市が早く商業の發達を見たるは、畢竟するに内外交通上主要の地位を占むるに基くこと勿論たり。然るに徳川幕府の治世に當り、海外交市を禁じてより三百年、海港の發達遅々たるを免れざりとも、

今や經濟事情の進轉、交通機關の完備は地形の利に加ふるに、更に交通の便を以てし、地方的市場として百貨輻輳の盛況を見んとす、現に商業戸數六千七百四十二戸、一箇年の集散貨物別項の如くなるに徴して本市商業の一斑を察知すべきなり。

集散貨物

地方的市場として海陸の貨物輻輳し集散極めて活潑なり、陸運貨物に就て見るに、最近の博多停車場發送貨物は三萬六千八百餘噸、到着貨物三萬七千九百餘噸にして、九州線中門司驛を除けば殆んど其右に出づるものなし、又た海運貨物は博多港三箇年の統計左の如し。

年別	輸出	輸入	合計
明治三十九年	三〇一、三〇九 <small>噸</small>	四九五、一六三 <small>噸</small>	七九六、四七二 <small>噸</small>
同四十年	二四七、三六六 <small>噸</small>	五六三、九五九 <small>噸</small>	八一三、三二五 <small>噸</small>
同四十一年	二九八、八七三 <small>噸</small>	五二八、五〇〇 <small>噸</small>	八二七、三七三 <small>噸</small>
同四十二年	三三三、六〇五 <small>噸</small>	六一八、四五六 <small>噸</small>	八六九、五五九 <small>噸</small>
同四十三年	二七九、九四四 <small>噸</small>	五四七、二七二 <small>噸</small>	八六九、八七九 <small>噸</small>
同四十四年	二七九、九四四 <small>噸</small>	六八四、二七二 <small>噸</small>	九六三、二一六 <small>噸</small>

以上は汽船に據る貨物にして更に帆船に據るものを示せば、四十一年中に於て輸入三百一十一萬三千三十圓、輸出十二萬三千四百七十二圓なりとす、即ち博多港に集散する貨物は合計約一千三百萬圓に達すべきなり、尙ほ左に四十一年中の重なる貨物品名を示さん。

輸出之部

種目	數量	單位	價額
内地米	一〇四、六六〇	圓	六二四、二三二
外國米	一八、四三二	圓	一一九、七四三
麥類	五、二五六	圓	二六二、八〇〇
酒類	一一、二三六	圓	一六八、五四〇
砂糖類	六、六二一	圓	九二、六九四
呉服反物	一、七二六	圓	二〇七、一一〇

輸入之部

種目	數量	單位	價額
外國米	六五、四二〇	圓	四二六、二三〇
大豆	七〇、三二〇	圓	三五一、六〇〇
大豆	四、八一三	圓	五七七、五六〇
糸類	二、九七三	圓	一一八、九二〇
小魚類	七〇、一五	圓	三五〇、七五〇
魚類	三、四二一	圓	一六三、五三〇
砂糖類	二七、三〇五	圓	四七八、九五四
綿布	三、九三九	圓	六八二、六二五
洋被服	四、九〇一	圓	一〇八、三二三
金物類	五、六一二	圓	二四五、〇五〇
木材	五、六一二	圓	四四九、〇一八
木材	五、六一二	圓	六八三、五三〇

開港場

往昔盛況を極めし博多港の海外貿易は交市禁令と共に一頓挫を來し、加ふるに海港年々に土砂を堆積して、水深淺く、

大船巨舶を泊するに便ならざるも、之を小にしては西海の要津として後に豊富なる筑肥の生産地を控へ、前は清韓諸國に對して優越なる地歩を占め、之を大にしては世界交通の現況に顧み、國際的貿易港として重要な地位にあり。之を以て夙に識者の着目する所となり、既に第二十四議會に於ては國家の經營に依り、一大築港を建設するの請願を可決せり。而して政府の同港に對する既往の施設を見るに、明治十七年朝鮮國に限り其貿易を許し、二十二年特別輸入港と定め、二十九年に至り特別輸出入港に進め、三十二年に至り更に開港場に指定せり。博多築港會社の經營に係る築港工事は、去る四十一年を以て完成し、海運業に多大の便益を與へつゝあり。

(交通の部参照)

外國貿易

博多港の外國貿易は韓國を最とし、關東州南清諸港との交市は漸次發達を遂げつゝあり、其貿易額に於ては遂に門司、長崎諸港に及ばずと雖、近時長足の進歩をなし、殊に韓國貿易の如き去る明治三十八年來市に於て補助金を支出し、博多釜山間定期航海を開始して貿易の利便を圖りたるより、面目漸く新まらんとし、且つ稅關特許私設上屋等設置せられて自然的地形の利便は人爲的設備の完成と相俟つて貿易の増加を促したり。去る三十年の博多港外國貿易額は僅に輸出二千七十四圓、輸入二萬八千圓合計三萬七十四圓

に過ぎざりしもの、四十一年には輸出九萬九千四百五十四圓、輸入五十六萬二千六百七十五圓合計六十六萬二千二百二十九圓となり、約二十倍の増加を示せり、更に近來博多灣の周圍に於て大工業勃興の機運を示しライジングサン石油會社の精油所等設置せらるゝに及び、其原料及製品の輸出入額に増加し昨年の如き、優に一百萬圓以上の貿易額に達すべく豫想せられたり、尙ほ以上は博多稅關支署の統計を示したるものにして、本市實際の貿易額は遙かにそれ以上にあることを一言し置くを要す。即ち博多港輸出入の貨物にして、汽船の都合に依り嚴原又は佐須奈に於て通關の手續を爲すものは、博多港の統計より除かれ居り、而して是等の貨物決して尠からず、故に本市に於ける實際の貿易貨物は未だ直に統計のみを以て其多寡を論ずべからざるものあり。序に參考の爲め最近十一箇年の貿易統計を左に示さん。

年 別	輸出入合計	年 別	輸出入合計
明治三十年	三〇、〇七四	明治三十六年	八八、〇〇四
同三十一年	一〇九、二九三	同三十七年	四〇、三三八
同三十二年	一〇、四七九	同三十八年	一九四、七六八
同三十三年	一九〇、九一五	同三十九年	三二四、六五六
同三十四年	八七、四七八	同四十年	五六三、七四九
同三十五年	五二、六一九	同四十一年	六六二、一二九

而して博多港の後方地域たる筑前の一部及筑後、肥後の全

部に於ける韓國貨物は、交通の部に記するが如く、彼の門司港に回送するよりも、最近港灣たる博多港を經由して本市の補助汽船に依れば、其運賃諸掛の點に於て優に一割乃至二割方低廉なり。然るに多數貨主は未だ是等の利便を知らざるものゝ如くなりしが、近來漸く一般に其便益を知悉するに至りしと共に、貨物漸次増加しつつあるを以て、當港の韓國貿易は益々發達するに至るべし。

國內商業

本市に於ける物資は呉服雜貨を始めとし、商品は殆んど之を大阪に仰ぎ、本市の生産品の任向地も阪地を主とす。從來本市は九州各地に對する商品の中繼地なる觀ありしが、交通運輸の便開けたるを以て、是等各地より直接阪地其他産地と取引を行ふに至り、一部の商取引は多少減少したるが如くなるも、地方に於て交通の便と共に取引の範圍擴張せられ、市場集散の貨物は年を逐うて増加せんとす。而して阪地の外下關、門司、唐津、平戸、長崎其他九州各港、神戸、横濱等全國の主要地に亘り取引の範圍廣大なるも、就中長崎縣下對馬、壹岐二島は取引最も密接にして、明治四十年中筑前白米の輸出總高八萬五千餘石中對馬一島の分は八萬餘石に達し、二島に於ける清酒、醬油、石油、雜貨等物資の供給は殆んど之を我福岡市に仰ぎ、旅客の來往大抵博多港を經由せざるなし。

會社

日清戰役後企業熱の勃興と共に、各種の會社は恰も雨後の筈の如く一時に興起し頗る盛況を呈したるが、三十三年より四十年に掛けて經濟界の動亂と共に大淘汰を受け營業の方針堅實にして基礎鞏固なるもののみ殘存し、是等の會社は年を逐うて漸次業務の發達を見つゝあり。殊に本市は九州の中央にありて交通の便備はり、營業上利便なるを以て、京阪地方の會社にして支店を九州に構へんとするもの皆其位置を本市に選ぶにより、其數著しく増加しつつあるを見る。

現今會社の重なるもの即ち左の如し。

名	稱	目的	所在地
博多電燈株式會社		電氣供給及販賣	東中洲町
兄弟合名會社太田屋		酒類釀造販賣	縣本町
株式會社共文社		活版印刷帳簿製造	中島町
株式會社博多米穀取引所		米穀取引市場	東中洲町
株式會社博多魚市場		魚類販賣	西方寺前町
博多魚市株式會社		同	下對馬小路
鎮西倉庫株式會社		倉庫業	馬場新町
株式會社晴心館		湖湯業	海岸通
株式會社壽座		劇場貸貸業	東中洲町
九州ラムネ株式會社		ラムネ製造販賣	西町
博多競商株式會社		物品委託販賣	下土居町
株式會社石蔵商店		同上貨貸	上野町
博多漁船株式會社		漁船運送業	下對馬小路

冷泉製船株式會社	海船運送業	海岸通
合資會社林商會	運送船振業	同
明治運輸株式會社	運送取扱業	同
博多製陶株式會社	製陶業	同
九州製油株式會社	製油業	同
博多瓦斯株式會社	石炭瓦斯製造販賣	同
鹽瀨紡績株式會社支店	綿糸製造業	同
合名會社松居織工場	博多織製造販賣	同
株式會社冷藏庫	魚類販賣	同
ライジングサン石油株式會社	石油精製販賣	同
帝國生命保險會社福岡支店	生命保險	同
共濟生命保險會社福岡支店	同	同
福岡日々新聞社	新聞發行	同
内國通運株式會社	貨物運送	同
田村合資會社	煙草販賣	同
東京火災保險株式會社九州支店	火災保險	同
明治火災保險株式會社福岡支店	同	同
橫濱火災保險株式會社福岡支店	同	同
共同火災保險株式會社福岡支店	同	同
日本火災保險株式會社九州支店	同	同
日本生命保險株式會社九州支店	生命保險	同
明治生命保險株式會社福岡支店	同	同
日ノ出生生命保險株式會社福岡支店	同	同
國光生命保險株式會社福岡支店	同	同
日清生命保險株式會社福岡支店	同	同
太陽生命保險株式會社九州出張所	同	同
大同生命保險株式會社九州支店	同	同
東洋生命保險株式會社福岡支店	同	同
千代田生命保險株式會社福岡支店	同	同
萬歳生命保險株式會社福岡支店	同	同
仁壽生命保險株式會社福岡支店	同	同

帝國生命保險株式會社福岡支店	同	中島町
橫濱生命保險株式會社福岡支店	同	下新川端町
福壽生命保險株式會社福岡支店	同	橋口町

銀行

本市には普通銀行四、農工銀行及貯蓄銀行各一ありて、遺憾なく金融機關たるの任務を盡しつゝあれば、商工業者に取り些の不便あるを見ず。各銀行亦た着實可嚆努めて確實を旨とし、且業務に精勵せるを以て孰れも健全なる發達を示せり。

行名	拂込資本金	積立金	所在地	創立年月
十七銀行	一〇〇〇〇〇〇	一六七〇	橋口町	明治三十年九月
土居銀行	五〇〇〇〇	一一〇〇	中土居町	同三十年四月
住友銀行支店			掛町	同卅五年八月
百廿銀行支店			下土居町	同卅一年八月
農工銀行	六〇〇〇〇	一七六三〇	須崎土手町	同卅一年五月
福岡貯蓄銀行	七五〇〇〇	七五〇〇〇	中島町	同廿九年八月

金融

左に明治四十一年中の金融に關する諸表を掲ぐ、以て資金需給の狀況を知るに足るべし。尙ほ金利は時に高低を免れずと雖大抵割引日歩最高二錢八厘、最低二錢二厘の間にあり。

銀行名	一箇年間預金	同一年間年末現在上	一箇年間貸出	同一年間年末現在上
十七銀行	一五、五四一、六八四	三、三三三、〇五五	一六、六六七、六八五	五、〇三九、九〇七
土居銀行	一、二四七、五五八	二六三、一九七	三、三三九、四〇二	一一三、一五九

百三十銀行	八、七六六、六六六	三、六二七、七三七	四、四八一、七三七	五、七九三、〇
住友支店	二、五七〇、一六三	二、一〇一、四一四	一、七五八、三七一	一、八六四、六一四
貯蓄銀行	二、九三八、五八九	五、四〇、五八九	二、六六八、二二二	三、七〇七、二
農工銀行	五、三三五、五九九	三、八九六、六三四	五、四〇、六五〇	一、九二七、六一〇
計	五、四二九、六三六	六、九〇三、四〇三	四、二四〇、五八七	九、八五四、五七二

取引所

東中洲町に博多米穀取引所あり、該取引所の創始は遠く徳川幕府時代に胚胎し當時米商會所と唱へ、米穀定期賣買を爲し來りしが、維新前後に於て十數年間中絶したり。然るに地方米價の標準を立て賣買取引を容易ならしむべき市場なきを憂ひ、明治十七年本市及附近の商人十餘名、資本金三萬圓を醸出して米商會所を組織し續て株式組織に變更せり。三十六年取引所法改正と同時に資本金を十萬圓とし營業を繼續せしが四十一年に至り會社内部の財産状態に整理の必要起り、全部役員の交迭と共に資本金七萬圓を増募して總額十七萬圓の株式會社となし、昨四十二年六月より營業を開始し、米穀の取引就中定期取引主として行はれ居れり、爾來時運の進歩に伴ひ漸次取引高増加しつつあり。現今仲買人數十三名、昨年六月より十二月に至る賣買高九十四萬六千二百石に達せり。

市場

本市には三箇所の魚市場及二箇所の蔬菜市場あり。魚市場は孰れも株式組織にして博多魚市株式會社、株式會社博多魚市場及博多冷蔵庫專屬魚市場の三社とす。而して本市は玄海に接し韓海日本海を控へ、魚類集散地として最好の位置を占むるにより、三會社の取扱に係る魚類は一箇年實に三百萬圓の巨額に達せり。斯かる状況なれば魚市場も亦た發達し、需給者の中間に在りて多大の利便を與へ居れり、四十一年末現在仲買人數二百四十六人なり。又蔬菜市場は從來完全なるものなく、西門橋畔に於て需給者集合し賣買しつつありしもの、漸次盛大となり蔬菜市場を成すに至れり。然るに本市の果菜集散高は四十一年の調査に依れば蔬菜三十七萬五千圓果物二十九萬七千圓合計六十七萬二千圓に達し、尙ほ此調査洩れたる分を合すれば優に一百万圓以上に上るべき状況なるにより昨年更に有志相謀り、市外瓦町口に新蔬菜市場を創設したるが、目下株式組織となし、一層業務の擴張を圖る計畫中なり。

倉庫

倉庫業としては鎮西倉庫株式會社あり。同社は明治三十三年の創立に係り、拂込資本金一萬二千五百圓、積立金三千二百七十圓にして當市五銀行は同社の倉庫證券に對し割引貸出をなすを以て商業家の利便多大なり。現今使用の倉庫四十戸前、此坪數七百二十二坪六合二勺に達せり又た去る四十一年十二月末現在在庫品高は三萬三千二十二箇此價額二十五萬五千四百二十七圓にして重なる貨物は米穀、砂

糖、蠟、油、粉類、生糸、繭等なり、又た博多築港内に坪數百六十二坪九合を有する税關特許私設上屋の設けあり、倉入中關稅の納付を猶豫せられ倉出の際現品に對する關稅を納付する利便ある而已ならず、該上屋は倉入當時より七十二時間は倉敷料を無料とし、期間後俵物(五斗入)壹箇月八厘、雜貨一錢、大豆粕三厘五毛の倉敷料を徴するに過ぎずして専ら營業者の利便を圖りつゝあり、四十一年中倉入箇數二十萬三千六百四箇に達せり。

商業會議所

博多商業會議所は東中洲町にあり、商工業の中心として各般の事務に執掌せり同會議所は明治十二年の設立に係り、當時福岡商法會議所と稱し、少數の實業家相謀り毎月一回談話會を開き、經濟上に關する諸般の事項を講究し、之を世上に公示して實業の發展に資せしが、爾來官廳の諮問に應答し、條約改正其他時事問題に關し力を致せり。十八年二月更に當時營業者荷主組の協同になれる協成社と合併し、會議所規程を實行するに至りて茲に漸く活動の域に入りしが、二十三年九月商業會議所條例公布さるゝに及び、初めて同會議所を設立するに至れり、現時議員の數三十名(外に特別議員六名)にして役員は會頭一名、副會頭二名、常議員五名なり。

商品陳列館

福岡市商品陳列館は掛町にあり。河原田平助の設立する所にして本縣著名の工藝品は勿論、内外の工藝品を陳列し併せて即賣をなせり。其方法は同館に於て各種の出品物を引受け陳列をなし、看護人をして販賣せしむるものにして、階下及二階を之に充て三階は一時的陳列展覽會並に諸集會に使用せしめ居れり。

農業及漁業

漁業——製鹽——沖獨活——養蠶——肥料

本市が農業及漁業につき見るべきもの少きは市街地として敢て怪しむに足らず。

漁業

日本三險海の一たる玄界洋の鯛は其風味に於て海内に鳴り、博多灣内亦魚族に乏しからず、市人が朝夕の食膳に上すは悉く潑瀾たる鮮魚ならざるはなし、是れ市及び市附近並に壹州對州より供給する所にして、博多新舊兩魚市場冷蔵庫毎日の取引高三千圓を下らず。市内に於ては伊崎浦を中心として其附近を併せ漁業者百九戸、一箇年の收穫二萬二千四百餘圓に及び、就中鯛は一萬六千餘圓を占む。又朝鮮海出漁は好成績を收めて年々増加發達を示し、市内漁業者の爲めに新天地を開拓しつつあり。而して加工品には儀助煮、水田煮、儀七煮、儀鰯あり、年額二萬圓に達す。

製鹽

支那鹽、臺灣鹽を輸入して之を精製するの業は今全く廢れ、製鹽業としては一の箱崎製鹽所あり、最新式の法により年額三百萬斤を製出し、其半額は之を韓國に輸出す。

沖獨活

「オキウド」は當地方の名物にして沖獨活草なる海藻より之を製す、寒天、心太に似たる食品にして其製法又同じ。

養蠶

本市は蠶業地にあらず、只婦女子の副業として之に従事するのみにして一年間の産額二千圓餘なり。

肥料

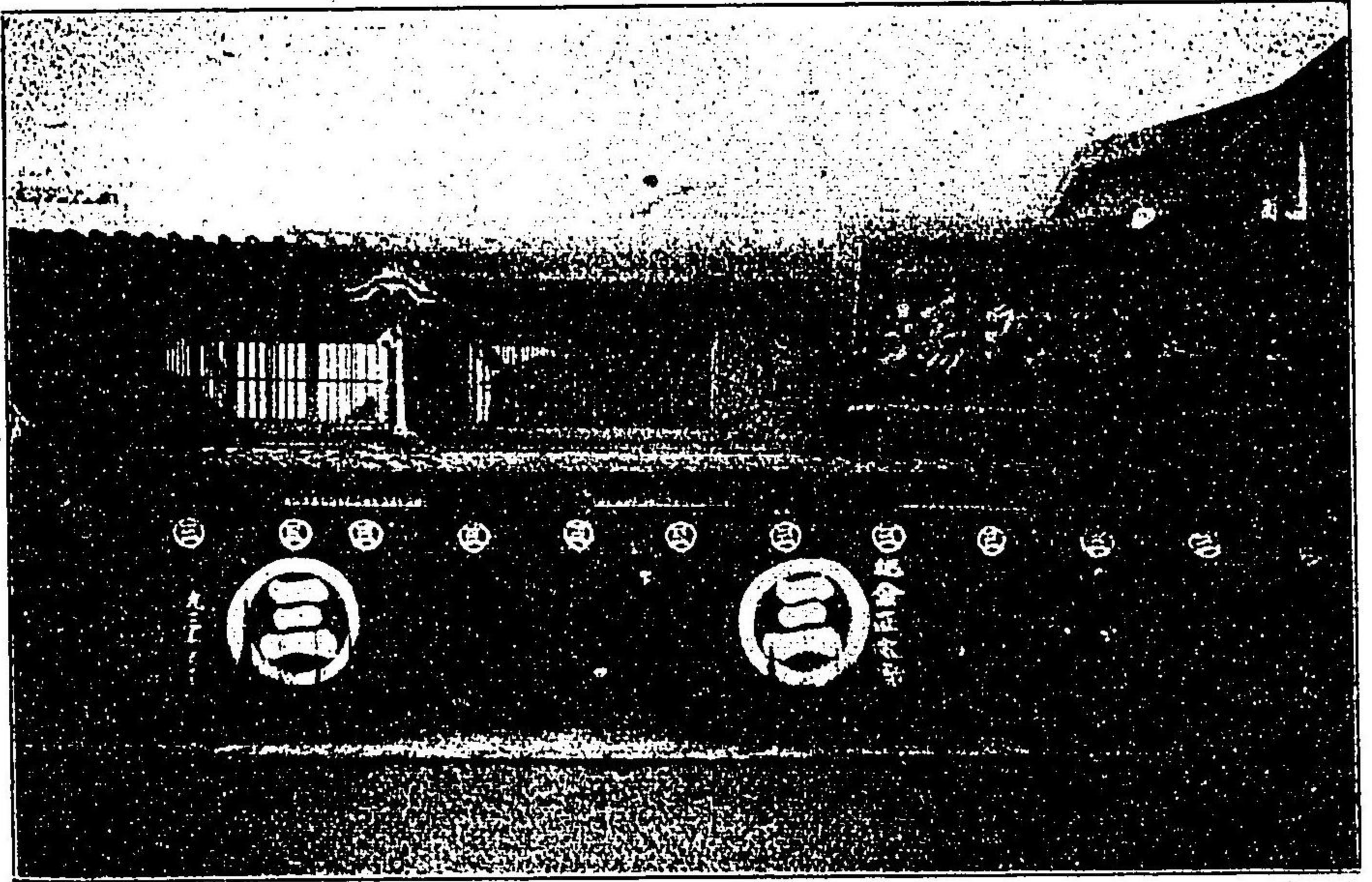
肥料として最も多く産出するは菜種油粕にして其産額多きは一箇年十二萬四千圓餘に達せり(明治四十年)近時大豆粕並に人造肥料等の使途大に開拓せられたれども之が爲め毫も油粕の需用を減せず殊に本品は耕作煙草の肥料として殆んど他に比肩するものなく價格亦た常に一定の位置を保てり。尙ほ本市は地方に於ける肥料の集散地たること勿論にして販賣業者六十四名、一箇年の賣買高二十五萬餘圓に達す。

交通運輸

道路——博多停車場——鐵道——電鐵——軌道——
港灣——博多港——貨客及出入船舶——福岡港——

博多麴屋町二、二

りせ擇撰を品るな新嶺るたし適に候時てしに附札正實確て總は品商



番一十百話電

丸三吳服店

製鹽

支那鹽、臺灣鹽を輸入して之を精製するの業は今全く廢れ、製鹽業としては一の箱崎製鹽所あり、最新式の法により年額三百萬斤を製出し、其半額は之を韓國に輸出す。

沖獨活

「オキウド」は當地方の名物にして沖獨活草なる海藻より之を製す、寒天、心太に似たる食品にして其製法又同じ。

養蠶

本市は蠶業地にあらず、只婦女子の副業として之に従事するのみにして一年間の産額三千圓餘なり。

肥料

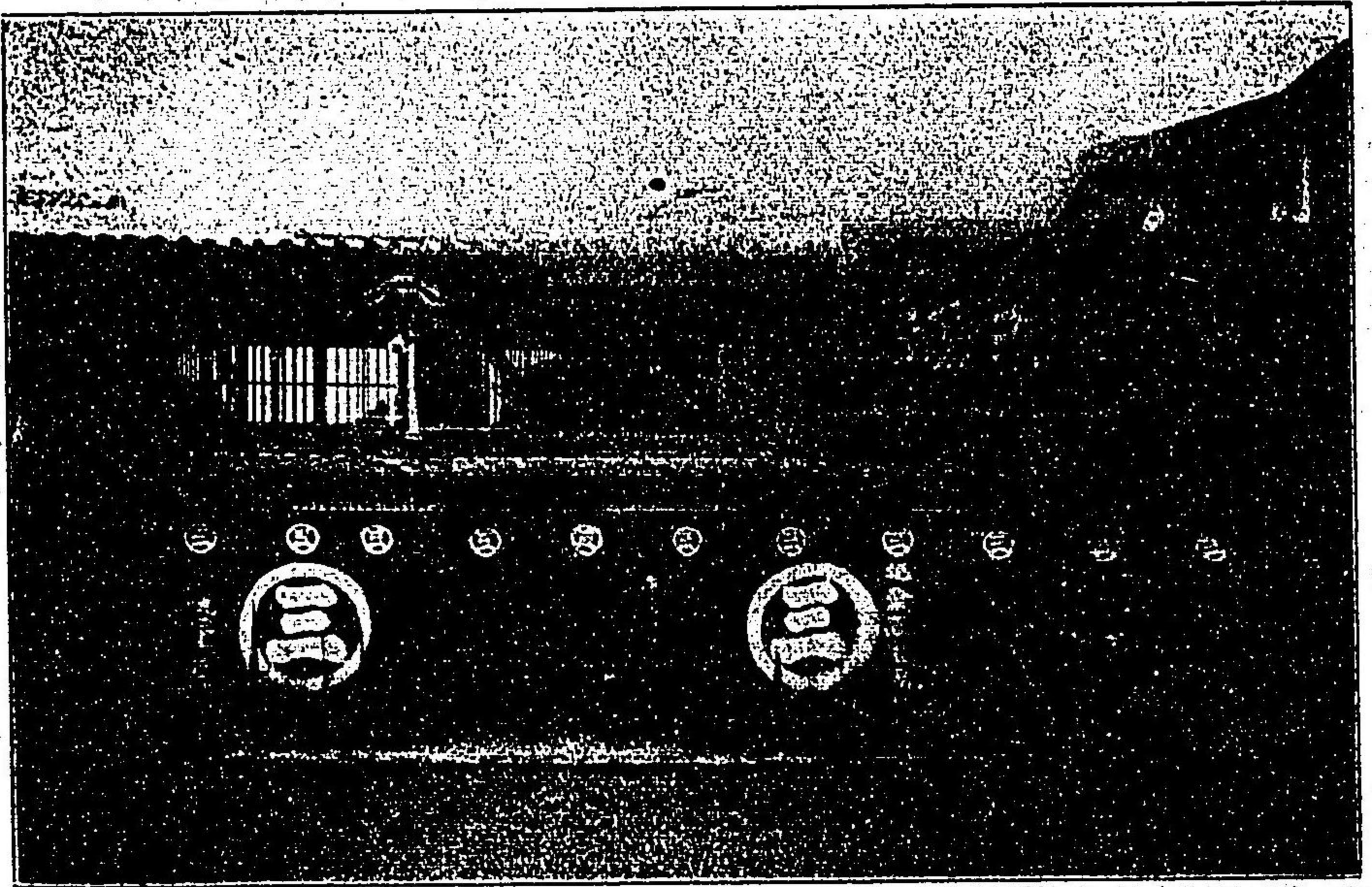
肥料として最も多く産出するは菜種油粕にして其産額多きは二箇年十二萬四千圓餘に達せり(明治四十年)近時大豆粕並に人造肥料等の使途大に開拓せられたれども之が爲め毫も油粕の需用を減せず殊に本品は耕作煙草の肥料として殆んど他に比肩するものなく價格亦た常に一定の位置を保てり。尙ほ本市は地方に於ける肥料の集散地たること勿論にして販賣業者六十四名、二箇年の賣買高三十五萬餘圓に達す。

交通運輸

道路 博多停車場 鐵道 電線 航路 福岡港 博多港 貨客及出入船舶 福岡港

博多麴屋町二二二

商出品總て確實正札附しに時侯に適し新なる品を撰りせ



電話百一十番

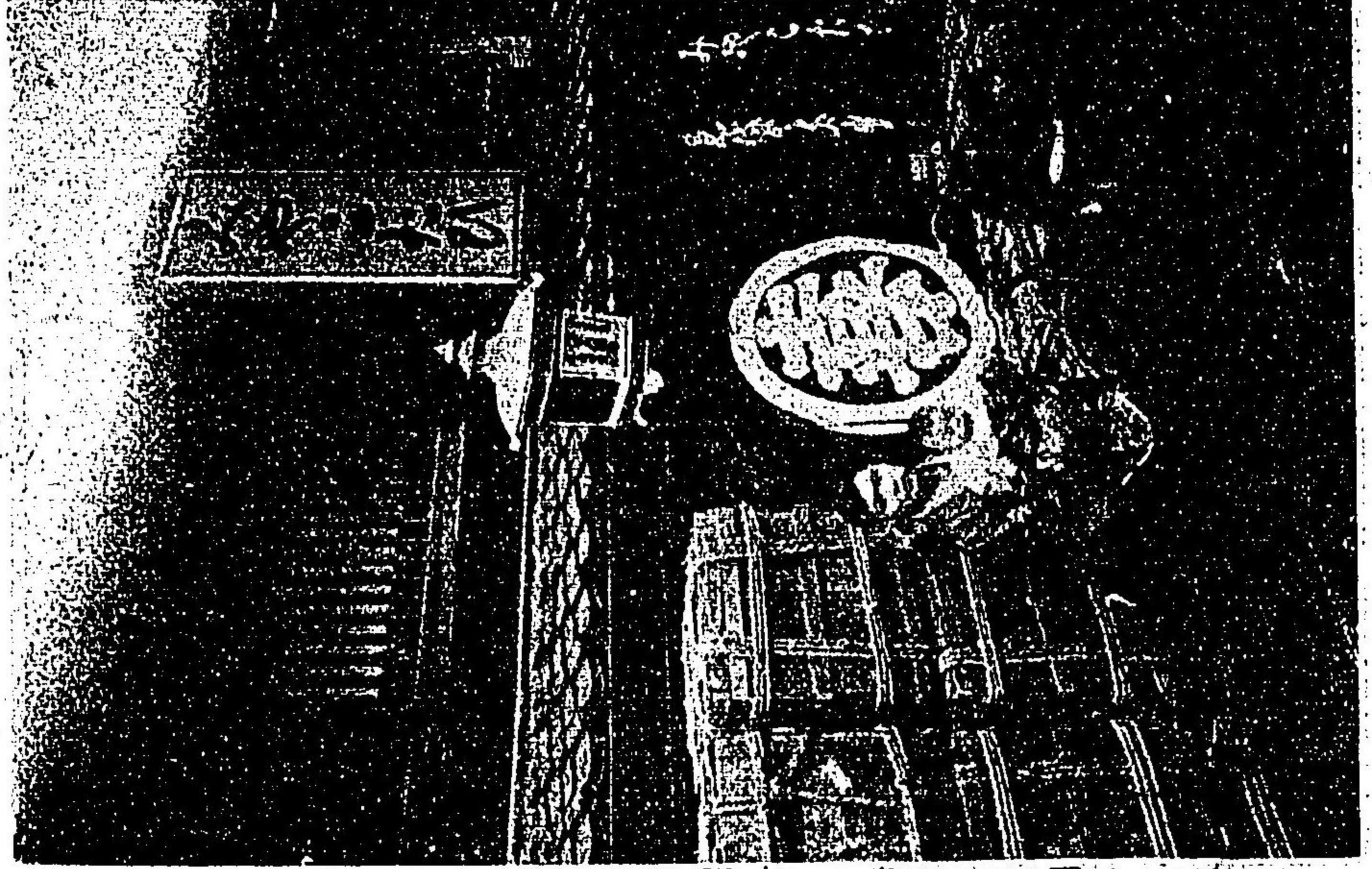
丸三吳服店

五七

足袋

足袋物卸商

元賣發 びたろ ちやみ



大丸足袋
九州一手販賣

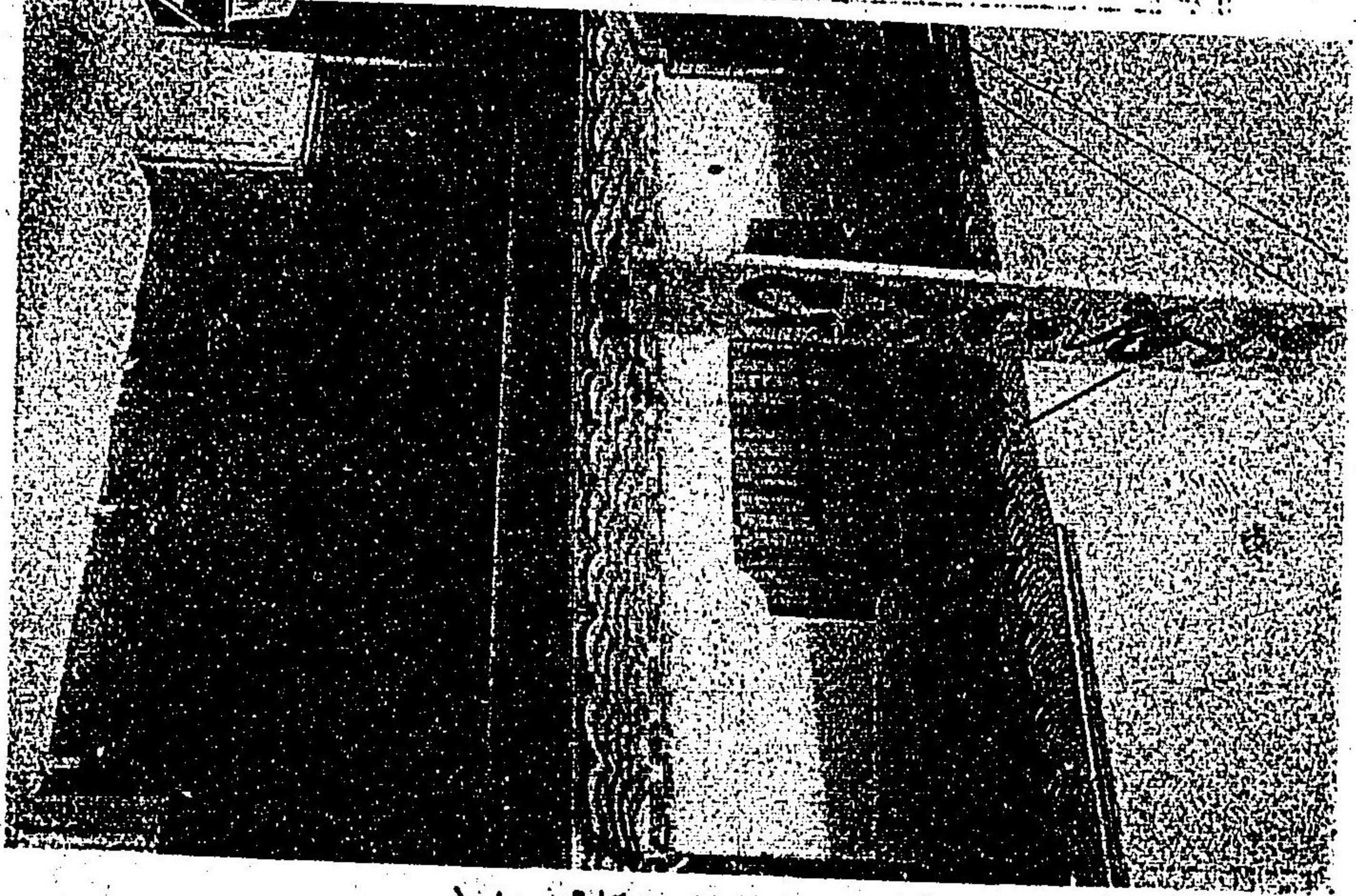


福岡市下西町中間町通

有田喜太郎

電話 八百六十三番

元製造 びたろ ちやみ



福岡市奥小路 藤野隆助

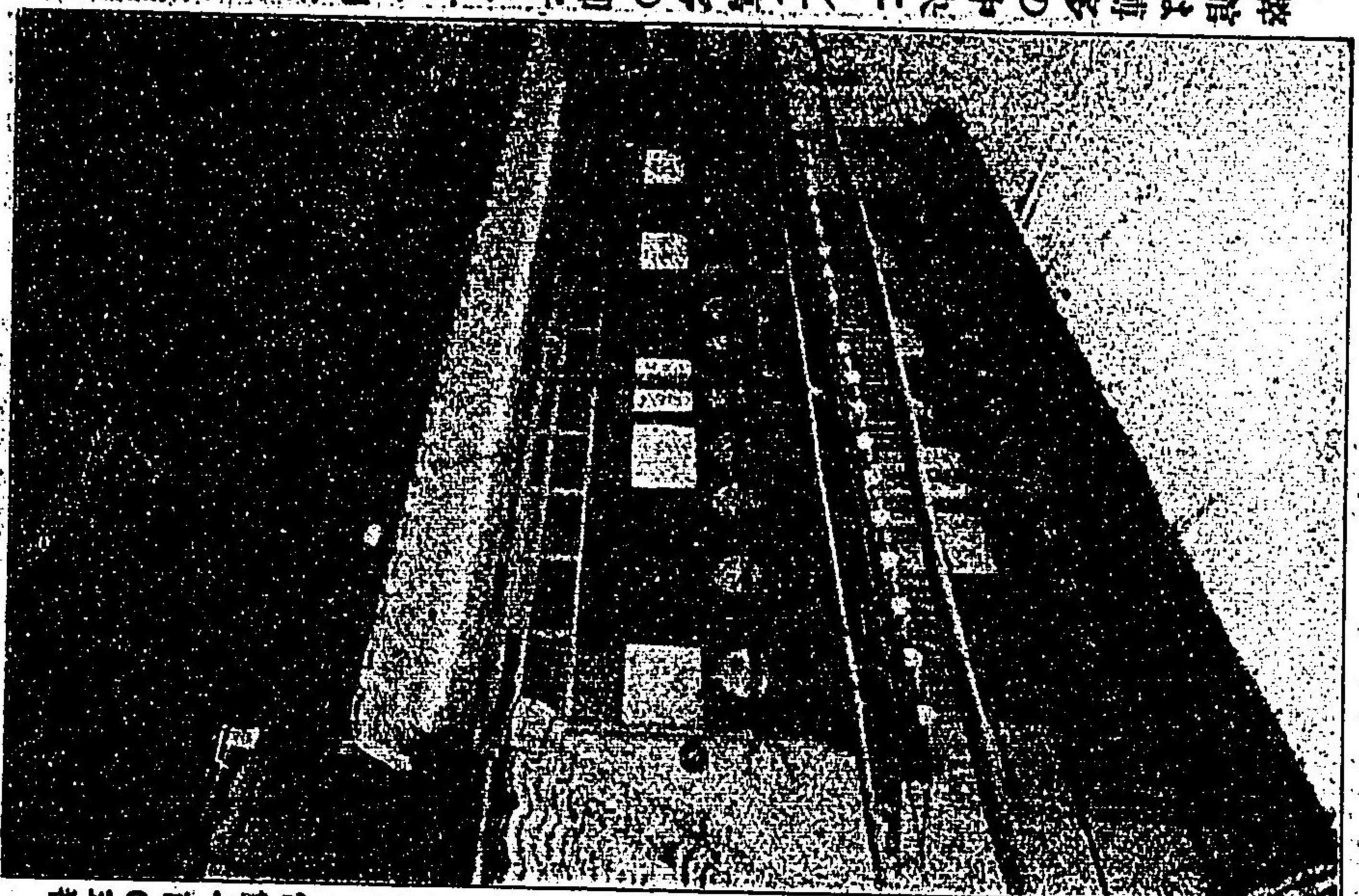
電話 八百六十二番

足袋商

五八

40

料理御わしか、肉牛精



弊館は博多の中央にして萬客の御好に叶ひ御食事等には至極御便利に専ら清鮮に調進致候

福岡市掛町

電話七四〇五番

惣 5 2

△立石善三

福岡市博多下廻町

電話 五百十番

電信略語(夕元)又(夕)



築材只賣店福岡市博多区

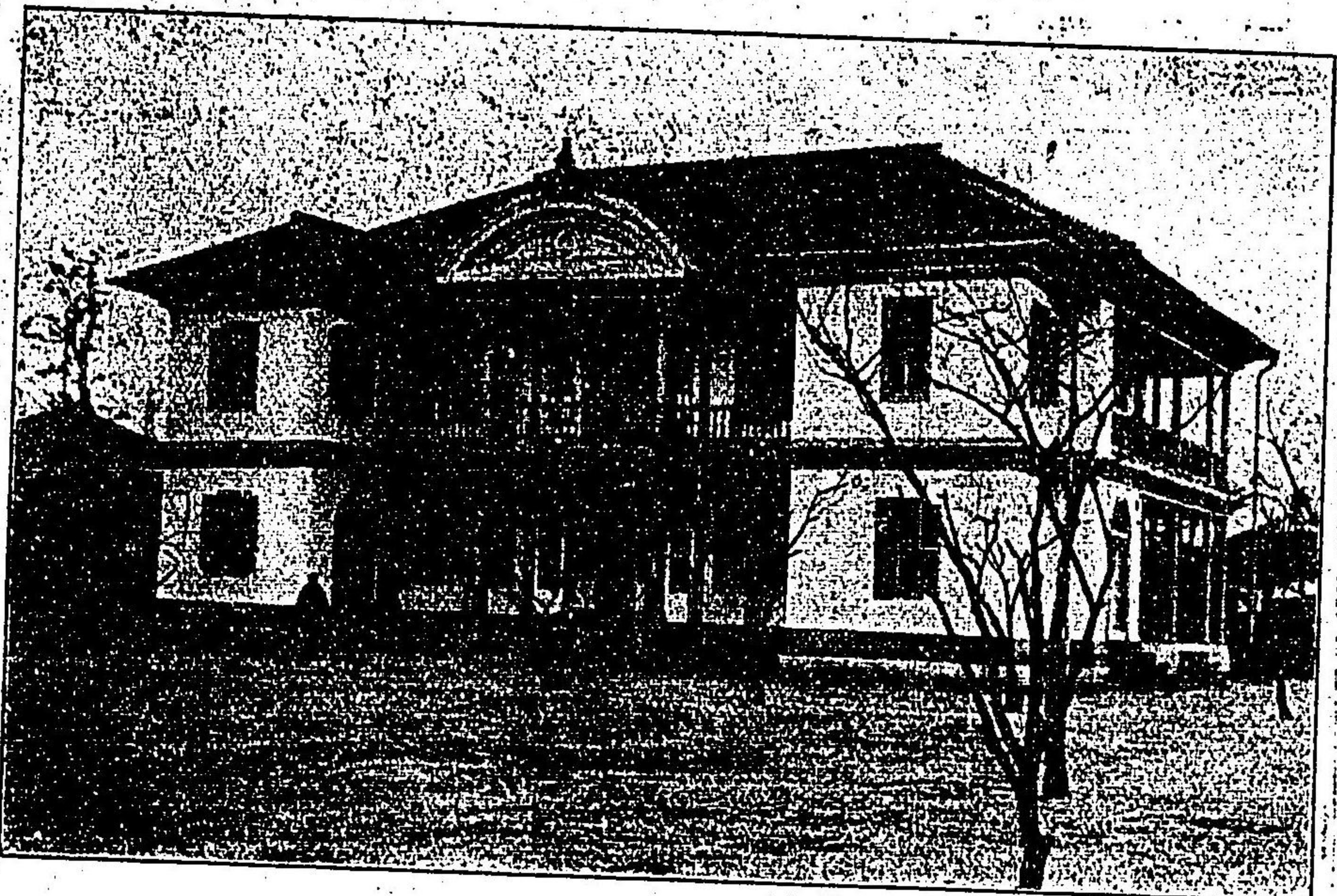


築材只賣店

屋問萬木材

六一

西 洋 料 理



東 岡 洲 市

共 進 亭

電話 二〇八七番

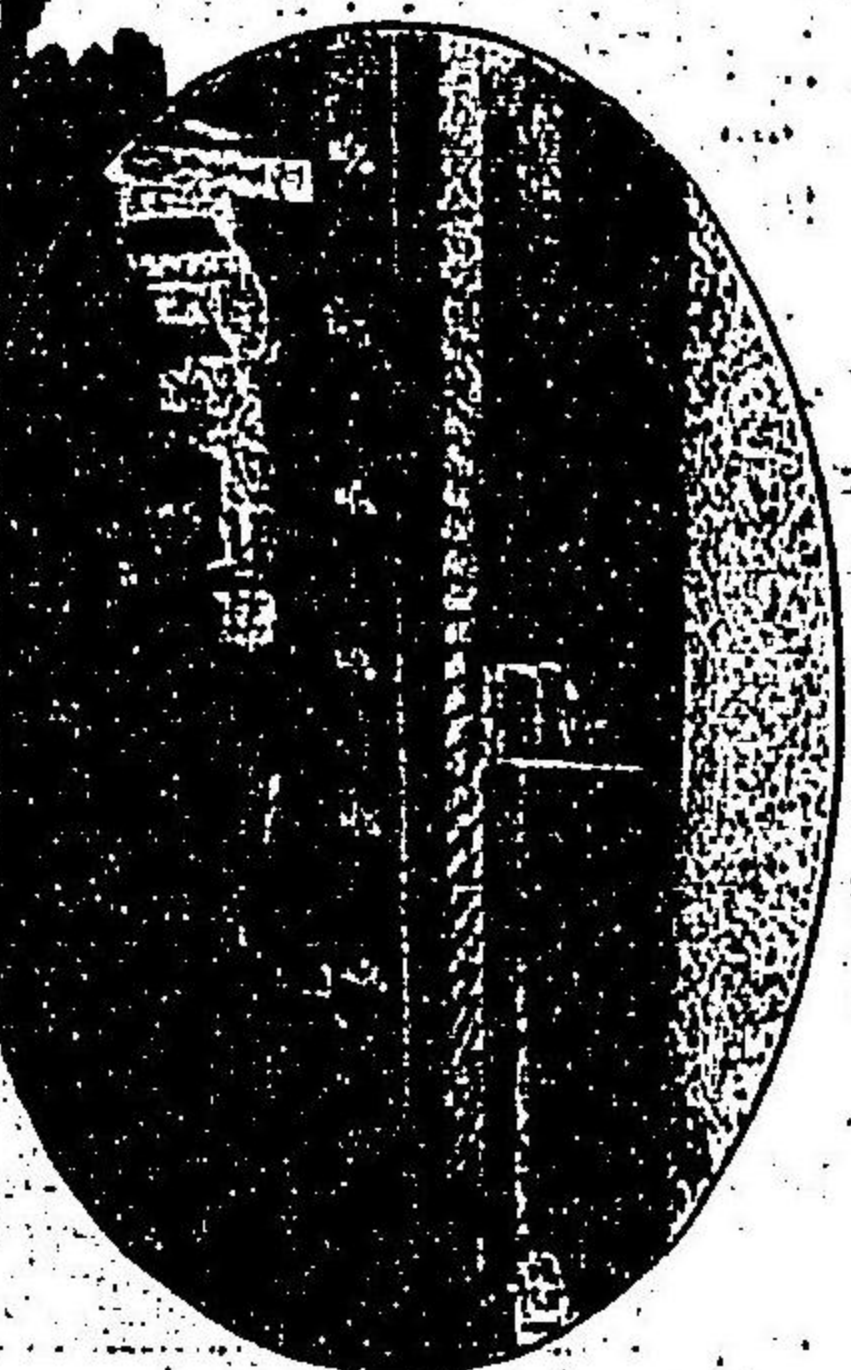
洋足風紋足
袋呂木盤
手厚 敷織各
拭品類類種

標 商 錄 登
元 造 製 袋 足 盤 常

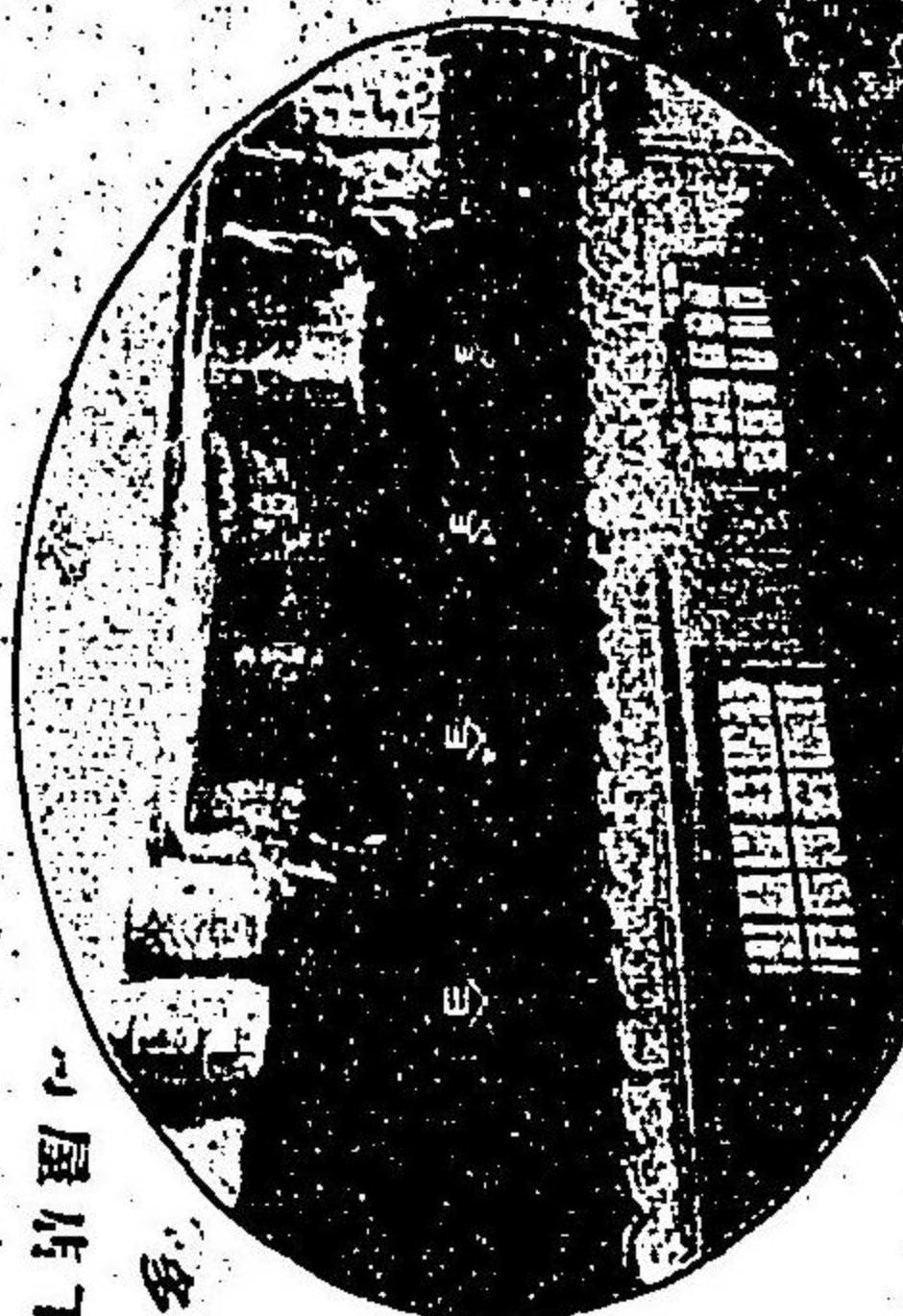
東 倉
博多上西町等各地
渡邊渡三郎

特産電話
電信號碼
三〇九
二〇九
一商店

商 品 目 録
男女帶地巾袋織、同專、兵隊男女
兒供帶、袴地、伊達袋、同專、
錢人賣人類、中帶地、婦人腰帶、
錢着尺地、大、小、腰、入、骨、紗、織、刺、掛、帶、



東 倉
博多、大町、博多、町通
渡邊渡三郎 支店
電話 五〇七番
三九一
大阪 三九一
電話 五〇七番



魚 材 防 腐 劑 油 石 灰 網
木 材 防 腐 劑 油 石 灰 網
竹 家 二 根 一 瓦 布 紙 切 山 綱
竹 家 二 根 一 瓦 布 紙 切 山 綱
竹 家 二 根 一 瓦 布 紙 切 山 綱

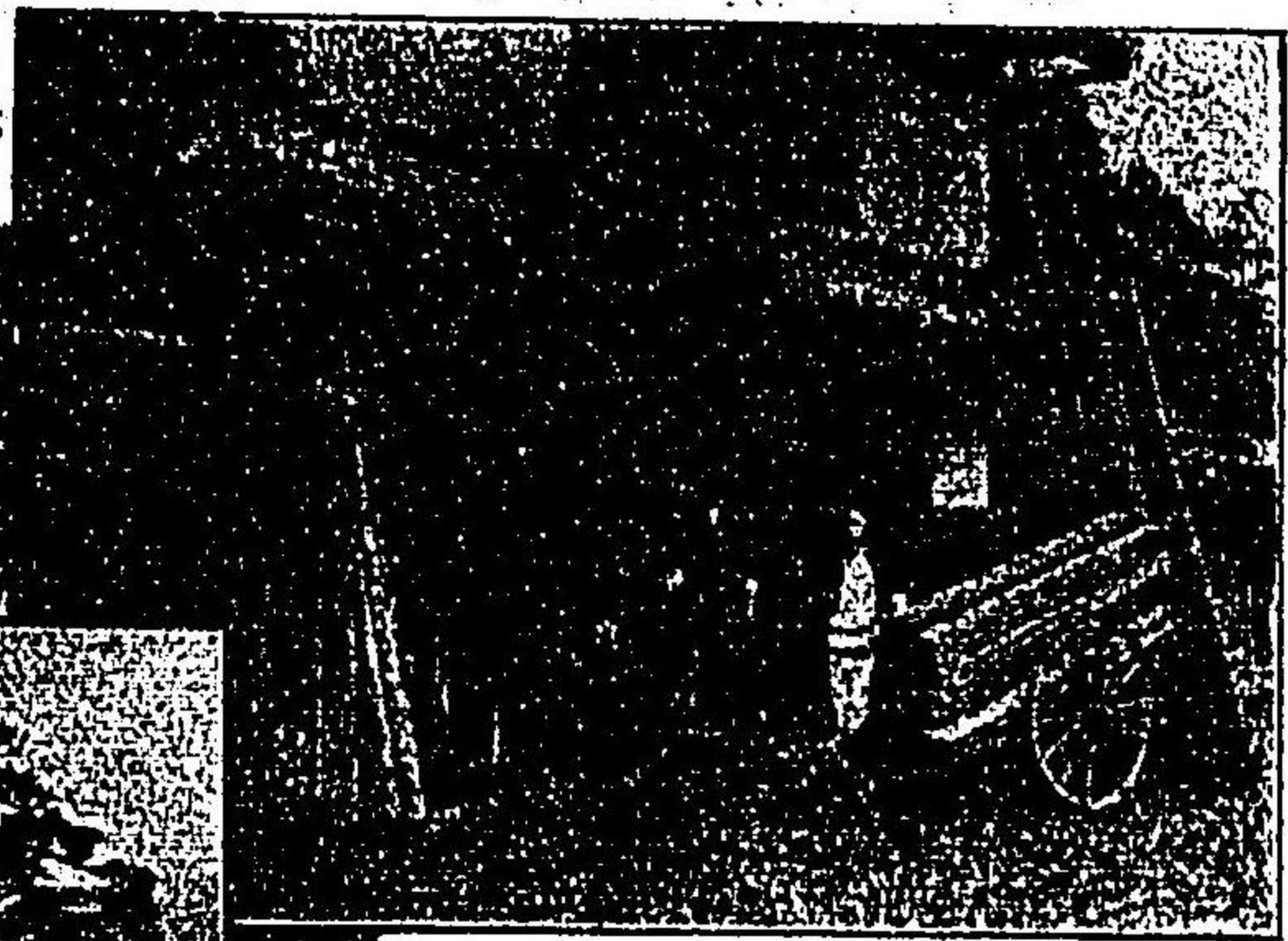
店 支 郎 三 渡 邊 渡

東 倉

水川

電話 九〇五(子)或(巧)

- 一杉^{機械挽}板類 各種
- 一角丸太材 各種
- 一唐木床道具 一切
- 一杉^{手挽}桁目板類



材木商

其外 建築用材一式

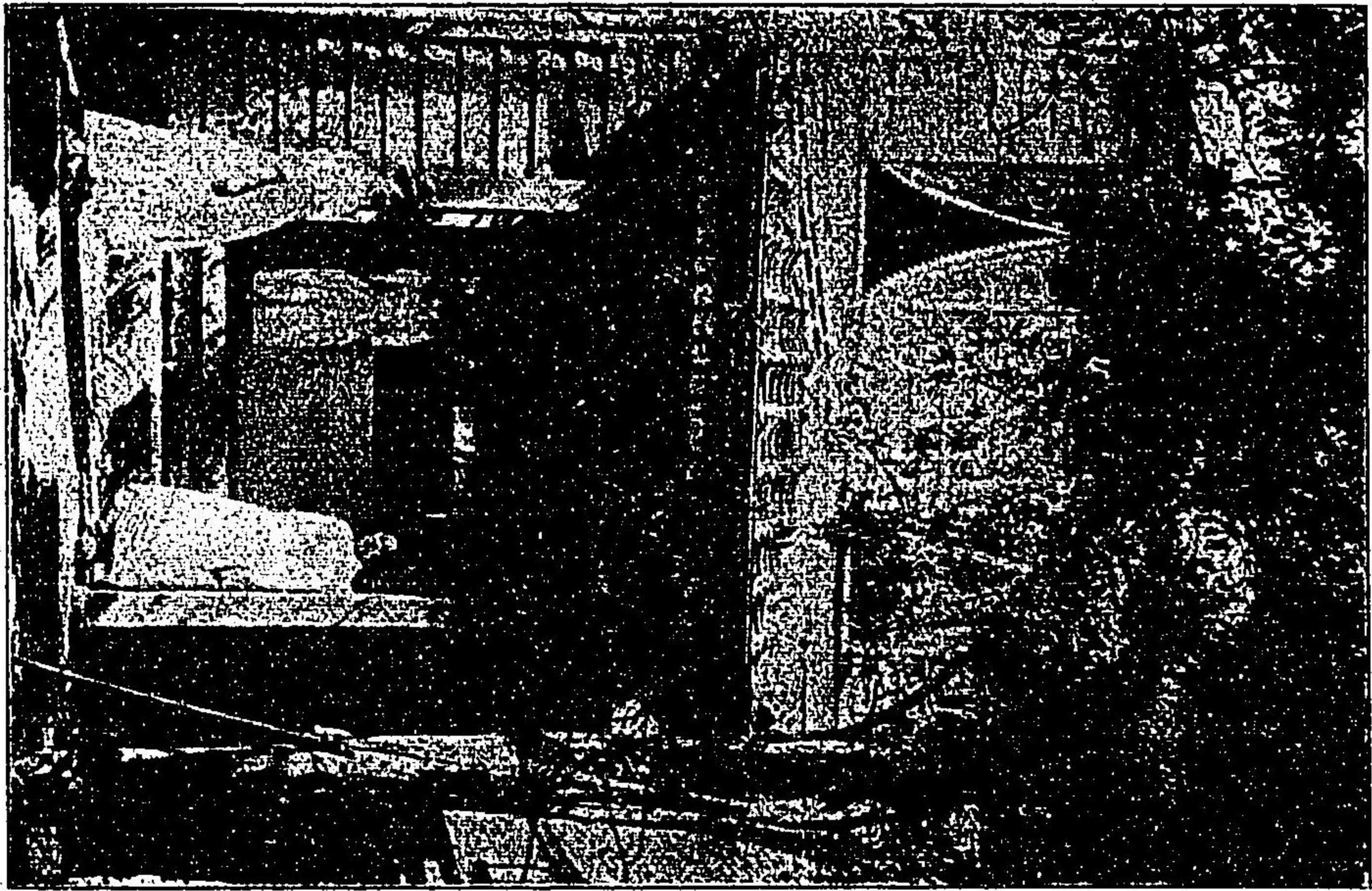
福岡縣 北漣町

全上田宗太郎

電話 五百六十八番 (ウエタ) 及 (ウ)

三池大牟田本店 上田支店

戸上胃腸科醫院



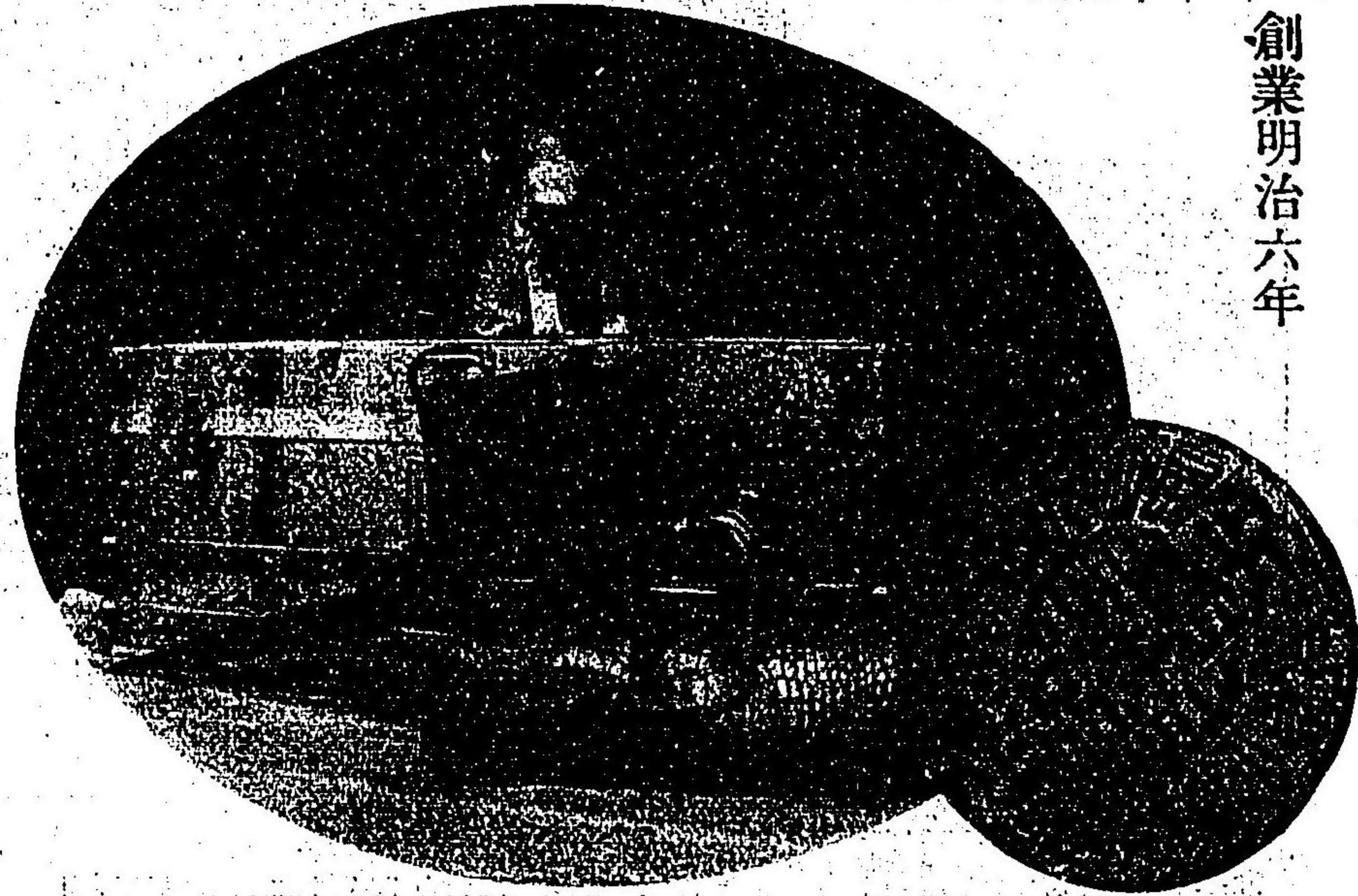
醫學士 戸上之助 電話五六五番

福岡市東中洲町明治橋角

入院隨

價正實確

創業明治六年



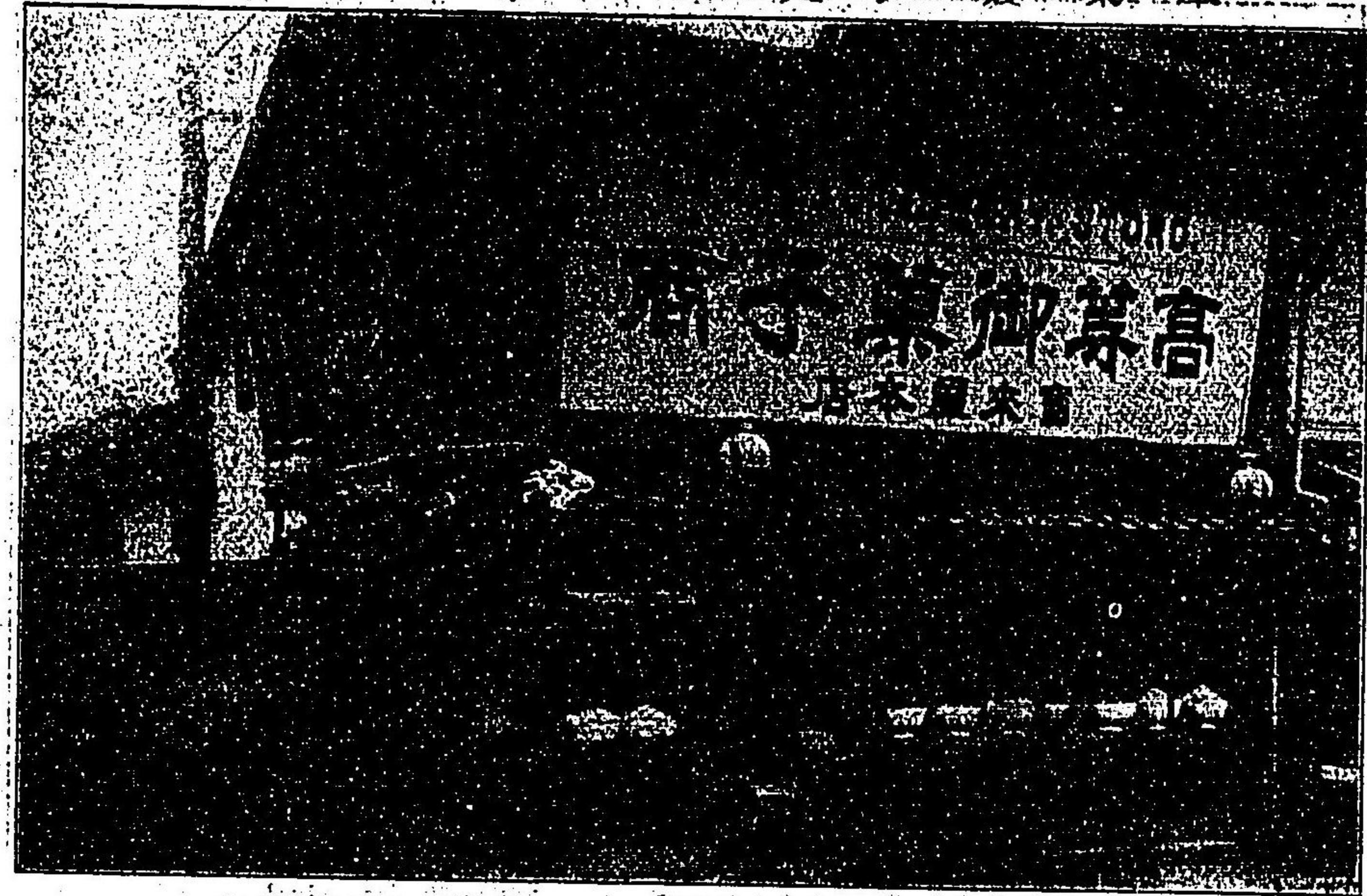
福岡市中島町 兒島洋品店

番五二〇四 阪大 座口替振 二二四 話電

六七

ンイロヒ・華雲翠・麩索卵鷄 名獨 產特

店本屋來寶 元造製家本



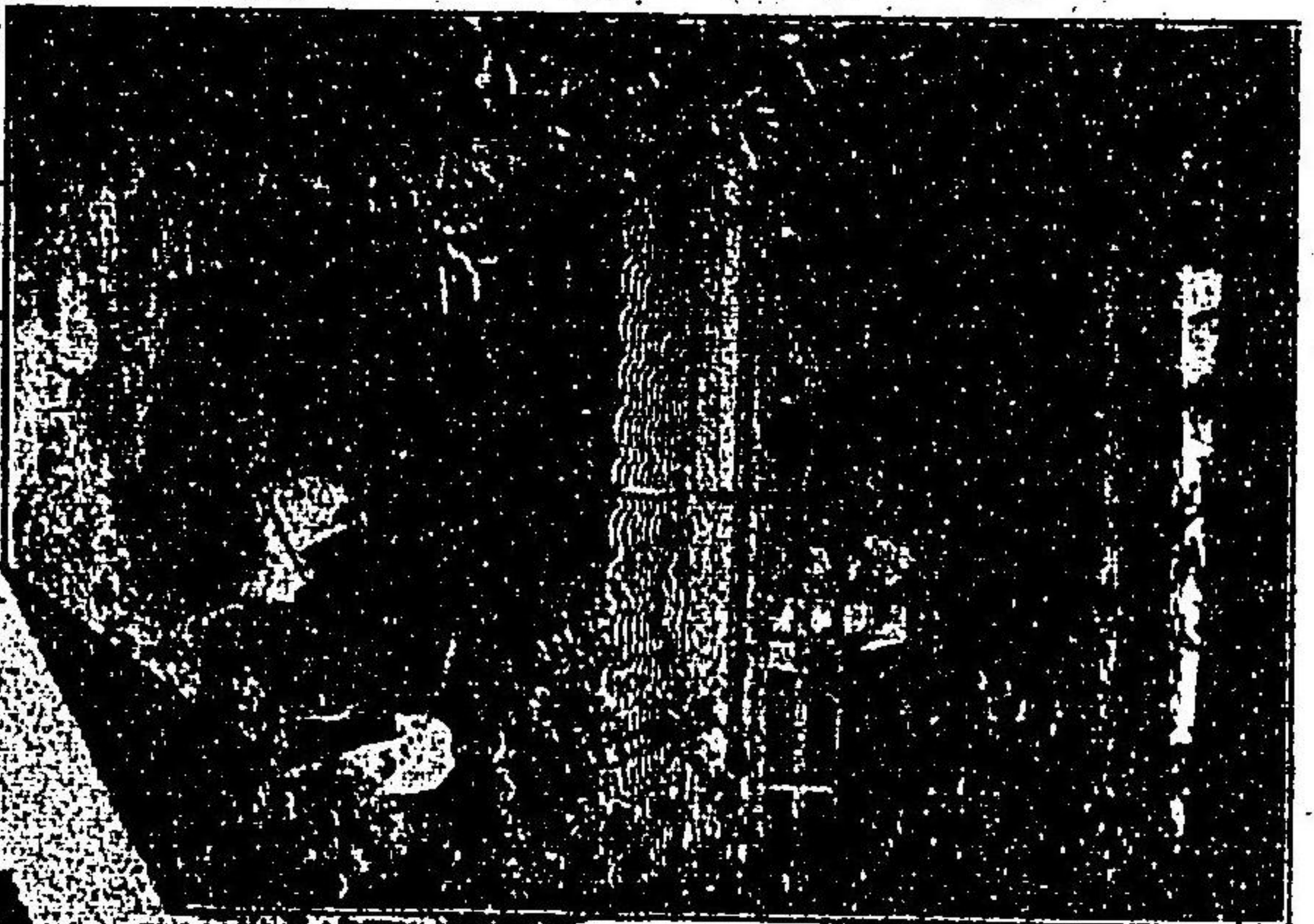
高等菓子舖 寶來屋小賣部

諸洋 罐菓 詰子 類類 問屋 卸部 六六

(本) 語略信電 二六九話電 町掛多博

一等旅館

福岡市東中洲町電車通



水野旅館

表口



電話四百七十番

真庭

博多織卸商

京都市六條通烏丸西五人

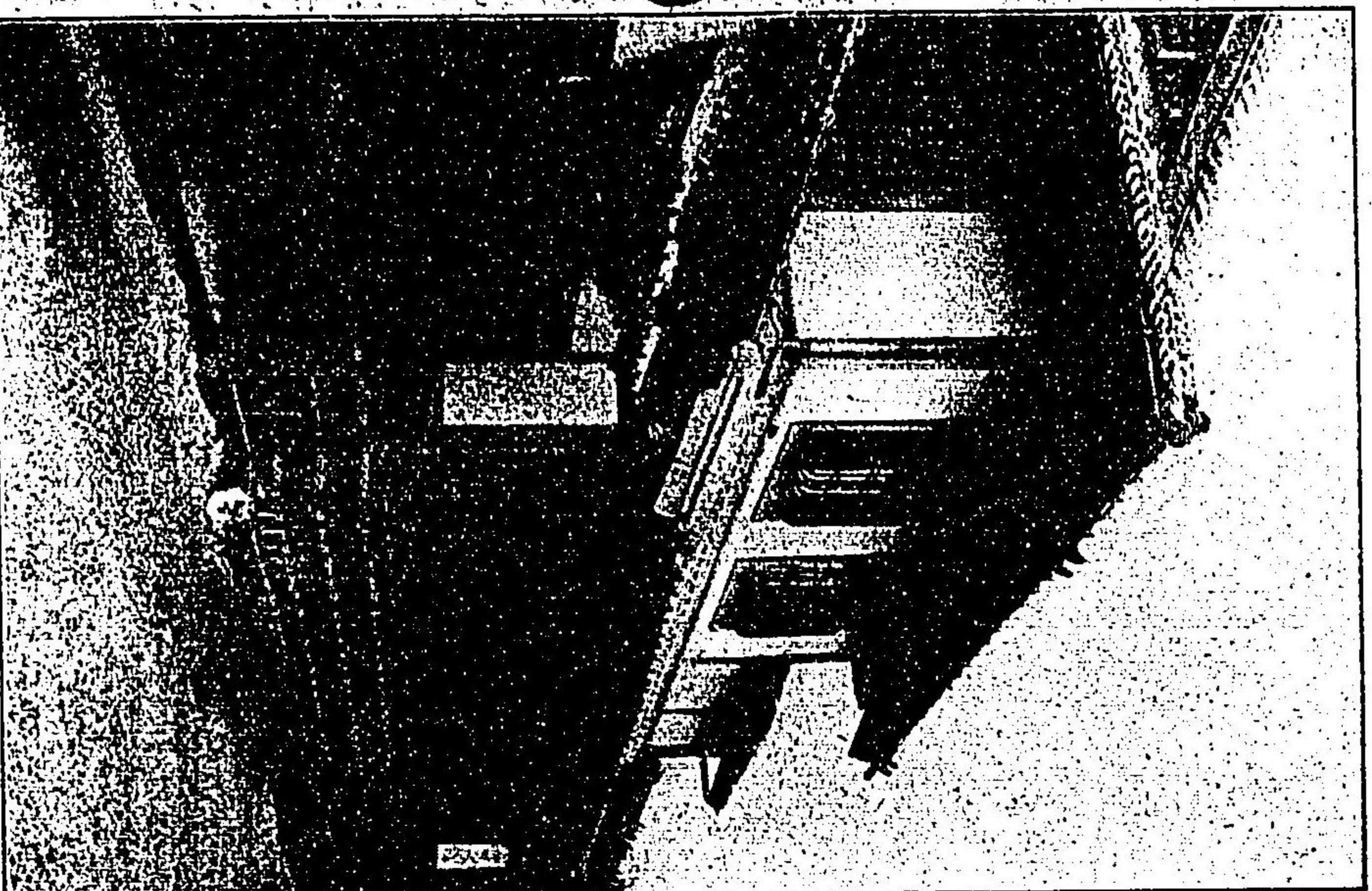


河原德平出張店

筑前博多東中洲水車橋通



河原德平商店



電 路 三 百 一 十 一 番

六光

入 院 隨 時



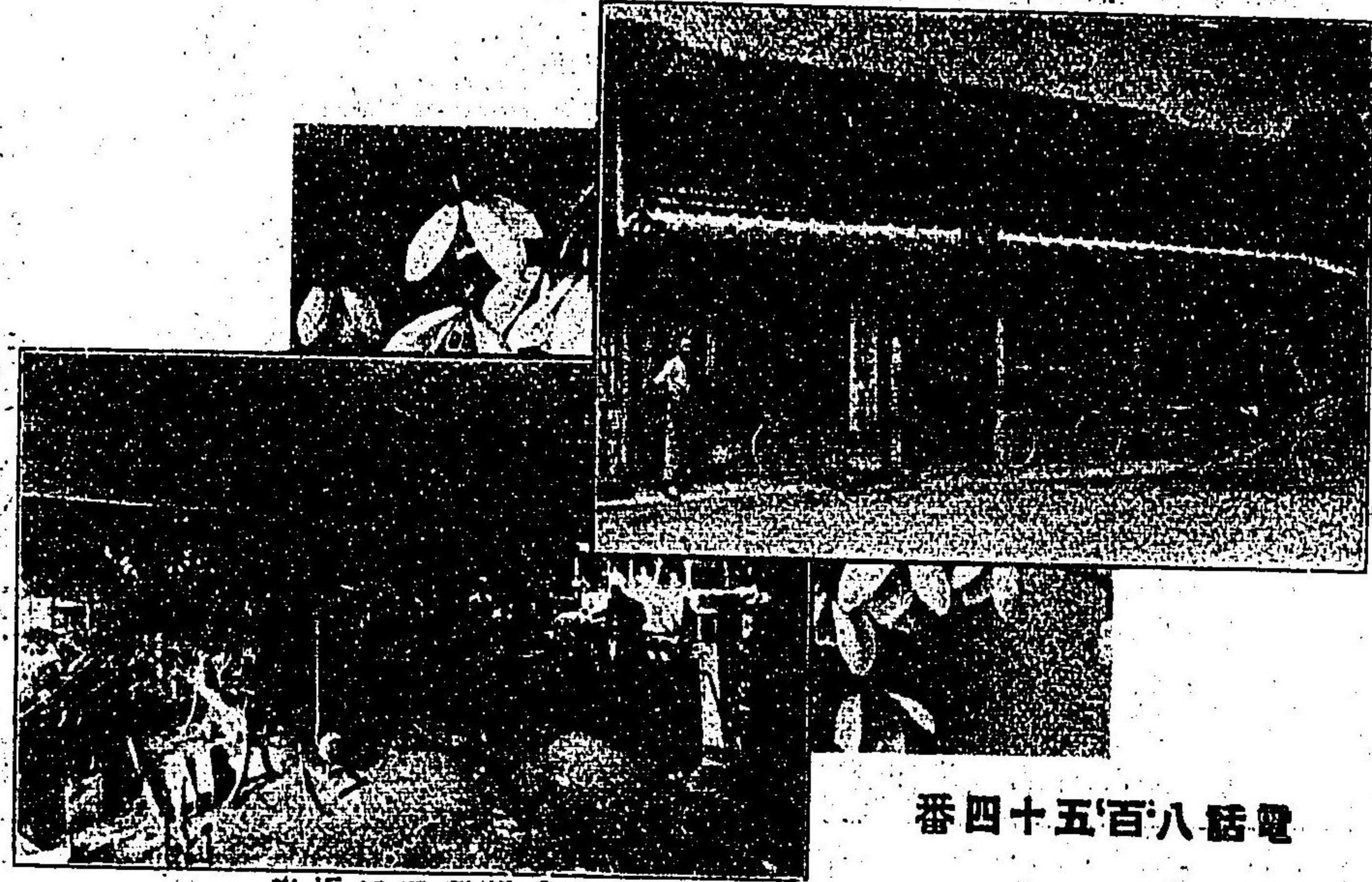
大島眼科醫院

福岡市博多上東町

七一

衡器全部製作並度量衡販賣

陳列場



金部機工場

電話八五十四番

福岡縣博多竹若町

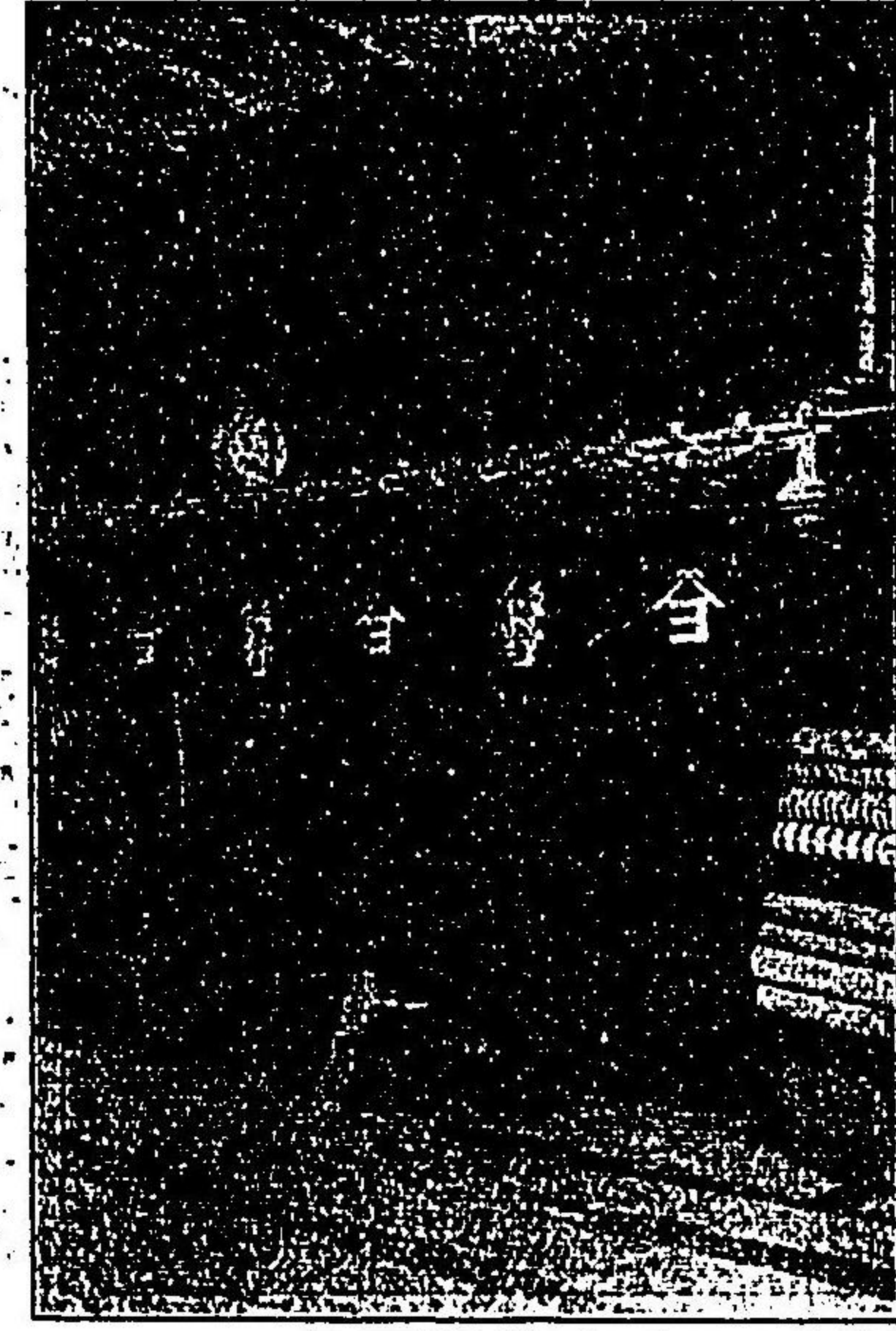
宮脇善太郎

七〇

福岡縣博多竹若町三番地

分 工 場

紙・疊・表・荒物卸商 吳服太物商



商號上名勘



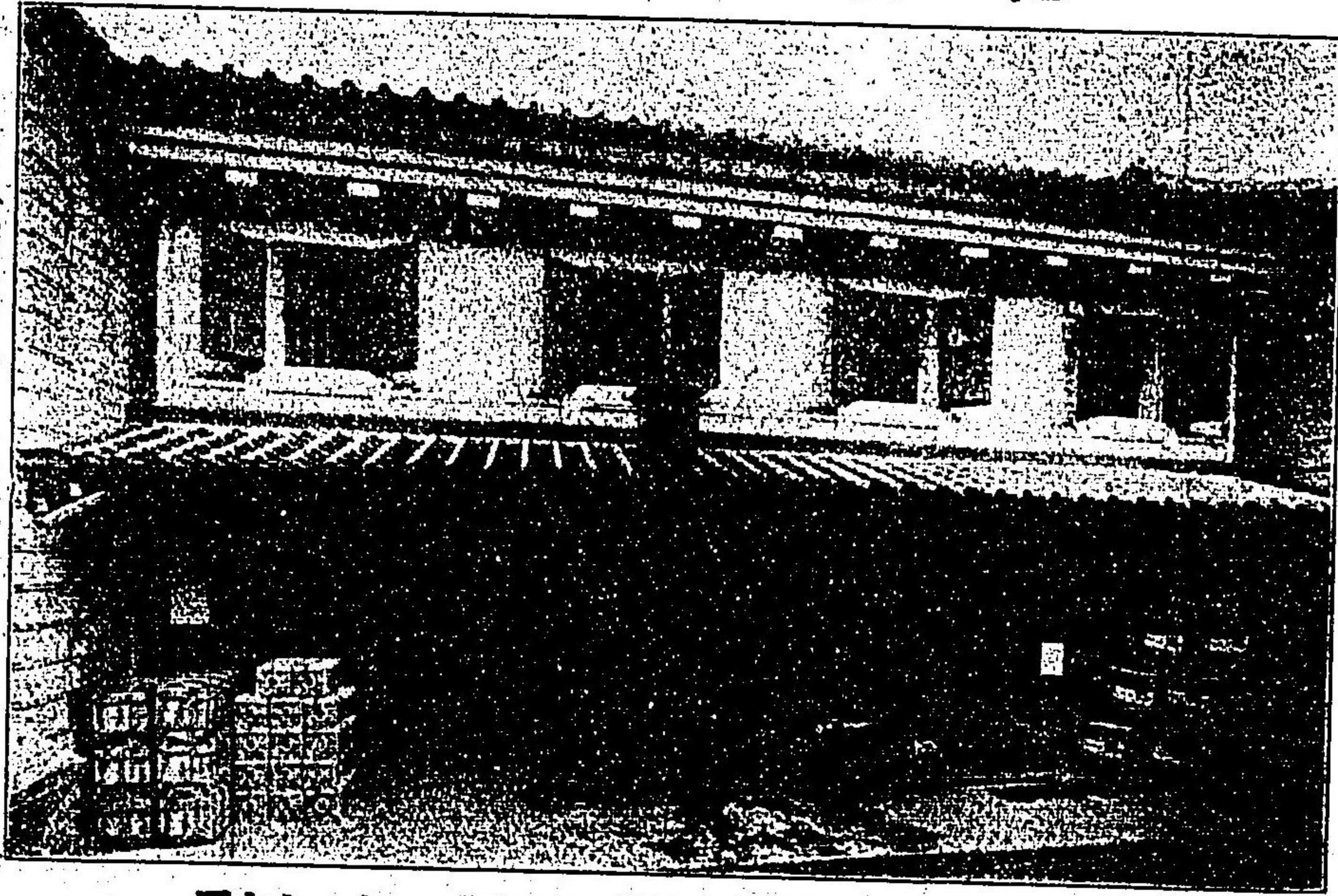
電話十四番

博多下土居町
飯野勘兵衛

博多掛町
飯野勘七

七三

乾物并海產商



電話十二番 櫻替口東座一七九六番

八百治商店
內田治兵衛

七二

福岡市博多奈良屋町

材 木 問 屋



電 話 六 十 三 番

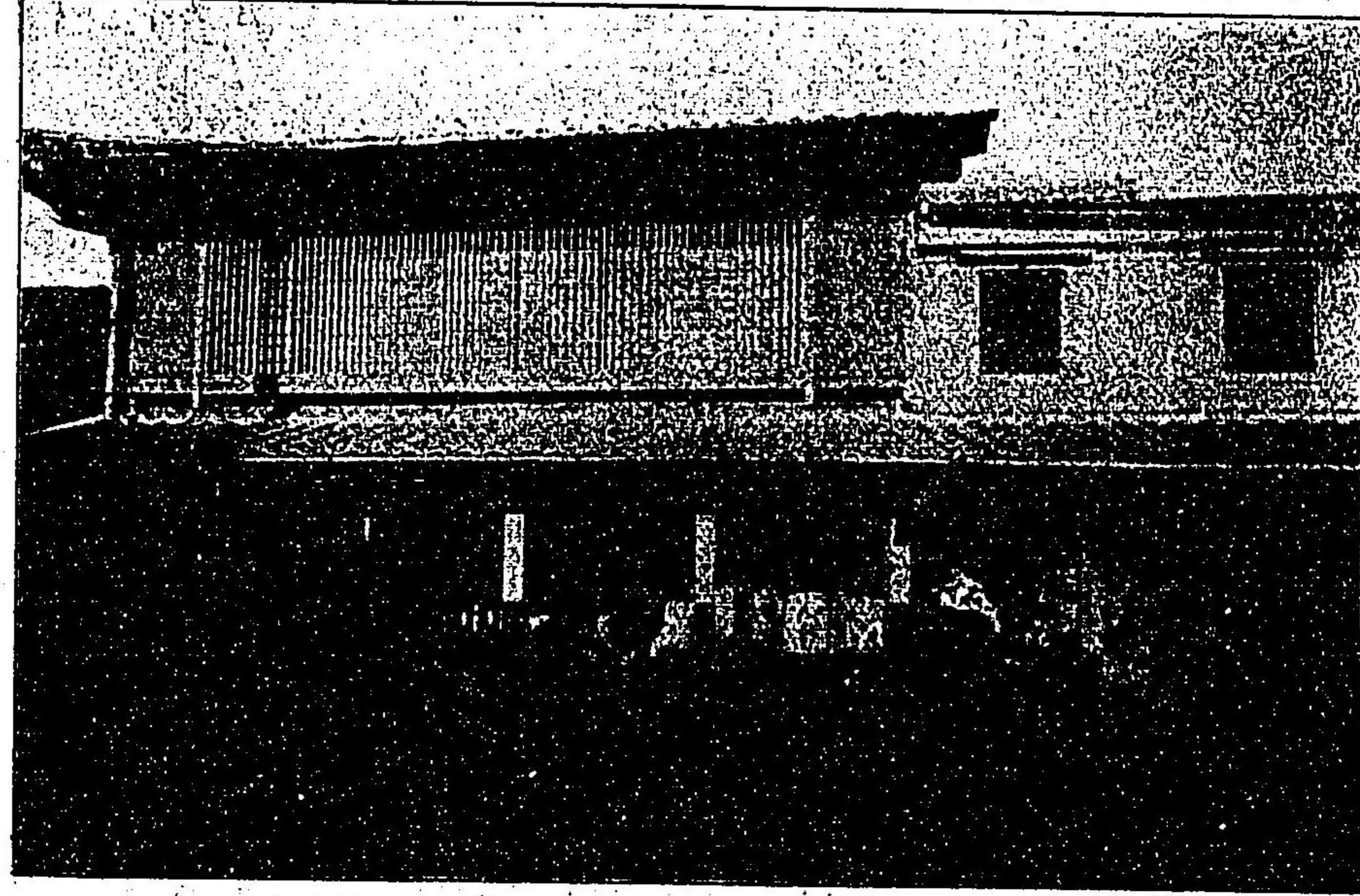
の

青 木 勘 藏

博多港海岸通り貳丁目

七五

業 買 賣 托 委 商 料 肥 穀 米 外 内



(コマヤ)ハ又(シ)略電 番九十三百話電園

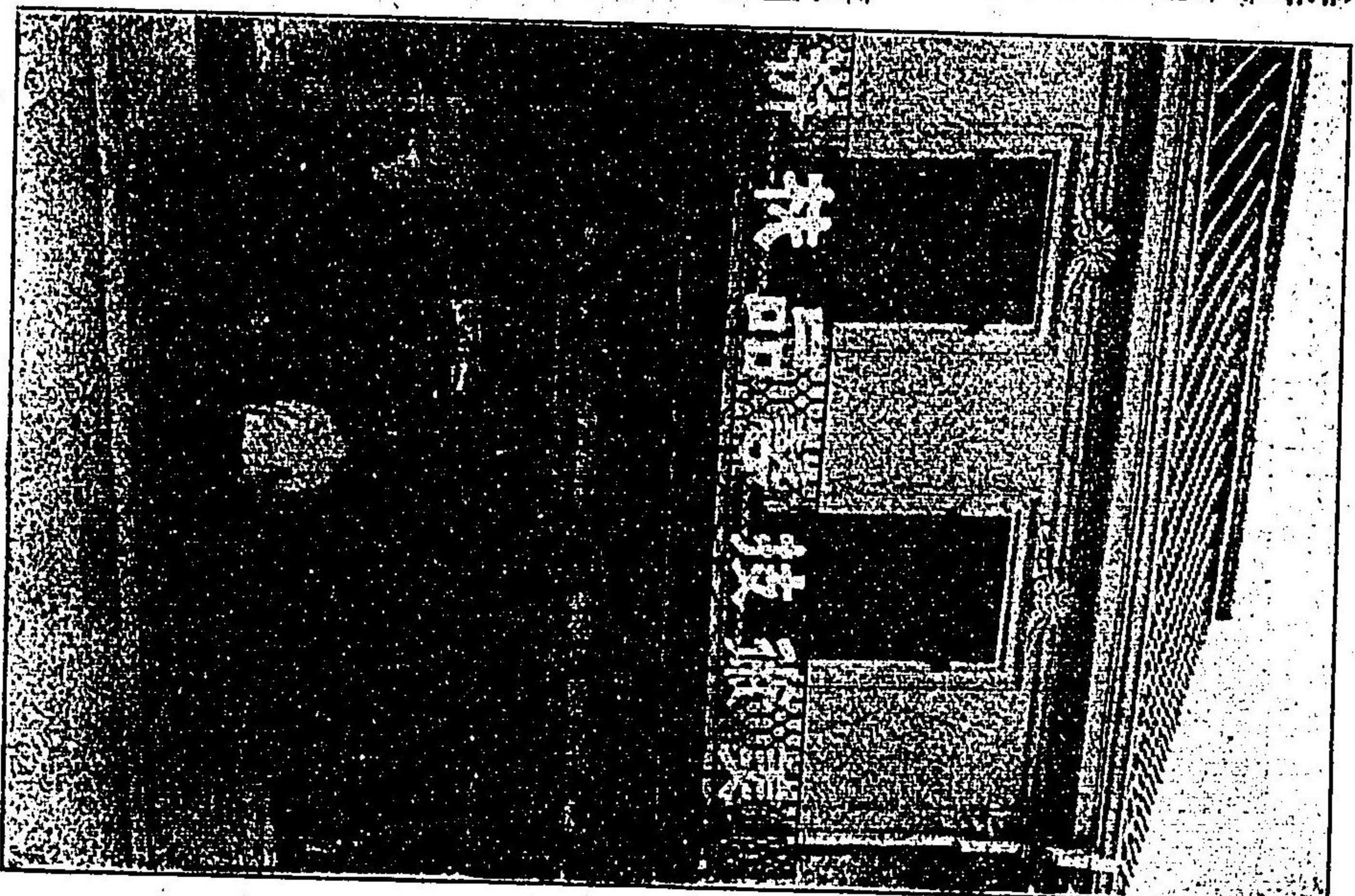
合 社 家 間 善 次 郎

福岡市北舟町四番地

七四

中水

具器及類糸・物袋・繡刺・花造



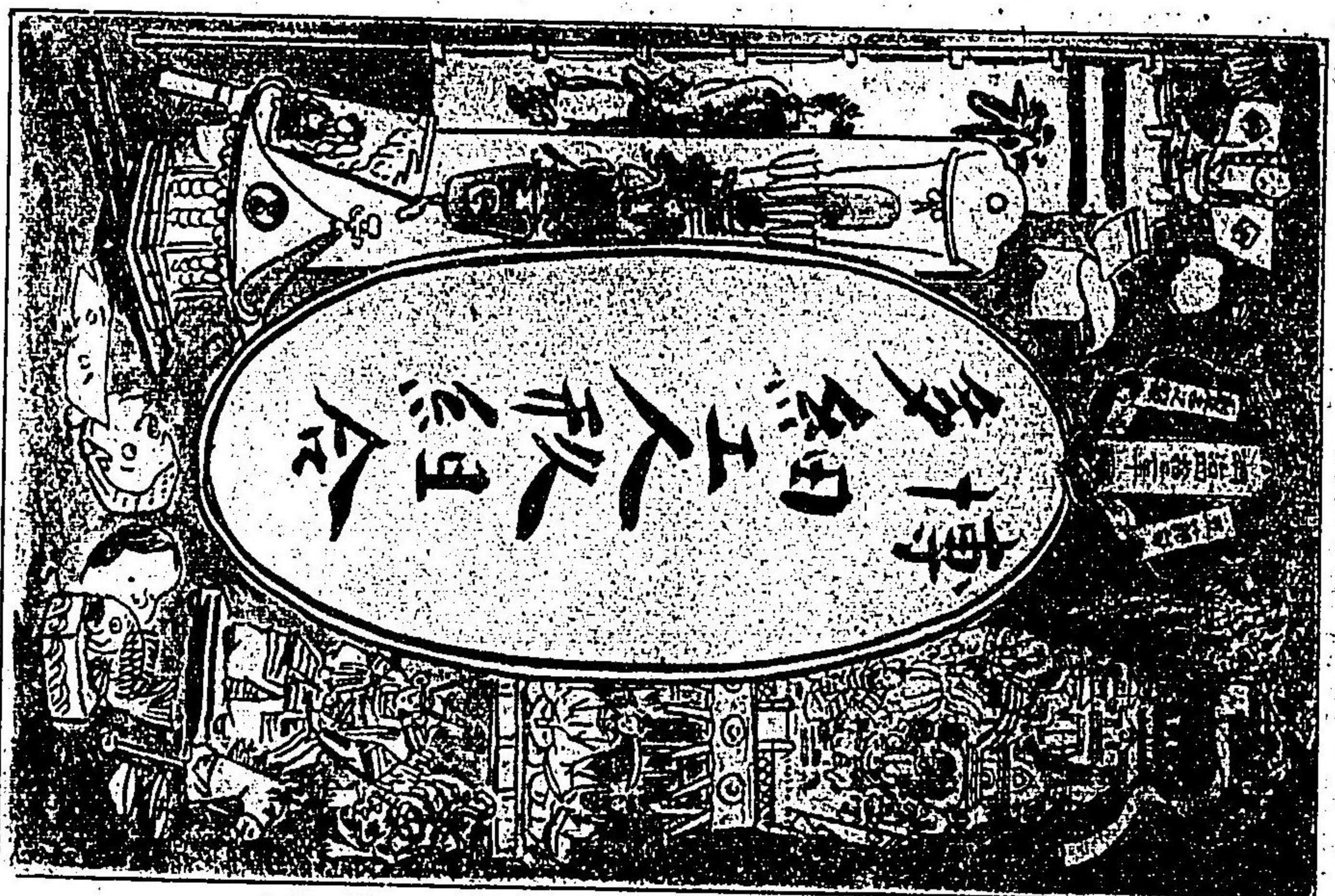
美術技藝品原料商

博多川端
三丁目

松尾利吉商店

〒櫻井口 東京一五八七
電話 百〇二番

福岡市博多工藝團體



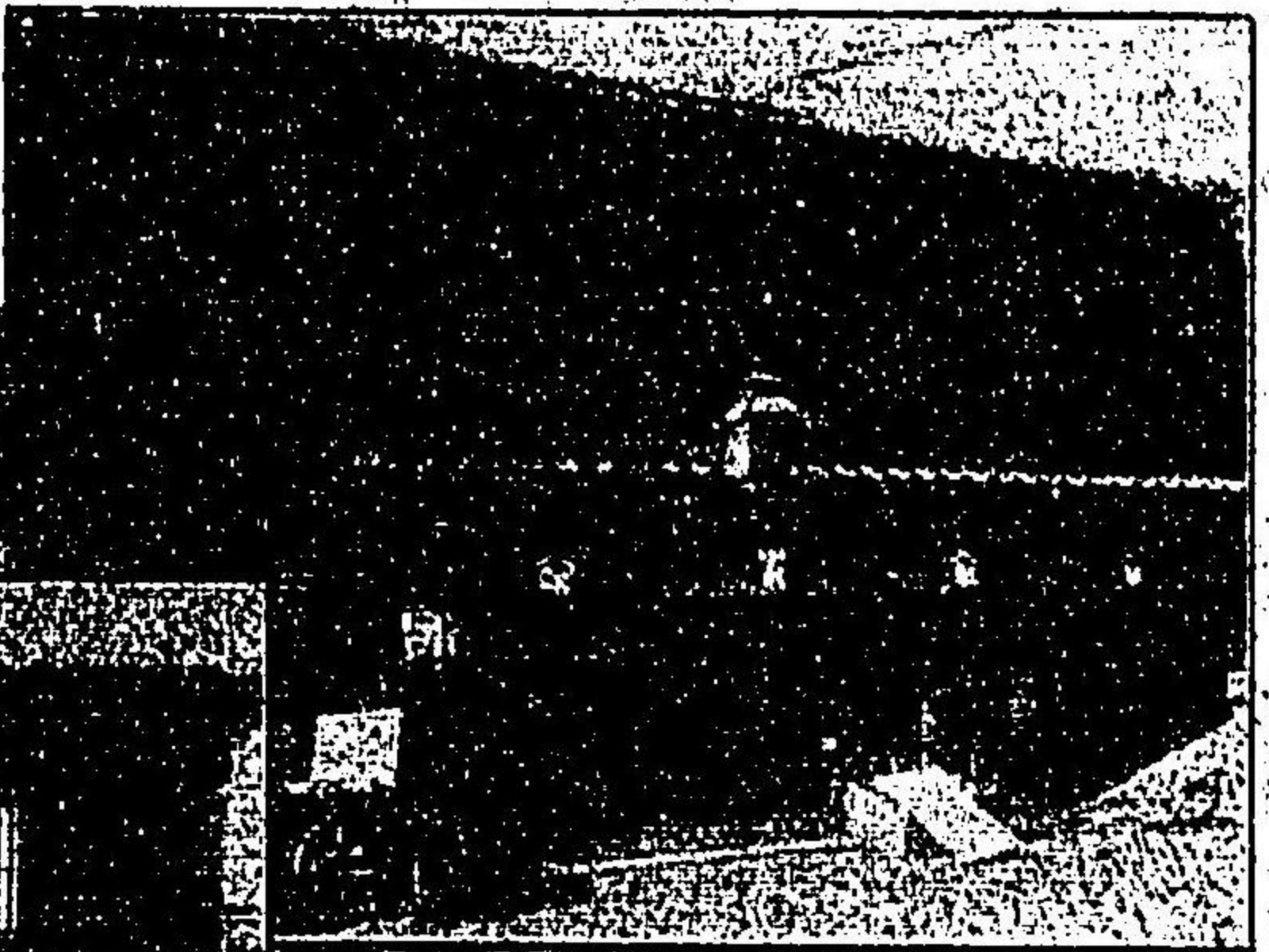
三三

生 系 商

町屋宿市岡福

中 村 清 次 郎

電 話 二 三 番



町屋宿市岡福

中 村 清 次 郎
第 貳 支 店

銘 酒 吹 也 此 花

七 六

福 岡 醫 大 科 學 御 用 達



理化學用・醫療片玻璃器・患者用藥瓶・標本瓶・板硝子・鏡及食器類一式

頭 店 岡 福

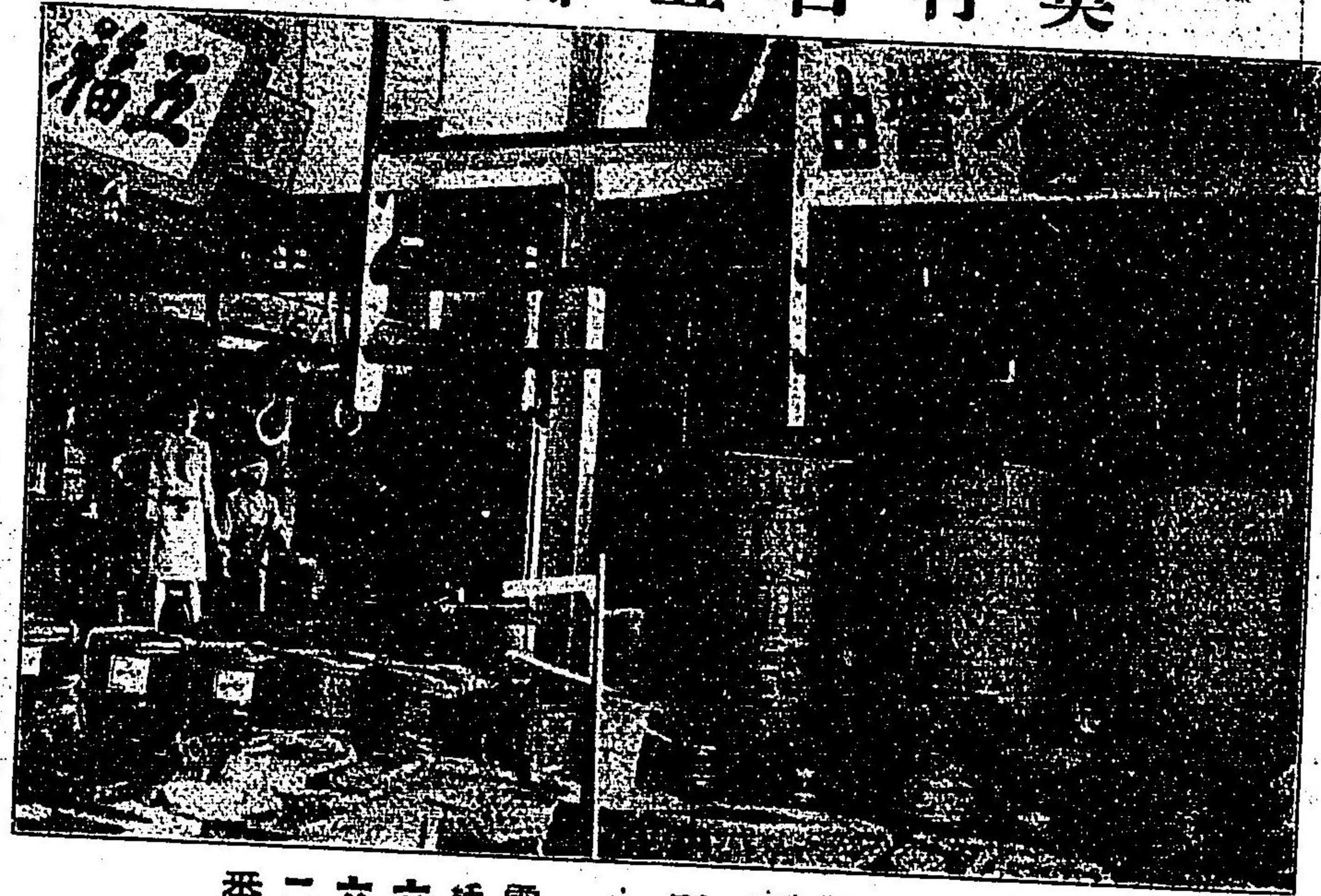
福岡市上名島町六十二番地

小 川 鐵 磨

電 話 五 五 七 番

中 原

奧村吉五郎商店

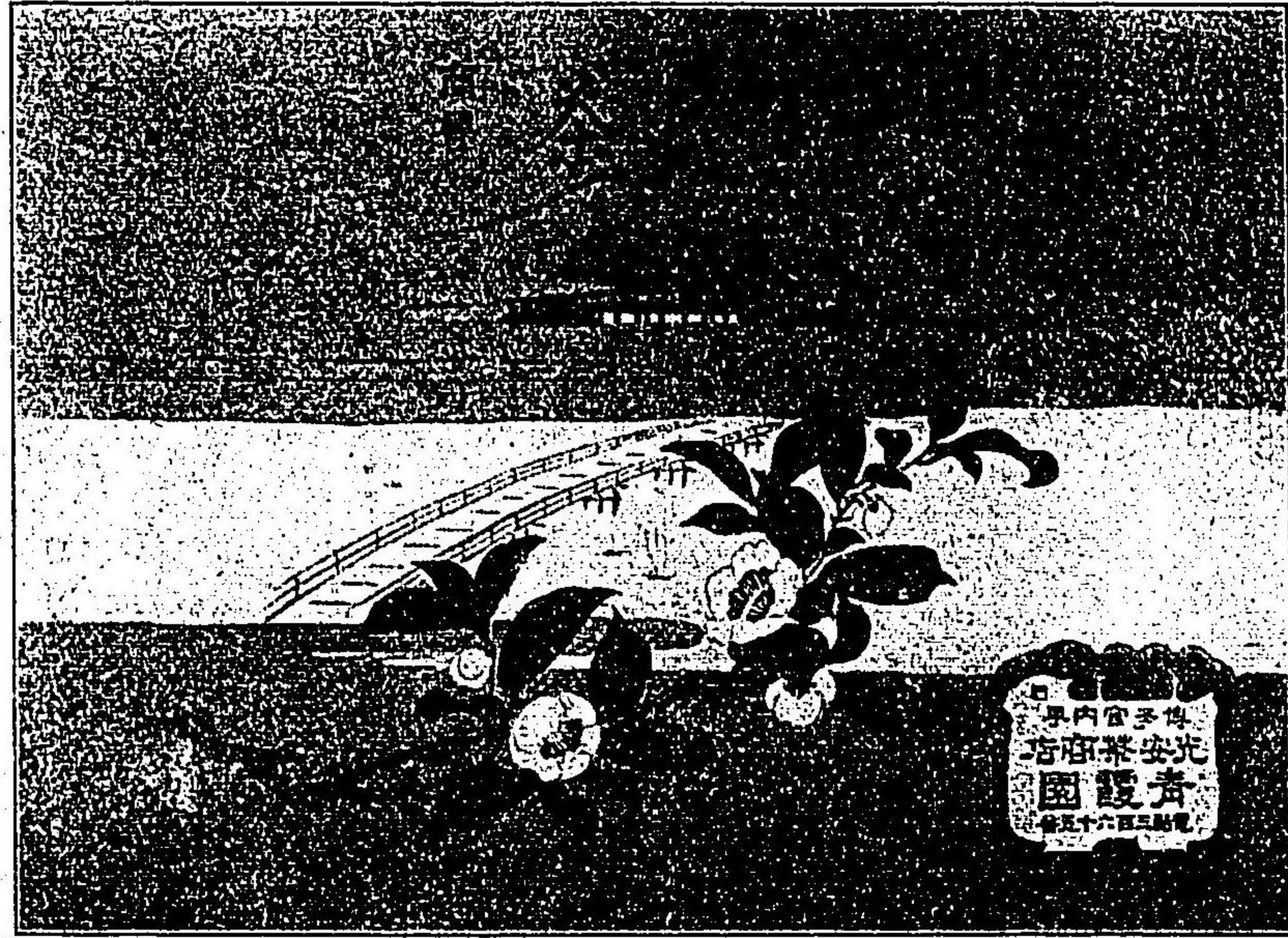


振替口座 東京一三六〇四番
大阪一九八六番

博多下吳服町 電話六六二番

八〇

光安茶店



振替貯金口座 大阪六八二八番

八一

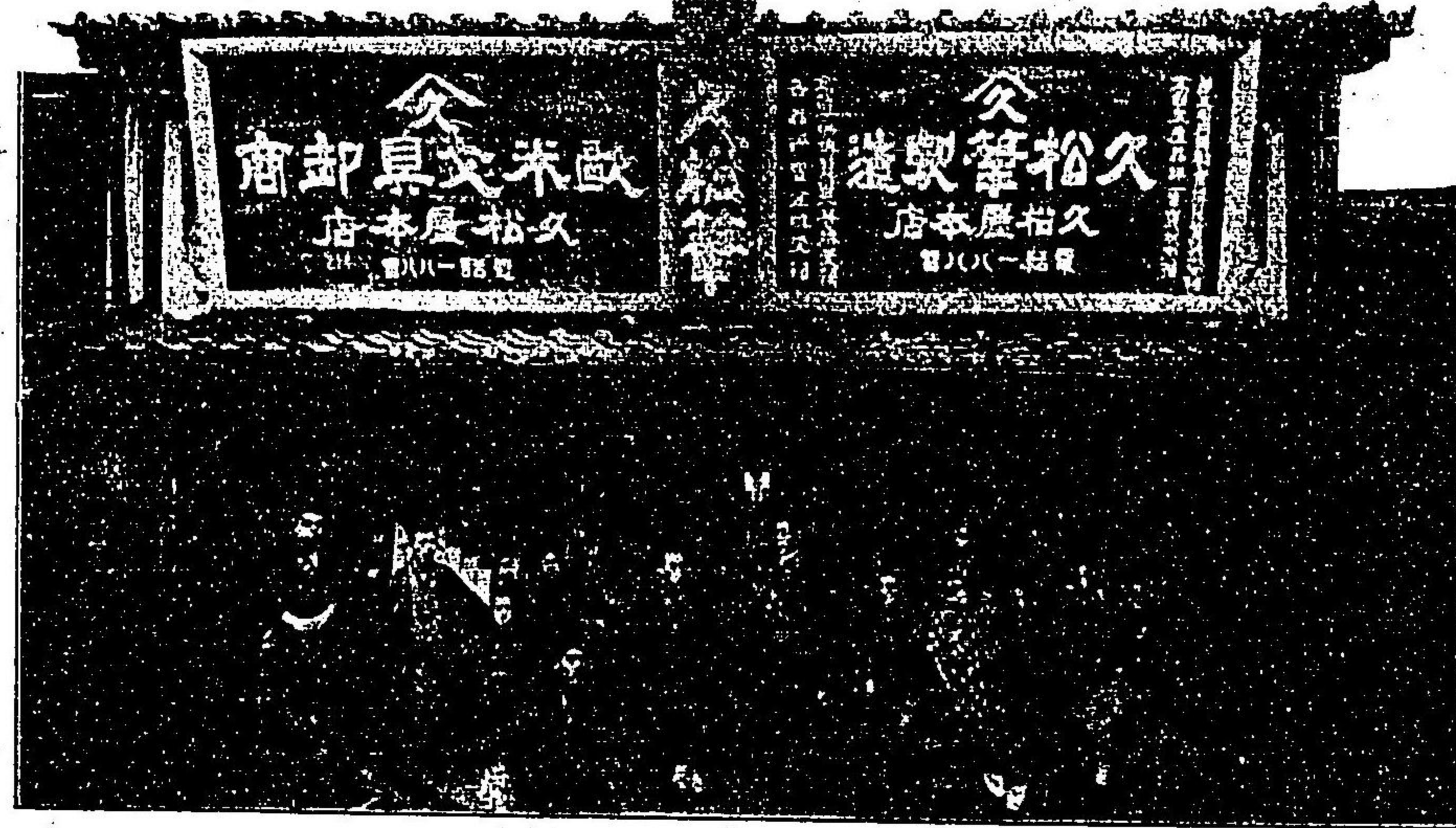
文 具 商

山田久米三郎

福岡市博多網場町
久松屋本

福岡市上新川端町
久松支店

八三



電話一八八番

久留米市通三丁目
久松支店

金物營業部



營業種目
(和洋金物一切販賣)

島田式石油一厨手一約販賣店
相部金物部
博多掛町六番地
電話七四九番

博多電燈株式會社取付工事委託店

相部電機部
博多古門町
電話七四九番



營業種目
(電燈、電話、避雷針、諸器
具製造販賣、電氣工事請負)

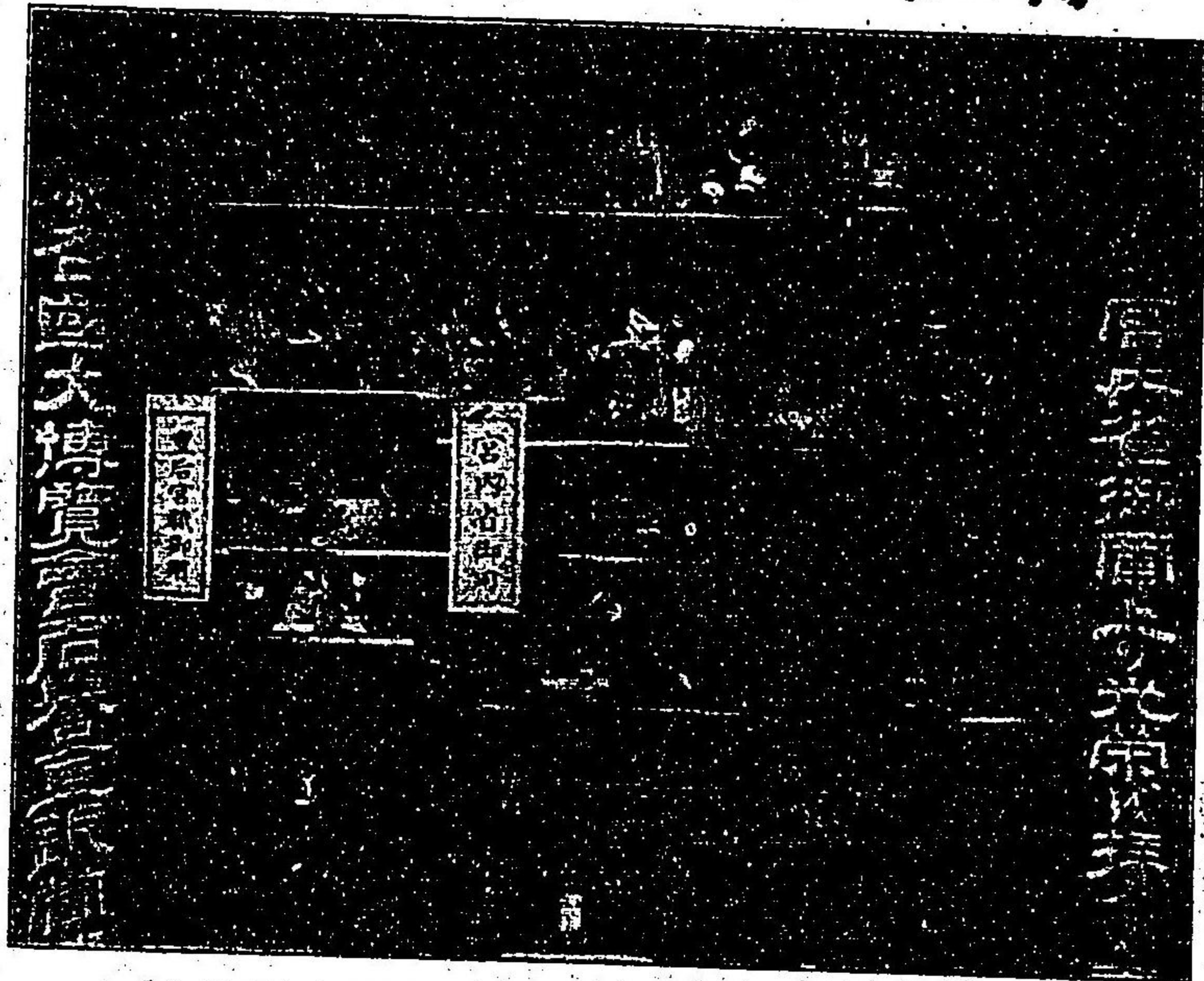
電機部

八二

國産博多人形

八六

博多みやみの大王



八三三五 阪大、五〇九〇一 京東 座口金貯替振

卸窯元 井上清助

博多

國港築設の議——海路——博釜間航路——燈臺——旅館——人力車

陸地にありては九州鐵道市の南端を走り、一瞬にして百里を馳するを得べく、海上は博多港を控へ船舶輻輳して貨物の回漕自在なり。陸海交通の利便なるは蓋し本市の如きは稀に見ることあるとす。唯未だ臨港鐵道の布設を見る能はずして海陸連絡輸送の設備全からざるは遺憾とすべく、夙に地方人士の間に其必要を唱導せらるゝ、更に市街の交通に至りては道路狹隘を免れざるも概ね平坦且つ電氣鐵道ありて市の中央を貫通し、隨處敷分時にして來往するを得べし。本市商工業の繁榮は主として此交通運輸の利便と、地形上優勝の位置を占むることとに基因す。

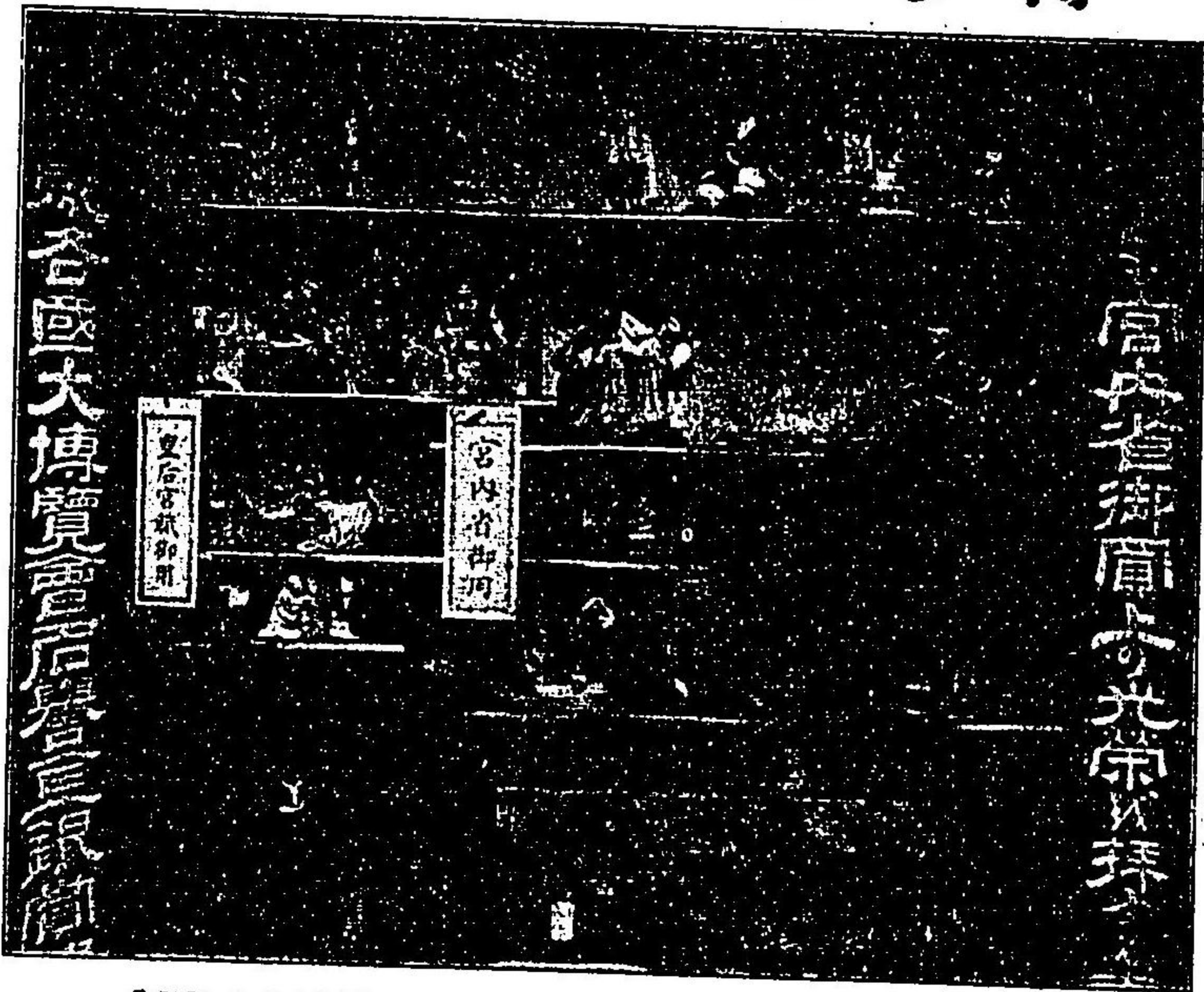
道路

本市が千七百餘年前の小邑より漸次發達して二都市を現出するに至るまで、或は兵燹に遇ひ、市街は時に膨脹し、時に衰微し、其間幾多の變遷を重ね今日に至れるを以て、街路亦狹隘不整なるを免かれず。國道は縣廳前より中島町掛筋を経て松原箱崎に通じ、縣道は縣廳前より西じ江早良糸島兩郡を貫通し肥前に入る、是れ本市の貫通道路なるも而も幅二間に達せざる所あり、市街の繁榮に伴ひ交通上障礙多かりし。是に於て道路擴張の必要を感ずるに至り、其第一着手として明治四十一年工を起し、市は縣廳前より一直

國產博多人形

八六

博多やみの大王



振替金口座 東京一〇九〇五、大阪三五三八

博多
井上清助
卸窯元

國港築設の議——海路——博釜間航路——燈臺——
旅館——人力車

陸地にありては九州鐵道市の南端を走り、一瞬にして百里を馳するを得べく、海上は博多港を控へ船舶輻輳して貨物の回漕自在なり。陸海交通の利便なるは蓋し本市の如きは稀に見るところとす。唯未だ臨港鐵道の布設を見る能はずして海陸連絡輸送の設備全からざるは遺憾とすべく、夙に地方人士の間に其必要を唱導せらる、更に市街の交通に至りては道路狹隘を免れざるも概ね平坦且つ電氣鐵道ありて市の中央を貫通し、隨處數分時にして來往するを得べし。本市商工業の繁榮は主として此交通運輸の利便と、地形上優勝の位置を占むるに基因す。

道路

本市が千七百餘年前の小邑より漸次發達して一都市を現出するに至るまで、或は兵燹に遇ひ、市街は時に膨脹し、時に衰微し、其間幾多の變遷を重ね今日に至れるを以て、街路亦狹隘不整なるを免かれず。國道は縣廳前より中島町掛筋を経て松原箱崎に通じ、縣道は縣廳前より西じて早良糸島兩郡を貫通し肥前に入る、是れ本市の貫通道路なるも而も幅三間に達せざる所あり、市街の繁榮に伴ひ交通上障礙尠からず。是に於て道路擴張の必要を感ずるに至り、其第一着手として明治四十一年工を起し、市は縣廳前より一直

線に筑紫郡千代村に達する幅員十間の大道路を、縣は博多停車場前より該新設道路に至る十間幅の大道路を更正築造し、同時に電鐵を該道路に布設するに至れり。又市外に通ずる縣道は前記の外嘉穂郡飯塚に至るもの、筑紫郡山家村に國道と合するもの、肥筑山脈を越えて肥前に達するものあり。總べて國道延長十二町二十二間、縣道二里六町十三間、里道十四里二十四町二十六間に及べり。

地名	福岡元標 よりの距離	地名	福岡元標 よりの距離
東 京	三百五里十九町	大 分	三十八里五町
大 阪	百六十一里十五町	佐 賀	十五里七町
小 倉	八十八里三十二町	長 崎	四十六里
直 方	十一里二十町	佐 世 保	二十一里
若 松	十七里五町	宮 崎	九十七里
久 留 米	十里十六町	鹿 兒 島	九十六里
柳 河 本	十四里十九町	沖 繩	三百七十七里
熊 本	三十二里十二町		

博多停車場

馬場新町にあり。九州線幹線中の主要驛にして二十萬の資を以て建築され、規模宏大、貴賓室を始め各種の設備間然する所なく、眞に本市の支關たるに恥ぢず、明治四十年中の成績によれば乗客四十七萬五千餘人、降客四十九萬五千餘人にして旅客來往の頻繁なる九州線第一位にあり。又貨物發送三萬六千八百餘噸、着驛三萬七千九十餘噸に達し、同年間收入賃金三十一萬餘圓にして九州線中只僅かに門司

驛に遜るのみなり。

鐵 道

明治二十二年十二月十一日博多久留米間の鐵道成り、開通式を舉行してより、地方の交通状態に一大變化を與へ、爾來鐵道の發達に伴ひて交通の便益を開け旅客の來往、貨物の輸送日に加はりて市の發展を促進せり、今各地に至る距離及び最大急行列車による所要時間を左に掲ぐ。

地名	距離	所要時間
東 京	七百五十五哩	三十二時
大 阪	三百九十九哩	十七時
門 司	四十八哩九	二時十五分
小 倉	四十一哩六	一時五十五分
長 州	八十四哩二	五時
若 松	三十六哩一	一時二十分
直 方	三十八哩三	一時五十分
二 日 市	九哩三	二十分
久 留 米	二十二哩六	一時
大 牟 田	四十三哩一	一時三十五分
熊 本	七十四哩	三時
人 吉	百二十八哩二	六時二十分
佐 賀	二十三哩七	一時十分
唐 津	六十四哩五	三時五十分
佐 世 保	七十三哩二	三時十分
長 崎	百六哩八	五時五分
鹿 兒 島	百八十八哩八	十時四十分

電 鐵

市内の交通機關としては、市外千代村より本市黒門橋迄三哩十鎖及吳服町より分岐して博多停車場に至る四十三鎖の電氣鐵道あり。該鐵道は福博電氣軌道株式會社の經營に係るものにして、明治四十二年九月資本金六十萬圓の内、二十四萬圓の拂込をなすと同時に工を起し今回落成を告げたるなり。線路は總て複線とし、新造車輛二十五臺を備へ凡そ二分時毎に發車せしむるを以て、市の東端より西端及び停車場間は絶へず電車の忙しげに駛するを見る。博多停車場に下車し、電車の便を借れば十數分時を要せずして共進會場、東西兩公園等に達するを得べし、尙ほ會社は引續き黒門橋樋井川間及び千代村箱崎間五十六鎖の線路布設工事に着手の筈なれば竣成の上は一層の利便を加ふべきなり。因みに發電所は市外比恵にあり英國製水管式汽罐二臺、同國製二百馬力及米國製百二十「キロワット」二臺の發電機を裝置せり。

軌道

北筑軌道株式會社の經營せる輕便蒸氣鐵道は、市の西部黒門より起りて早良郡を貫通し、更に糸島郡に入り進んで佐賀縣唐津に達し、又黒門より荒戸町、港町を経て福岡部海岸に沿ひ須崎裏町に抵る計畫にて着々工事を進めつゝあり。從來糸島郡地方との交通運輸は不完全なる馬車により之を便せしが、該軌道竣成の上は多大の便益を見るべし。

港灣

本市は古來幾多の歴史を有する博多灣に沿うて市街をなせり。同灣は東及北は粕屋郡、南は本市及早良郡、西は糸島郡により圍繞せられ、唯西北の一隅のみ玄海灘に開放せり。而して其開放せる灣口には玄海島、机島等ありて之を扼し波濤の侵入を防ぐのみならず、灣内に一大島殘島ありて再び之を扼し、殘島以東四面殆んど風波を防ぎ天然の碇泊所たるを失はず。港灣の周圍には東に粕屋郡の炭田あり、又た筑豊炭田の一部たる嘉穂郡には二十餘哩にして達すべく、南は日本三大大平地の一たる筑後川一帯の平地ありて農産物に富み、洵に天與の好地形たり。

博多港

博多灣の一角にあり。我國に於ける最古の外國貿易港なること世人の普く知るところなり。港灣として最好の位置を占むるに係らず。海港年々土砂に埋りて船舶の出入漸く不便ならんとするより、去る三十一年資本金二十五萬圓を以て博多築港株式會社を起し、市の補助を得て那珂川口より石堂川口に至る、對馬小路大濱町一帯の海岸四萬八千五百六十八坪を埋立て、繫船場の面積二萬二千九百五十坪を存し、且つ埋築地は官有荷揚場二千六百一坪、市街宅地三萬八千八百五十六坪、道路敷地九千五百九十九坪の設計して四十年漸く工事落成し總工費約五十萬圓を要せり。然るに該

設計たる最初大船舶收容の目的にあらず、規模極めて狭少なりし爲めに巨船の碇繋に便ならざるは頗る遺憾とするところなるも、八百噸以下の小汽船は優に内港に碇繋し得るを以て、貨物の揚卸に多大の時間と経費とを節約し、荷役の利便尠からず、築港完成後博多港に集散する、貨物は大半該港内に於てせらるゝに至れり。

貨客及出入船舶

博多港の貨客及出入船舶は、前記の如く築港狭少にして設備未だ全からざるに係らず、輸送上利便の位置に在るを以て其數漸次増加しつつあり。左に最近三箇年の出入船舶數を示さん。(汽船貨物は商業の部参照)

出 港

年 別	汽 船		西洋形帆船		五十石以上和船	
	隻數	噸數	隻數	噸數	隻數	噸數
明治三十九年	九	2,000	一	1,500	四	3,000
同 四十年	一三	3,000	一七	1,800	六	5,000
同 四十一年	二六	6,000	一六	1,800	七	5,000

入 港

年 別	汽 船		西洋形帆船		五十石以上和船	
	隻數	噸數	隻數	噸數	隻數	噸數
明治三十九年	九	2,000	一	1,500	四	3,000
同 四十年	一三	3,000	一七	1,800	六	5,000
同 四十一年	二六	6,000	一六	1,800	七	5,000

福岡港

同港は萬治二年以後享和二年に至る迄、藩主資を投じて經營せしものにして、波奈の大部分は當時埋築せし地なり。明治三十三年資本金十二萬圓を以て福岡築港株式會社を創立し市の補助を得て魚町海岸より港町海岸に至る築港埋築工事に着手せしも失敗に終り、巨萬の投資空しく水泡に歸せんとせしを以て、之を市に引受け埋築區域を縮小し、殘工事を完成して和船の碇船に便ならしめたり。

國港築設の議

博多港の位置たる、北は浦鹽斯德及元山より南は上海、香港に至る諸港に對して恰も扇の要たる地點にあり。而かも亞細亞大陸鐵道系の最尖端たる釜山とは實に呼應の間にあり。且つ西北に向ては仁川、鎮南浦、安東縣、大連、營口、天津、芝罘、西に向ては鎮江、上海、港口、香港等と自由に交通するを得べく地理上對亞細亞大陸貿易港として優勝の地位にある而已ならず、世界交通の進歩は彼のパナマ運河の開鑿將に十年を出でずして功成らんとし、之が竣工の後は大西太平洋南洋の連絡と共に世界環航の通路初めて成り、太平洋航過の船舶は益々頻繁を極むるに至るべく、且西伯利亞鐵道の開通は世界の交通線路に於ける運賃里程の短縮をなし、其荷客を浦鹽斯德より吞吐するに依りて日本海航行の船舶愈々多きを加へ、南北亞米利加の諸港と浦鹽、

清國、南洋との交通貿易は益々増進すべければ、我國は歐洲と米國、米國と亞細亞及南洋を連ぬる鍵鎖關門たる位置に立つを以て、是等の船舶に對し完全なる一の載炭給水港を設け坐ながら世界の商船を招致する策に出づるは極めて必要の事たるべく、然して其載炭給水港は博多灣を措いて他に求む可からずとし、國港建設の議漸く國家問題として爲政家の間に攻究されつゝあり。

海 路

博多港の航路は對州嚴原、佐須奈を経て韓國釜山に至るもの、壹州勝本を経て對馬に至るもの及壹州郷浦を経て平戸長崎に至るものを最とし、四隻の汽船該航路を航海し毎日便船あり。其他唐津、君津、關門、阪神、横濱等の沿海航路あり、又た博多灣内航路としては博多、西戸崎、志賀島、糸島郡、間に毎日小蒸流船往來し交通の便大に開けたり。

地名	博多港よりの距離	地名	博多港よりの距離
勝本	四十一哩	長崎	百三哩
嚴原	七十二哩	下關	六十哩
唐津	三十哩	岡山	百四十哩
呼子	三十哩	大坂	三百十哩
伊萬里	七十二哩	横濱	六百四十七哩
佐世保	八十二哩		

博釜間航路

本市に於ては對韓貿易振張の目的を以て去る明治三十八年より博多釜山間命令航路を開始し、運賃荷役賃等に大改正を加へて荷主の利便を圖ると共に、對馬運輸株式會社汽船天祐丸を指定して一航海金八十圓宛の補助金を交付し、毎月六回一六兩日の定期航海を爲さしめつゝあり。天祐丸は登簿噸數四百七十二噸にして船體大なりとせざるも、船内の設備は稍々整頓し乗客定員一等八名、二等三十五名、三等九十六名なり。然して博多港より釜山迄の乗客賃金は一等四圓五十錢、二等三圓五十錢、三等二圓五十錢なれば、關釜連絡船に比し殆んど半額の賃金に相當す。又た貨物運賃及諸掛は關門經由の運賃に比すれば一割乃至二割方低廉なる而已ならず、釜山より韓國鐵道沿線に輸送するものは、昨年特に該鐵道と交渉の末、補助流船積載貨物に限り高率の運賃割引を爲し其他貨物の速達、取扱の丁寧等本市監督の下に遺憾なく爲されつゝあれば貨主の利便多大なり。

燈 臺

博多燈臺は下對馬小路にあり、不動白色にして光達距離十里。明治十六年二月個人の建設經營になりしが、後博多財産區會の管理に屬せり。

旅 館

商工業の繁榮發達と共に來往の旅客頻繁を加ふることゝ、本市旅館は割合に發達せるが、尙ほ進で業務の改良發

展を期する爲め、四十一年十一月知事の認可を経て旅宿業組合を組織し、協力一致營業の改善に勉めつゝあり、殊に共進會開催に際しては多數の外客を迎ふる次第なれば、一層旅客の取扱に留意し設備に改善を加へて江湖の満足を買ふ事に苦心せるを以て、多少面目を一新するを得べく、又た協賛會にては共進會中旅館の不足を補ふ爲め、素人旅館を設け來客の利便を圖る計畫あれば旅客に對しては甚じき不都合なきを得べきか。尙ほ現今市内の旅館数は百一軒にして宿料を一部、二部、三部旅館に分ち居れるが、一部は特等三圓晝食一圓五十錢、一等二圓同一圓、二等一圓五十錢同七十五錢、三等一圓二十錢同六十錢、二等一圓五十錢同七十五錢、三等一圓二十錢同六十錢、四等一圓同五十錢、五等八十錢同三十五錢、三部は一等一圓二十錢晝食五十錢、二等一圓同四十錢、三等八十錢同三十錢、四等七十錢同二十五錢、五等五十錢同二十錢なり。市内及び市接續地旅館名を掲ぐれば左の如し。

- 一部旅館 晴雲館(上對馬小路) 博多屋、明治館、初音館、太田屋(以上新川端町) 旅順館、榮屋、海容館(以上橋口町) 朝倉屋、吾妻屋(以上天神町) 吉巳屋(下名島町) 紀之國屋(上新川端町) 福壽館、梅屋、丸明館、絲屋(馬場新町) 帽子屋(下洲崎町) 松島屋(中島町) 水野旅館(東中洲町) 紅卯(廿家町) 宮島館(川端町) 不老館、音羽屋、第二肥前屋(千代村)
- 二部旅館 梅本(天神町) 丸井旅館(下土居町) 比佐屋(上小山町) 米正(箱屋町) 吉田屋(荒戸町) 梅藤、飯塚屋(下對馬小路) 梅屋、福見

- 屋、川丈、明治屋、養老館(東中洲町) 千歲屋(上土居町) 吉原、加納屋(箕子町) 鶴田屋、第二高島屋、第三高島屋(上紙園町) 武田屋(本町) 萬歳館(橋口町) 菅蒲館(上新川端町) 海老屋(古溪町) 肥後長(古門戸町) 吉屋(上西町) 綿助(下吳服町) 板屋、藤屋(大濱町四丁目) 萬利(行町) 榊屋(下西町) 木村旅館、丸清館(以上萬行寺前町) 瀬戸伍(下須崎町) 米屋(下名島町) 櫻田館(上濱口町) 出泉屋、筑紫屋支店(聚柏村) 松隈旅館、松榮館、櫻草屋、岡松屋、鹿鳴館、旭館、石城館、丸晴館、筑後屋、吉田屋(以上千代村) 勝利館(大名町) 花田屋、玄海屋(以上中市小路)
- 三部旅館 池田屋、平田屋(以上大濱町) 小松屋、旭館(以上上小山町) 魚市(魚町) 油屋、綿屋、扇屋(妙樂寺町) 杉の屋(藥院町) 七輪屋(下店屋町) 車力屋、綱千屋(以上中興堂町) 豊後屋、藤本屋、大和屋(上東町) 魚屋(下鯛町) 川野屋、八百佐、角屋(以上馬場新町) 釘甚、山路屋、城島屋(以上下對馬小路) 吉田屋(海岸通三丁目) 鯛屋(上濱口町) 高瀬屋(西町) 鯛屋(瓦町) 田代屋(濱小路) 米屋、丸屋(上新川端町) 正木屋(上紙園町) 榮屋(下紙園町) 坂田屋(妙樂寺新町) 森田屋(御供所町) 藥籠屋、日田屋(金屋小路) 三奈木屋(下吳服町) 丸一屋(上辻堂町) 鍛冶藤(奈良屋町) 日吉屋(下西町) 山家屋(荒戸町) 肥後屋(古門戸) 龜屋(鯛町) 柳田屋(社家町) 嶋田屋(萬行寺前町) 田代屋(濱小路) 笠松屋(海岸通) 錦屋(聚柏村) 松屋、鶴屋、田代屋(以上千代村)

人力車

市内の人力車数は一千二百十四輛にして、賃金は五町以内は五錢とし、以上二町を加ふる毎に一錢を増す規程なり。尙ほ二人挽は定額の二倍、一日雇は一圓以内半日雇は六十錢以内、客待は一時間に付六錢とし、夜間又は雨雪泥濘の時は二割増、強風雨及雨雪の夜間並に乗客の指示に依り特に急激を要したる時は三割増とせり。然して右人力車賃金取締上福岡警察署にては常に市内營業の車夫をして詳細な

る賃金表を携帶せしむるにより土地不案内の乗客は就て規定の賃金を知るべし、又た博多停車場に於ては兼て人力車乗車券を發賣し不當賃金の請求を取締れり。

通信

郵便局所——郵便——電信——電話

人事の發達、商工業の進歩と共に郵便、電信、電話等の通信機關の利用頻繁を加ふるに至るは自然の理數なるべく、本市の通信事務は年一年に激増し、其郵便物集配數の如き縣下に於て第一位にあり、通信機關の繁閑はやがて地方の繁榮發達の度を測る尺度なりとすれば、此一事以て本市の發達を證すべきなり。

郵便局所

福岡郵便局は福岡橋口町にあり、現今二等郵便局なるる通信事務の繁劇なる點に於ては將に一等局を凌駕せんとし、且つ其所在九州の中央にありて主要の位置を占むるにより早晚一等局たるに至るべしと云ふ。又市内に左の三等郵便局を設置せるを以て通信上の利便甚だ多し。

- 新川端局 下新川端町 祇園町局 下祇園町
- 中石堂局 中石堂町 濱小路局 濱小路町
- 大濱局 大濱町二丁目 水茶屋局 筑紫郡堅粕村
- 東公園局 筑紫郡千代村 紺屋町局 紺屋町

- 唐人町局 東唐人町 港町局 南港町
- 大工町局 大工町 名島町局 上名島町
- 春吉局 筑紫郡住吉村

郵便

右の外郵便切手賣捌所百十五箇所、郵便函數百三十二あり。四十一年中福岡局郵便物取扱數は通常郵便引受九百五十萬三千二百九十五、配達六百三十五萬八千七百七十四、小包郵便引受三萬四千五百三十九、配達十萬四千八百四十七に達し、之を五箇年前に比すれば殆んど二倍以上の増加なり。

電信

同上電報取扱數は發信十三萬五千七百五十五通、着信十八萬五千八百六十八通、中繼信七十四萬二千三百三十五通、合計百六萬三千九百五十八通にして郵便物の如く激増を見ざるも年々増加しつつあり。

電話

電話交換局は東中洲町にあり加入者數八百九名機數九百八十二にして通話頗る頻繁を極め數十の交換手は晝夜手を休むるに遑なしと云ふ、電話線は架空裸線延長二百五十九里十九町四十八間、架空ケーブル線延長三里三十町二十八間、同心線二百六十六里十町五十七間に達し居れるが、更に改良して地下線とせる所あり。尙ほ博多停車場及吉塚停車場並に大濱町の三箇所自働電話を設置し、又た電話所は東

中洲電話交換局、橋口町福岡郵便局、大工町郵便局、東公園郵便局、唐人町郵便局内にあり。市内通話度数は不明なるも市外は一箇年二萬四千六百二十通話に達し、年々増加の有様なり。

官公署及組合團體

官公署——同業組合——産業組合——水産組合——
其他

官公署

本市は福岡縣の首都なるを以て諸官公署皆此地に設置さる重なる官公署其他左の如し。

名稱	所在地	名稱	所在地
福岡市役所	天神町	福岡縣廳	天神町
福岡地方裁判所	大名町	福岡區裁判所	大名町
福岡警察署	天神町	福岡監獄	須崎裏町
福岡鐵山監督署	土手町	福岡稅務所	上小山町
歩兵第三十五旅團司令部	大名町	歩兵第二十四聯隊司令部	大名町
福岡聯隊區司令部	須崎裏町	福岡憲兵分隊本部	大名町
博多稅關支署	下對馬小路	專賣局出張所	上小山町
福岡煙草製造所	東中洲町	福岡測候所	住吉村
福岡縣農事試驗所	住吉村	福岡小林區署	因幡町
福岡郵便局	橋口町	福岡電話交換局	東中洲町
博多停車場	馬場新町	博多商業會議所	東中洲町
福岡縣物産陳列所	須崎裏町	赤十字社福岡支部	須崎裏町
武德會福岡支部	大名町		

同業組合

本市の同業組合は重要物産同業組合九、準則組合二十一にして逐年隆盛に赴き斯業の弊害を矯正し利益を増進する上に於て成績の見るべきもの少しとせず、其組合名及事務所所在地左の如し。

重要物産同業組合

組合名	事務所所在地	組合名	事務所所在地
博多織物同業組合	大乘寺前町	福岡縣醬油醸造組合	大乘寺前町
筑前木蠟同業組合	堅粕村比恵	福岡縣肥料同業組合	東中洲町
福岡地方白米同業組合	萬町	福岡市吳服商同業組合	東中洲町
筑前輸出米同業組合	石城町	福岡縣度量衡同業組合	櫛田前町
福岡縣輸出米同業組合聯合會	石城町		

準則組合

組合名	事務所所在地	組合名	事務所所在地
表燒物業組合	社家町	福岡市文具商工組合	龜屋町
博多人形組合	土居町	福岡市色染業組合	上新川端町
博多絞同業組合	中石堂町	福岡市菓子製造業組合	橋口町
福岡市洋服商工組合	橋口町	福岡市金物商同業組合	古小路町
福岡市洋服商組合	下吳服町	福岡市金物商同業組合	箱屋町
福岡市旅館業組合	上新川端町	福岡市荷車製造組合	西方寺前町
福岡縣製糖業組合	下新川端町	福岡市鐵工業組合	行町
福岡市團扇製造業組合	川口町	福岡市酒類營業組合	東湊町
福岡市砂糖商同業組合	吳服町	福岡市印刷彫刻業組合	下名島町
福岡市裘具師組合	東中洲町	福岡市硝子業組合	古門戸町
福岡市洋物商組合	行町		

尙ほ注意組合に至りては頗る多數に上り居れるが其重なるものを示せば左の如し。

組合名	事務所所在地	組合名	事務所所在地
福岡市製靴業組合	上名島町	乾物商同業組合	中對馬小路

- 福岡木材商組合 瓦町 福岡市及接近市外製糸同業組合 箕子町
- 福岡市提灯商組合 廿家町 紡織物同業組合 下店屋町
- 福岡徳盛會(資器組合) 下土居町 小間物卸商愛榮組 行町
- 福岡市足袋同業組合 宮内町 福岡家具商組合 上西町
- 福岡市西洋家具業組合 下名島町 福岡市螺詰製造業組合 奈良屋町
- 福岡市竹細工業組合 橋口町 博多鉄製造組合 萬行寺前町
- 農具改良組合 北井町 延製製造業組合 停車場新道
- 福岡市漆器商工組合 東中洲町 特許業組合 橋口町
- 福岡市桶製造業組合 萬町 福岡市綿商組合 下新川端町
- 福岡市自轉車商組合 中島町 福岡市紙商組合 中島町
- 福岡市粉商組合 中魚町 福岡市生糸商組合 上西町
- 福岡市書箱商組合 中島町 福岡市米穀問屋業組合 下洲崎町
- 福岡市木問屋業組合 海岸通四丁目 福岡市同濟業組合 下洲崎町
- 福岡市魚仲買商組合 古溪町 福岡市細工人形製造業組合 中濱口町
- 福岡理髮業組合 船町 福岡市豆腐製造業組合 中對馬小路

産業組合

産業組合としては福岡度量衡原料購買組合(柳田前町) 福岡購買組合(紺屋町) 福岡焼酎販賣組合(東唐人町)あり。

水産組合

筑豊水産組合(下對馬小路) 伊崎浦漁業組合(伊崎浦) 福岡漁業組合(須崎土手町)の三つ。

其他

福岡酒造組合(東中洲町) 福岡市蠶糸業組合(地行東町) 福岡市茶業組合(箕子町)等あり。又た前項組合中製造業に屬するもの三十三組合は一昨年四月合同して福岡市工藝團隊聯合を組織し本市工藝の振起發達に勉めつゝあるが成績大に見るべ

きものあり。尙ほ販賣業に屬する二十五組合も四十二年五月一致聯合し、福岡市商業組合聯合會を組織して斯業の發展に勉めつゝあり。

遊覽

- 順路——四時の樂——承天寺——聖福寺——東公園
- 釜掛松——宮崎八幡宮——潮湯及水族館——崇福寺——濡衣塚——東長寺——萬行寺——櫛田神社
- 網敷天満宮——水鏡天満宮——宗湛茶室——警固神社——福岡城——西公園——鶴來島——光雲神社——益軒翁の墓——鳥飼八幡宮——住吉神社
- 愛宕神社——御膳立——菊池寂阿の墓——平尾山莊——太宰府神社——名島——香椎——西戸崎

福陵の地何ぞ遊子の心を牽くこと多き、博多は開津千七百餘年の歴史を藏し、福岡は三百年の幕政を語り、東は日本三松原の一なる千代の松原の白砂青松相連ること十里、長汀曲浦の眺めは言はずもがな、南は近く太宰府を控へて豊富なる史跡を存し、西は生松原遠く走り丘陵起伏して海に入る所、狂瀾怒濤雨に風に咆哮して奇巖怪石を彫り、海濱の眺望山野の遊樂、一として得られざるなし。

福博名所で見せたいものは、福岡大學潮湯晴心館、敵國降伏宮崎八幡元寇紀念碑日蓮銅像、荒津山から沖を眺む

津や玄界、志賀や殘島、開けたね、博多灣鐵道西戸の大築港、外にないぞ八千代の松原よんがいな（（一）が國サの替歌）

順路

本市及附近の神社佛閣に歴拜し名所舊蹟を探らんと欲せば左の順路に由るを便とす。

博多停車場——承天寺——聖福寺——東公園——醫科大學（釜掛松）——箱崎八幡宮——潮湯及水族館——崇福寺——濡衣塚——東長寺——萬行寺——櫛田神社——博多港——市役所

市役所——水鏡天神——宗湛茶室——警固神社——福岡城——西公園——光雲神社——金龍寺（益軒の墓）——鳥飼八幡宮——愛宕神社——御膳立——住吉神社——博多停車場

四時の樂

春を魁くる梅が香より豊年のこるこの雪景色に至るまで、或は花を尋ね或は氣を養ふ遊び多かる中に其重なるものを左に摘記す。

梅（西公園）桃（西公園）櫻（西公園）躑躅（下警固中尾別邸）
藤（荒戸町小田部、櫛田神社、東公園）牡丹（倉所町中西）
菖蒲（中庄岡本）萩（聖福寺内虚白院）紅葉（下警固磯野別邸）
菊（東公園内百花園、大名町松本別邸、濱町原別邸）松

（（一）向濱（松茸）粕屋郡香椎、同須惠、筑紫郡大野村（汐干））

（箱崎、荒津瀉、鴨來島）海水浴（伊崎浦、箱崎、西戸崎、津屋崎）

承天寺

辻堂町にあり、駿河の人辨圓（聖一國師）台教を學び禪乘に入り、入宋七年、仁治二年歸朝して崇福寺に入り、翌三年承天寺を建立す。後辨圓京都に請せられ後深草及龜山兩帝菩薩戒を受けさせ給ひ、鎌倉の執權北條時頼亦之に歸依して世の尊崇淺からず、當時承天寺は西海の巨刹として山門の隆盛並びなかりしといふ。今巨勢金岡、兆殿司、古法眼の佛畫、無準の達摩等を藏す。

聖福寺

金屋小路にあり、備前の人僧榮西入宋して天台山上に學び契悟する所あり、再航して歸るや、建久三年香椎宮の側に報恩寺を起し初めて菩薩大戒の布薩を行ひ、六年鎌倉幕府の允許を得て聖福寺を開けり。後鳥羽天皇即ち「扶桑最初禪窟」の親翰を賜ひ其額今に存す。此寺往昔は頗る宏壯なる寺院なりしも、中古數回兵燹に罹り傳來の什物多く焼失せり。寺内に仙崖の居りし虚白院あり、庭前の萩見るべし。

東公園

東公園は千代松原にあり明治十年之を開く。眺望の壯美なく、遊樂の機關整はざるあるも、白砂青松遠く連り風清く

氣澄み真に閑靜なる別天地にして散策の好適地なり。園内に元寇記念碑、龜山天皇の御銅像、日蓮上人銅像、元寇記念館あり、園内崇高の氣溢る。九鐵吉塚驛より二町。

釜掛松

天正十五年豊臣秀吉島津征討の際博多に留まりし時、千利休が雲龍の小釜を松が枝に懸け、松葉を焚き茗葉を煮て秀吉を請せしといふ釜掛の松は醫科大學内にあり。

○宮崎八幡宮

官幣中社宮崎宮は箱崎町にあり、天平勝寶三年の創建にして玉依姫、神功皇后、八幡大神を奉祀す、今の社殿は天文年中大内義隆の建立に係り、樓門は文祿年中小早川隆景の建立する所にして一本の釘を用ひず、醍醐天皇延喜二十一年、敵國降伏の四字を親書して宮に納め給ふ、都て三十七枚、紺紙金字、紙幅各々方六寸餘、千古の下なほ光輝あり。此地千代松原中にあり、境内の風光海濱の眺望共に絶佳、今又神苑會の設けあり。

潮湯及水族館

宮崎海濱に潮湯抱洋閣あり眺望佳にして遊宴に適す、之に相對して水族館あり歐米最新式のバナラマ式に則りて設備し、放養池には大小各種の魚族潑測として美觀を極む。

崇福寺

仁治元年筑前の人湛慧崇福寺を太宰府の横岳に建て辨圓を

請じて主とす、依て横岳山と稱す。寛元元年承天寺と共に官寺に列せられ、天正十四年七月岩屋落城と共に寺亦兵燹に罹り、傳來の名器灰燼に歸し寺觀久しく廢る。黒田氏入國と共に松原に移轉し藩侯の菩提所とせられ、塋域に孝高長政の塋及び藩主歴代の碑あり。人參畑の媪さんとして有名なる女丈夫高場蘭、刺客來島恒喜の墓亦寺内に在り。

○濡衣塚

石堂橋の畔にあり。傳説に言ふ、聖武天皇の御代佐野近世筑前守にて下り後妻を迎へしが此後妻は先妻の出なる女を憎み、亡き者にせんと海人を語らひ、京の姫君が衣を盗みたる旨訴へさせたるにぞ、近世之を聞いて大に怒り女の室に入りたるに、海人の言葉に違はず海人の衣を引き被りて臥せ居たり。是れ女の熟睡を見計ひ繼母の爲したる仕業なりしが斯かる企のありとも知らず我子乍ら淺間しの振舞やと即座に女を殺しぬ、翌年の忌日女は父の夢に見えてぬき着する其たばかりの濡衣は長きなき名のためしなりけり

濡衣の袖より傳ふ涙こそなき名を流すためしなりけり
二首の歌を詠じさめくと泣きしにぞ、父は初めて冤罪なりし事を悟り、供養の爲め博多の地に七堂を建立し其身は出家し肥前松浦山に籠り松浦上人と呼ぶ。されば無き名を負ふことを濡衣着ると言ふとぞ。七堂とは普賢堂、辻堂、

奥堂、萱堂、脇堂、玩堂及び石堂にて今脇堂、玩堂は跡もなし。

東長寺

上小山町にあり、大同元年弘法大師唐より歸朝の時博多津に帶錫し一寺を開き、密教東漸長く將來に傳はらんことを欲して東長寺と稱すといふ。國主忠之の墳塋寺内にあり、滿政時代一宗の觸頭として山門頗る榮えたりき。寺内の大師堂には弘法大師自作の大師木像を安置し、陰曆三月の例祭には博多獨樂の露店軒を並べ參詣人甚だ多し。

萬行寺

祇園町にあり西派本願寺に屬す。山城宇治の人七里隼人本願寺逆如上人に歸依し、剃髮して性空といふ。天文十年普賢堂町に寺を開き、二世理慶に至り馬場新町に移り、寛文年中今の處に移れり。黒田氏入國の時領内一派の觸頭たらしむ。寺内に龍華孤兒院あり憐むべき幾多の孤兒を收容せり。

榊田神社

榊田神社は社家町にあり。大若子命、天照太神、素盞男命を合祀す、元弘三年菊池寂阿探題北條英時を博多に攻むるや、社前に抵りて馬進まず、寂阿大に怒り神前の扉を二矢まで射たるに馬進みけり。境内に大銀杏樹あり又唐船の纜を繋ぎしといふ船繋石あり。毎年舊曆六月祇園祭を執行し山笠の催あり近郷近在よりの參詣者多く雜踏を極む。本

社は博多の産土神として市人の尊崇頗る深く、彼の胡瓜の切口の同神社紋章に酷似するを以て神明に對して畏多しとなし、舊六月に入れば敢て口にするなし。

網敷神社

下土居町にあり、菅公左遷の際袖の港に上陸せられし時敷物なかりし故、海人船綱を輪の如く束ねて參らせたり。後ち其地に社祠を建て網輪天神又は網敷神社と崇め祭る。今町名を網場といふは網輪を訛りたるものなりといふ。

水鏡天満宮

天神町にあり、菅公左遷のとき袖の港に上陸し四十川に臨み、流水に姿を映して心中の惱みに容姿の衰へたるを嘆せられたりと傳へ、後人其地に社祠を建立して菅公を祠り、依て水鏡天満宮又は姿見天神といふ。四十川の地詳かならず後世今の地に移し祀りたるものなりといふ。

宗湛茶室

豊太閤再度征韓の際天正二十年名護屋よりの歸途博多に驛まるや、時の豪商神屋宗湛豊太閤以下諸豪を奈良屋町の私宅に請じて盛宴を張り、宴終つて更に茶席を開きたりき。此由緒深き建物は今は天神町平岡氏別邸内に移され、閑日月ある英雄の面目を想起せしむ。

警固神社

小島馬場にあり、神直日神、大直日神、八十柱津日神を祀

る。初め福岡にありしも福岡築城の際今の所に遷せしなり。神功皇后征韓の時軍衆を警固し勝利を祈り給ひしより警固神社と稱すといひ、或は古來警固所の在りし地に祭りしを以て此名ありといふ福岡部の産土神にして二十五年毎に遷宮を行ひ、今の神殿は明治四十二年九月遷宮に際し改築したるものなり。

福岡城

慶長五年黒田長政筑前五十二萬石を領して入國し翌六年福岡の地を相して築城し、工役七年にして成る、舞鶴城と稱す。南は山を負ひ北は海に臨み四方繞らすに濠を以てし、周回一里餘要害の地を占む。而も時勢の變遷は古湮空しく白蓮の香りに名を留め花見、月見の兩櫓に春秋の眺なく、今僅に本丸を存す、廢藩置縣の後成内に縣廳を置き、今は歩兵第二十四聯隊及び歩兵第三十五旅團司令部ありて九州男子の精銳を養ひ以て國家の重きを爲す。西公園の一角に其名を存す。

西公園

西公園は荒津山にあり、明治十四年に開園せり。古來荒津の名は博多より荒津山に至る一帶の總稱なりしが今は此一角に其名を存す。

神さぶる荒津の崎によする波

男波女波山脚を洗ひて磯には貝を拾ふべし是れ荒津瀉な

り。眸を放てば博多灣内外の風景一幅の畫帖を開きたる如く、後は福岡市街を瞰下して遠く肥筑の遠巒秀峰を望む、

眺望の廣潤なるは言はずもがな、園内櫻樹を植うる百數十株、陽春四月紅雲凝りて山を埋むるの時市民の歡樂場たり。

山上に光雲神社あり、結構壯麗を極む、又東宮御手植の松

櫻、日清日露兩戰役記念碑あり。

鶴來島

鶴來島は荒津の海上僅かに八町周回五町に満たざる一小島にして老松數幹潮風に撓む。島内魚介に富むを以て干潮に乗じて來り遊ぶもの多し。

光雲神社

光雲神社は荒津山西公園内にあり。舊藩祖孝高長政を祀り、其法諡龍光院興雲院の各一字を採り光雲神社と稱し又御兩公様と稱す。元と福岡城本丸内に祠を建て祭祀し來れるを明治四年鐵砲町に遷じ、四十二年四月荒津山上の新殿に遷す。社殿の造營結構壯麗を極め美觀言はん方なし。寶物には朝鮮陣の際長政の用のし水牛の兜其他兩公以下歷代國主の武具を藏す。

益軒翁の墓

碩儒貝原益軒翁の墓は西町金龍寺にあり、一片の碑文は其高弟竹田春庵の撰なり、同寺は元怡土郡高祖城主原田氏の菩提所として同地に在りしが、黒田氏入國の後荒津山に移